

平成29年度
事業報告書

社会福祉法人クムレ

平成29年度 社会福祉法人 クムレ 法人事業報告

1 総括

29年度4月より社会福祉法の改正及び施行により、社会福祉法人として新たな体制へ転換し、地域社会への貢献や隙間の支援を私たちの責務として改めて社会へ発信していく必要性が高まってきました。

社会福祉法人クムレ（以下クムレ）では、障がい者、高齢者、子どもといった対象を区分して支援する体制から、地域に根差した支援へと転換への取り組みを継続しており、今期は、倉敷・水島2拠点体制へ移行し、「80・50」といった介護の問題から「80・50・25・5」と多世代の支援に向けた体制づくりへと向けて支援・組織を転換しました。

また組織経営のガバナンス強化についても、執行役員会での役員が認識合 わせを行いながら、法人の運営を行っていくことや外部監査導入に向けて、コンサルテーションを受けながら体制づくりに取り組みました。

これらの政策動向を、利用者の生活とクムレの社会福祉事業の安定的運営につながる内容として捉え、第2期中期計画に掲げた、切れ目のない支援体制を構築するとともに、社会の進む方向に向かって事業を展開していく為に、事業再編を含めた体制整備を実施しました。

2 平成28年度の法人全体の具体的な事業成果

① 拠点の組織体制の確立

事業部から拠点単位の支援に転換すべく組織や役割を拠点ごとにし、拠点統括のもと法人理念の実現に向けての体制づくりを行いました。

② 研修及び人事制度の新制度移行

拠点ごとの支援に向けての体制づくりの一環として研修についても拠点での体制づくりを進め、新たに導入したキャリアパス対応型の人事制度もスタートし、職員の処遇の改善へ取り組みました。

3 最後に

平成29年度は、法人の大きな組織としての転換点になりました。「我が事まるごと地域共生社会の実現」に向けた体制づくりを進め。平成30年度に向けて、各拠点での支援コンセプトづくりを進め、組織の役割、支援の方向性、地域との協働について確認をする年でもありました。

30年度に向けて、法人の福祉サービスの質を高めるとともに、クムレの強みでもある多機能の支援で、今後地域での他問題家族の支援や地域の活性化をあわせて継続的に取り組んでいきたいと考えております。

皆様のご理解とご支援を今後ともよろしくお願ひいたします。

職員の状況

単位：人

	H30.3.31	増減	H29.3.31	H28.3.31	H27.3.31
正規	208	▲6	214	201	196
A	18	▲2	20	24	27
B	145	18	127	125	141
派遣	22	5	17	11	10
合計	393	15	378	361	374
平均年齢	33.5		33.8 歳	32.8 歳	32.0 歳
平均勤続年数	6.1 年		5.5 年	5.1 年	4.7 年

※平均年齢、平均勤続年数の対象者は正規職員のみとする。

設備投資

事業所	内容	金額
きらり児島	移転改修工事	4,806 千円
あしたば	ウッドデッキ・フェンス工事	3,372 千円
コトノハ	ログハウス設置工事	4,299 千円
コトノハ	内部改修工事	4,295 千円
保育3園	受変電設備 改修工事	8,640 千円
小さくら保育園・C久山	第2園庭 アベット除去工事他	11,836 千円
小さくら乳児保育園	通路新設工事他	12,751 千円
小さくら乳児保育園	1F保育室 床張替工事	1,002 千円
共同生活援助	上東けやき改修工事	3,781 千円
倉敷学園	浴室改修工事	4,536 千円
倉敷学園	特殊浴槽	7,698 千円
きらり中庄	車両購入	3,533 千円
コトノハ	車両購入	3,172 千円

※1,000千円以上の案件に限る

資金調達

平成29年度に新たな資金借入はありませんでした。

新規事業

平成29年度に実施した新たな事業はありませんでした。

人財育成

①リクルート活動

内容	開催日
新卒者向け法人説明会	平成 29 年 6 月 3 日 (土)
新卒者採用試験 (夏期) 第 1 回	平成 29 年 7 月 8 日 (土)
内定者懇親会	平成 29 年 9 月 30 日 (土)
新卒者採用試験 (秋期) 第 2 回	平成 29 年 10 月 15 日 (日)
新卒者採用試験 (秋期) 第 3 回	平成 29 年 11 月 12 日 (日)
内定式	平成 30 年 1 月 6 日 (土)
新採用職員宿泊研修	平成 30 年 2 月 14 日 (水) ～2 月 17 日 (土)

② 法人内研修

・階層別研修

マネジャー、サブマネ・チーフ、リーダー・キャップ、一般、新卒者職員のキャリアに応じ、必要な知識を身につけるため、それぞれ年2回実施している。

・専門研修

保育、発達、自立の係る各事業で、業務を遂行する上で、必要な知識等の研修を実施している。

・各事業所内研修

専門研修との相互補完を目的とし、各事業所で計画した事業所単位の特性に応じた研修を実施している。

③ 実践研究発表会

目的：日常業務の中の問題や課題を整理し、問題解決を行う自己研鑽及び発表の場とする。

日程：平成 30 年 2 月 11 日 (日) 9:30～16:20

会場：水島愛あいサロン

参加対象者：全正規職員

発表：16 題 (平成 28 年度 36 題 ※事業グループ別会場にて実施)

水島拠点 9 題

倉敷拠点 7 題 ※両拠点同一会場にて実施

④ 5 法人合同研修会

目的：約半年に1回クムレを含む、友好5法人が、それぞれで行っている先駆的な取り組みについて発表し、自己研鑽及び双発の場とする。

- i. 日程：平成29年6月30日（金）～7月1日（土）
主催：社会福祉法人こうほうえん（鳥取県）
- ii. 日程：平成30年1月19日（金）～1月20日（土）
主催：社会福祉法人クムレ

理事会・評議員会の開催状況

回数	開催日・場所	内容
第1回 理事会	平成29年5月26日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成28年度事業報告の件 第2号議案 平成28年度決算の件 第3号議案 定時評議員会開催の件 第4号議案 諸規定改廃の件
第2回 理事会	平成29年6月22日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 理事長（業務執行理事）選定の件 第2号議案 諸規定改廃の件
第1回 定時評議 員会	平成29年6月22日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成28年度事業報告の件 第2号議案 平成28年度決算の件 第3号議案 新役員選任の件 第4号議案 報酬等の支給の基準 （評議員・役員報酬規程）の件 第5号議案 諸規定改廃の件
第3回 理事会	平成29年8月21日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成29年度第一次補正予算の件 （上期賞与支給について） 第2号議案 社会福祉施設等整備事業計画書 （平成30年度保育所整備分、防犯対策強化 整備分）応募の件 第3号議案 諸規程改廃の件
第4回 理事会	平成29年11月2日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 岡山県DV防止対策等に係る事業受託の件 第2号議案 諸規程改廃の件
第5回 理事会	平成30年1月31日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成29年度第二次補正予算の件 （下期賞与・保育処遇改善等加算給付について） 第2号議案 居住支援法人の指定等について 第3号議案 事業所管理者変更について 第4号議案 諸規程改廃の件

第6回 理事会	平成30年3月15日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成29年度 第三次補正予算(案)について 第2号議案 平成30年度 法人事業計画(案)について 第3号議案 平成30年度 法人予算(案)について 第4号議案 平成30年度 新組織(案)について 第5号議案 諸規程改正(案)について 第6号議案 第三者委員選任(案)について 第7号議案 定款変更(案)について 第8号議案 臨時評議員会開催について
第2回 臨時評議 委員会	平成30年3月23日 倉敷学園 2階会議室	第1号議案 平成29年度 第三次補正予算(案)について 第2号議案 平成30年度 法人事業計画(案)について 第3号議案 平成30年度 法人予算(案)について 第4号議案 平成30年度 新組織(案)について 第5号議案 諸規程改正(案)について 第6号議案 第三者委員選任(案)について 第7号議案 定款変更(案)について

法人行事

- (1) 辞令交付式 平成30年4月2日(月)
- (2) 新年互礼会 平成30年1月4日(木)

現況に関する重要事項

(1) 地域公益活動について

- 地域における子育て支援活動の実施(水島地区わんぱく広場への参加・育メン広場の開催)
- 地域行事(祭り)へ参加(和太鼓・夢kōi・警備ボランティア)
- 子育て支援イベント「みずしまキッズ」を開催
- エコキャップ収集
- 清掃活動(事業所周辺、公園)
- 出張相談(児島児童館、水島児童館への出張相談)
- すきっぷ教室への職員派遣
- 倉敷市障がい福祉課との連携によるすきっぷ教室への職員派遣

- 1.6 健診要観察児フォロー教室への職員派遣
- 清掃活動（事業所周辺、公園）
- ボランティア受け入れ
- 実習生の受け入れ
- 清掃活動（町内、事業所周辺、公園）
- 地域行事（祭り）へ参加
- ボランティア受け入れ
- 地域住民へ啓発活動（フォーラム・座談会開催・講演会実施）
- クラコト フェスティバル開催
- 無料血圧測定
- 安全パトロールへの参加

余裕資金使途について

今後、主な使途は次の通り予定しております。

施設整備関連

事業名	時期	概算費用	その他
小ざくら保育園	未定	50,000 千円	
あしたば改修工事	未定	400,000 千円	平成 5 年竣工 築 23 年経過
児童発達支援センタークムレ、児童家庭支援センタークムレ改修	未定	400,000 千円	築 42 年経過
グループホーム 増設	未定	40,000 千円	あしたば改修に 伴う受け入れ先 確保
きらり倉敷、玉島 移転	未定	10,000 千円	

地域公益活動関連

- ※無料又は低額料金でのサービス
- ※生活困窮者支援
- ※第三者評価継続受審
- ※人財育成勉強会開催（社内・社外向け）
- ※地域の耕作放棄地田活用（地域の高齢者に代わり障がい者支援をかねて実施）
- ※地域住民・利用者・保護者の憩いの場を提供（ひろばにじいろ・栗の家）

事務局

【事業実施概要】

平成 29 年 4 月 1 日に施行された社会福祉法改正への対応について、経営組織のガバナンスの強化のために、関連規程の整備、外部監査導入に向けた体制整備を実施した。また、人材確保が難しくなる中、質の高い支援をするためには理念に共感し主体的に行動ができる人材の確保が必要である。その為に、人材確保から人材定着までの体制を構築した。さらに、制度改正の動きがめまぐるしく変化する中、法人が制度に遅れることなく、制度に先んじて取り組みを進めるために、事業所の課題の把握と予算執行状況の随時見える化を行なうとともに、事業所のサポート体制を構築した。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	補助金を活用し法人の運営の安定化	行政・民間の補助金をリストアップし申請する。	岡山県共同募金会他、施設整備関係の補助金において 6 件、総額 788 万円を確保した。
2	人材確保から定着支援までの体制を作り離職率を 10% 以内にする。	採用活動の見直しと年 4 回程度の同期会を栗の家で開催する。	活動成果として H27 年度離職率 17.9% H28 年度離職率 %
3	会計監査に向けた管理の改善	チェックリスト作成 第 2 四半期までに改善	宮崎栄一公認会計士の指導のもと、岡山県社会福祉法人経営労務管理改善支援事業を利用した経営改善を図ると共に、会計監査人設置のための予備調査を実施した。

4	事務員の育成	職員が知つておくべき情報を過不足なく伝えていく手段として、事務連絡会を組織し、毎月の研修を実施した。
---	--------	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	有休の計画的付与を年間付与日数の半分実施する。	毎月の勤務表に明記する	業務進捗管理が必要である。
2	週2日定時退社	週の業務進捗確認をする 業務分担と業務終了の確認をする。	前年度末に実施した業務時間調査をふまえ、業務分担と業務改善を実施した。繁忙期は、退社時間が遅くなる。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	5S活動により事務所が整理されている。	平成29年4月に不要なものを整理し、毎日実施。	計画通り実施したが、ファイリング等からの抜本的見直しが必要である。
2	各拠点のBCP作成にかかる協力	拠点会議への参加	拠点会議には参加しているが、事業所独自のBCP作成に至っていない。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
----	------------------	-------------------	------

1	職員満足度調査の結果を受けて改善計画を立案	平成29年5月以降改善計画を立案し経営会議で承認を得る。	未実施
---	-----------------------	------------------------------	-----

【人員体制】

職員数 (常勤換算)		総務	財務	労務	計
	正規職員	2	2	1	5
	パート・派遣			0.9	0.9
	計	2	2	1.9	5.9

【年間研修計画】事業所内研修に限る

毎月	事務連絡会（経営情報から議題を1つ選択し開催）
----	-------------------------

【年間行事計画】

4月	辞令交付式・入社式
5月	理事会・評議員会
6月	法人説明会、理事会・評議員会
7月	採用試験
8月	理事会
9月	内定者交流会
10月	採用試験
11月	採用試験、5法人合同研修会（クムレ主催）、理事会
12月	なし
1月	内定式、第三者報告会、理事会
2月	新採用職員合宿研修
3月	理事会・評議員会

水 島 抱 点

- 幼保連携型認定こども園 小ざくら保育園
- 小ざくら乳児保育園
- 小ざくら夜間保育園
- 小ざくら小規模保育園
- 小ざくら地域子育て支援センター
- 母子生活支援施設 倉敷市鶴心寮
- 児童家庭支援センタークムレ
- 児童発達支援センタークムレ
- 児童発達支援事業所 きらり水島
- 児童発達支援事業所 きらり玉島
- 指定特定相談支援事業所
指定障がい児相談支援事業所 てとて

幼保連携型認定こども園 小ざくら保育園

【事業実施概要】

幼保連携型認定こども園へ移行し3年目が終わり、今期は保育と教育の一体的な提供に向けての保育カリキュラムを新保育教育要領にあわせて見直しを行いました。

発達支援の事業所とは、インクルーシブ保育への取り組みとして、子どもの交流や事例検討を通じて職員間の共通の取り組みとして、実践研究等でも報告ができました。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	3歳児のグループ活動の中で、4、5歳児の成長発達にあわせた保育活動に取り組む。課業では一人ひとりの可能性を伸ばすような活動に取り組む	・年間保育計画の見直し ※キャップ会を中心に見直しを行い改善した。 ※乳児との延長保育の共同体制を作り、実施した	6月までに見直しを行い、改善しながら実施
2	支援計画のシンプル化 業務のシステム化	・保育プラン書を見直し、簡潔な内容で伝わりやすいものにした。	5月までに見直し実施した。
3	保護者との協働 ・子どもの育ちの理解 ・気になる子の受容支援	保護者会活動の支援と、保護者参加の機会の設定	1月に、保護者参加の作業日を設定し共同で子どものいすなどを作成した。
4.	地域との協働 ・小学校との連携 ・地域団体との交流		
5.	保護者支援に関わるチームプレイへの取り組み	保護者への情報提供や支援を実施、（三者懇談等）	年間を通じて必要な時期に実施

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容

1	有給の消化率の向上 (計画消化の実施)	付与日数の半分を計画消化する	概ね5割達成
2	定時退社	定時消灯する(週2) 責任者を決めて実施する。	個別の声掛けをしたが、一部改善されない職員がいた。
3	クムパートナーの育成研修の実施	2~3年目の職員研修の実施 (マニュアル等の理解)	年2回実施

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	BCP策定にあわせたマニュアルの整備	BCPの計画作成	2月末までに完成
2	不審者対応訓練の実施	年1回(園児と一緒に実施)	警察署と連携して実施
3	感染症やアレルギーに関する保護者を巻き込んだ活動を行う	地域の子育て支援の中での実施や保護者の試食会等の機会を通じて実施	6月、7月で各一回実施

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	事業計画や保育方針について説明の実施	各行事の機会を通じた説明を実施 (行事ごと)	5月参観日似て実施
2	行事アンケートの実施	保護者アンケートと連動した満足度向上の取り組み	未実施 次年度メール等で対応
3	健康増進活動(早寝・早起き・朝ごはん)	食育担当と保護者を巻き込んで実施 アンケートにて評価(通年)	アンケート集計を実施し8月に手紙で周知した。

【施設整備】

番	達成目標(何を、どのレベル)	実施計画(いつ、どのような方法)	実施内容
---	----------------	------------------	------

号	ベルまで)	うな方法で)	
1	園庭スペースの活用	エリアを設定し、遊具等をレイアウトする	同様
2	中庭の活用	環境整備の実施	第2園庭の整備に切り替え植樹等の環境設定の実施
3	電源設備の更新	高圧充填設備と付帯工事含めて実施	2月末までに完了

【利用者数・職員配置】

項目/月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
1号	3歳児分	実績	5	5	6	7	7	10	10	12	12	13	14	15	15	-	116	-
		計画	5	5	5	6	6	6	7	7	8	8	8	8	8	7	79	37
		H28年度実績	8	9	9	9	9	9	8	9	10	10	10	10	10	5	110	6
		H27年度実績	5	3	2	2	2	4	3	3	4	5	6	8	8	7	47	69
		実績	9	9	9	12	12	10	9	9	9	9	9	8	8	-	114	-
		計画	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	-3	132	-18
		H28年度実績	6	8	8	8	8	9	9	9	8	8	7	7	7	1	95	19
		H27年度実績	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	112
	4歳児分	実績	56	56	56	56	56	53	53	52	52	52	52	52	52	-	646	-
		計画	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	-3	660	-14
		H28年度実績	52	52	51	51	52	51	51	52	52	51	52	50	50	2	617	29
		H27年度実績	49	49	49	51	53	53	52	51	50	51	50	49	49	3	607	39
		実績	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	-	5	-
2号	1・2歳児分	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
		計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
		H28年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
		H27年度実績	17	17	18	17	15	12	13	13	14	13	14	15	15	-14	178	-173
		実績	56	56	56	56	56	53	53	52	52	52	52	52	52	-	646	-
		計画	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	-3	660	-14
		H28年度実績	52	52	51	51	52	51	51	52	52	51	52	50	50	2	617	29
		H27年度実績	49	49	49	51	53	53	52	51	50	51	50	49	49	3	607	39
	3歳児分	実績	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	-	5	-
		計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
		H28年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		H27年度実績	17	17	18	17	15	12	13	13	14	13	14	15	15	-14	178	-173
		実績	51	51	49	47	47	46	44	45	45	45	45	44	44	-	559	-
3号	標準	計画	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	-10	648	-89
		H28年度実績	62	62	62	61	61	62	62	60	60	59	59	59	59	-15	729	-170
		H27年度実績	52	55	56	56	57	56	57	56	55	55	54	54	54	-10	663	-104
		実績	1	1	2	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	-	18	-
		計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18
		H28年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		H27年度実績	9	8	8	8	7	7	7	8	8	8	7	7	7	-6	92	-74
	3歳児分	実績	1	1	2	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	-	18	-
		計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		H28年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		H27年度実績	9	8	8	8	7	7	7	7	8	8	7	7	7	-6	92	-74
		実績	123	123	123	117	117	115	116	117	118	119	119	121	121	-	1,428	-
4号	標準	計画	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126	-5	1,512	-84
		H28年度実績	112	111	110	109	109	109	109	109	109	107	108	108	108	13	1,310	118
		H27年度実績	87	87	87	87	92	96	95	95	95	94	94	94	94	27	1,103	325
		実績	3	3	3	4	4	4	5	4	3	2	2	2	2	-	39	-
		計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	39
		H28年度実績	4	4	5	7	7	7	7	7	7	9	10	10	10	-8	84	-45
		H27年度実績	28	28	26	26	20	17	18	18	18	19	19	19	19	-17	256	-217
	利用率	当年度	248	248	248	246	245	240	239	241	241	242	243	244	244	-	2,925	-
		計画	251	251	251	252	252	253	253	254	254	254	254	254	254	-10	3,031	-106
		H28年度実績	244	246	245	245	246	247	246	246	244	246	244	244	244	0	2,945	-20
		H27年度実績	248	247	246	247	247	245	245	243	244	245	245	246	246	-2	2,948	-23
		当年度	97.3%	97.3%	97.3%	96.5%	96.1%	94.1%	93.7%	94.5%	94.5%	94.9%	95.3%	95.7%	95.7%	-	95.6%	-
実績合計	利用率	H28年度実績	95.7%	96.5%	96.1%	96.1%	96.5%	96.9%	96.9%	96.1%	96.1%	95.3%	95.7%	95.7%	95.7%	0.0%	96.2%	-0.6%
		H27年度実績	97.3%	96.9%	96.5%	96.9%	96.1%	96.1%	96.1%	96.1%	95.3%	95.7%	96.1%	96.5%	96.5%	-0.8%	96.3%	-0.7%

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	アレルギー対応研修 クムパートナー研修	アレルギー児の状況と対応について OJTへの取り組みと確認事項
5月	安田式研修	運動遊びの取り組み方について
6月	衛生管理研修　歯の研修	歯磨きの指導の仕方について
7月	プールの管理について	プールの衛生管理と安全確保について
8月		
9月	防災研修	避難訓練時の対応の確認の実施
10月	運動会への取り組み方	保育者としての役割や手本について
11月	感染症対策研修	感染症対策について
12月		
1月	保育の自己評価	保育の自己評価と振り返り
2月		
3月		

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	入園式　春の遠足	在園児対象
5月	参観日　保護者会総会(説明会)　花祭り　各検診　懇談	在園児　保護者対象
6月	各検診　懇談	在園児　保護者対象
7月	七夕会　プール開き お泊り保育　港まつり	在園児対象
8月	参観週間　夏季休暇(一号)　プール納め	在園児対象
9月	参観日　秋祭り お月見会+祖父母参観日	在園児対象 在園児　祖父母対象
10月	運動会	在園児対象
11月	園足	在園児対象
12月	発表会　クリスマス会　冬期休暇	在園児対象
1月	音楽会	在園児対象
2月	節分会　2歳参観日　懇談	在園児対象
3月	ひな祭り会　卒園式　春期休暇	在園児対象

小ざくら乳児保育園

【事業実施概要】

乳幼児期からの愛着形成を意識して、園と家庭が一緒に子どもの成長発達を温かく見守つていけるように、ウエルカム保育や保育プラン書の工夫を行った。時に育児や発達に関する相談に寄り添いながら、日頃のコミュニケーションを大切にしていくことで、信頼関係を築くことに繋がっている。地域の方々（地域の親子・お年寄り）を伝承行事に招き、交流をもつことで子どもや職員も地域の方々と関わる機会となった。

【事業詳細】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<ul style="list-style-type: none">・年齢発達に沿った生活や遊びの環境をつくり、評価・課題を出して実践する・子育てG（保育）と発達Gの公開保育	<ul style="list-style-type: none">・クラス、年次で振り返り・毎月：職員会議で確認・幼児との調整実施（調整会議）・キャップを中心に施設体験を実施	<ul style="list-style-type: none">・毎月の職員会議で報告・確認し、振り返りや次への課題を意識して取り組めるようにした。・計画的に実施出来た。
2	<ul style="list-style-type: none">・保育プラン書の見える化をし、園と家庭が共通の指標をもって育ちの共通理解をする	<ul style="list-style-type: none">・保育プラン書の見える化を月齢に合わせて実施・見守り児、気になる子どものケース検討会議	<ul style="list-style-type: none">・園と家庭が共通の指標をもって子どもの成長を確認することができるようになった。・見守り児については、関係機関と連携しながら情報共有した。
3	<ul style="list-style-type: none">・ウエルカム保育（慣らし保育）から、親同士が交流したり情報の共有ができる場をつくり、親子の愛着関係を築ける	<ul style="list-style-type: none">・年間計画に基づく手づくりおもちゃ、絵本、わらべうた、おやつ作り、触れ合い遊び、運動あそびなど	<ul style="list-style-type: none">・保護者同士の交流の場として楽しみながら行うことができた。

	ようとする		
4	・地域や関係機関の人々との交流が行事を通して行えるようにする	・年間計画に基づく交流の継続	・地域の親子と一緒に実施した。
5	・職員の心構え、福祉人としての行動規範、職業倫理を再認識する	・キャップ会、職員会議で確認 ・グループ専門研修の実施	・職員が子どもの良い手本となることを繰り返し伝え、認識合わせを行った。

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	・有給取得を計画的に行い付与日数の半分を取得できるようにする	・年間のカレンダーに割りふって計画的に実施	・計画的に取得できた。
2	・定時退社、週2日の定着をする	・業務の見直しと見える化を2ヶ月毎に実施	・見える化ノートを活用しながら、協力体制をとり進めていった。
3	・職員間コミュニケーション	・同好会活動、委員会(グループ内)活動の実施 年6回	・バドミントンやバンド演奏に取り組んだ。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	・災害時事業継続計画の策定及びマニュアルの整備	・作成計画に合わせた時期に実施	・災害時事業継続計画の策定を2月末に整備した
2	・様々な想定をした訓練の実施 不審者、地震・津波を想定して職員の役割を明確にし、実践する	・年間計画に基づく緊急時対応の訓練を実施	・年間計画に基づき不審者等、含めた訓練を毎月実施した

3	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症やアレルギーについて保護者を巻き込んだ活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会と協同で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーについて管理栄養士を中心に勉強会を実施した
---	--	---	---

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、保育方針について説明の機会をもち、園と家庭の連携を理解してもらえるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエルカム保育、参観日の場で映像を使いながら見てわかる内容の工夫をし、具体的に説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳・1歳に分けて実施し、映像を使って具体的に説明した。 保護者が生活面の様子に興味をもつていた。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検をし、改善・実施につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度、12月に実施次年度の取り組みにつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月～1月にかけて実施した。 職員自身の振り返りにも役立った。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度、2～3月に実施。次年度の取り組みにつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから災害関係の内容に興味をもたれていた。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価からの課題事業計画について、利用者・地域へ開示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育説明会、園だよりHPで紹介する ・年1回、コンサルテーションを受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会等で伝えている。コンサルテーションを継続してうけており、課題について改善していく

【施設整備】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の運動スペースの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒等の遊具を置き、スペースの確保を行った

2	・電源設備の更新	・5月連休後に開始の計画	・12月～1月上旬に完了した。
3	・朝夕、延長保育の 一体化児童との協働	・4月に工事実施、5月 連休後の開始に向けて準備	・工事終了後、9月 から実施した。
4	・セキュリティーシステム（防犯モニター）の 新設（更新）	・29年度中	・29年度、3月に 工事が完了した。

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向 定員:90名																		
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
乳児分	実績	25	25	26	27	29	32	34	37	39	41	41	43	43	-	399	-	
	計画	22	23	25	28	30	32	32	33	35	36	37	38	38	5	371	28	
	H28年度実績	19	24	28	29	31	31	35	37	38	37	40	42	42	1	391	8	
	H27年度実績	15	17	22	22	25	34	33	34	35	38	38	38	38	5	351	48	
短時間	実績	0	0	0	1	2	2	3	2	2	1	2	2	2	-	17	-	
	計画	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	19	-2	
	H28年度実績	7	5	3	3	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1	30	-13	
	H27年度実績	13	12	12	12	9	7	8	7	7	7	7	8	8	-6	109	-92	
1・2歳児分	実績	58	58	58	57	57	57	57	57	56	55	54	54	54	-	681	-	
	計画	57	57	58	58	57	57	57	57	57	58	58	58	58	-4	688	-7	
	H28年度実績	60	60	62	62	62	62	60	59	60	55	55	55	55	-1	712	-31	
	H27年度実績	46	45	45	46	48	49	49	49	49	48	48	48	48	6	570	111	
短時間	実績	1	1	1	2	2	2	1	1	0	0	1	1	1	-	13	-	
	計画	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	-1	24	-11	
	H28年度実績	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	9
	H27年度実績	10	11	14	14	13	11	11	11	11	12	11	11	11	-10	140	-127	
実績合計	当年度	84	84	85	87	90	93	95	97	98	98	99	100	100	-	1,110	-	
	計画	81	83	86	89	91	93	93	94	96	97	99	100	100	0	1,102	8	
	H28年度実績	88	91	93	94	95	95	96	97	99	94	97	98	98	2	1,137	-27	
	H27年度実績	84	85	93	94	95	101	101	101	102	105	104	105	105	-5	1,170	-60	
利用率	当年度	93.3%	93.3%	94.4%	96.7%	100.0%	103.3%	105.6%	107.8%	108.9%	108.9%	110.0%	111.1%	111.1%	-	102.8%	-	
	H28年度実績	97.8%	101.1%	103.3%	104.4%	105.6%	105.6%	106.7%	107.8%	110.0%	104.4%	107.8%	108.9%	108.9%	2.2%	105.3%	-2.5%	
	H27年度実績	93.3%	94.4%	103.3%	104.4%	105.6%	112.2%	112.2%	112.2%	113.3%	116.7%	115.6%	116.7%	116.7%	-5.6%	108.3%	-5.6%	
II 月間開所日																単位:日		
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績		24	24	26	25	26	24	26	24	23	23	23	25	25	-	293	-	
H28年度実績		25	23	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	-1	294	-1	
H27年度実績		25	23	26	26	26	23	27	23	23	23	24	26	26	-1	295	-2	

V 職員配置						
配置基準		児童数	換算	実員		換算
0歳児	3:1	45	15.0	正職	11	11.0
1・2歳児	6:1	55	9.2	嘱託A	1	1.0
				嘱託B	21	16.0
加配			4	派遣	1	0.5
計		100	28.2	計	34	28.5
				過不足	0.3	

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	小さくらの保育の取り組み、連絡帳 保育プラン書、アレルギー対応、 保護者対応、職員の心構え、報告・連 絡・相談について、クムパート ナー研修	・ 基本的な業務を身につけることが できるように、マニュアル・要領書 について説明する。 ・ 相談、連絡、報告をすることの 重要性を伝える。
5月	安田式体育遊び研修	・ 遊具の使い方を含めて、年齢発達 に応じた遊び方や保育者の関わり方 について実施した。
6月	実技研修（わらべうた、リズム、 粗大遊び）	・ 保育者の動き、遊び方の統一につ いて実施した。
7月	玩具援助手引きについて	・ 手引きをもとに月齢や発達に応じ た玩具の提供を確認していった。
8月	リスクマネジメント（KYT）に ついて	・ 保育室のイラストを見て、どこに 危険が潜んでいるかを出し合い、 改善策を考えた。
10月	実技研修（わらべうた、リズム、 粗大遊び）	・ 保育者の動き、遊び方の統一につ いて実施した。
11月	不審者対応訓練	・ 保育者が不審者となり、園内に 侵入したという想定で訓練を実施し た。
12月	保育の自己点検（自己評価）	・ 保育の振り返りを自己点検のシ ートを使って実施した。

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	入園式	28年度途中入園及び29年度 新入園児61名が参加
5月	花まつり	花御堂を飾りお参りした。
7月	七夕会	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
9月	お月見会	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
10月	運動会	児童館にて実施、親子で参加。

12月	クリスマス会 もちつき	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。 西和会のシニアの方も参加。 もちつきの様子を見たり地域の方と 触れ合ったりした。
2月	節分会、 個人懇談	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。 園と家庭との情報交換の場とした。
3月	ひな祭会	由来を聞いたり催しを楽しんだりした。
参観日	5、8、9、2月	園の方針や取り組みについて説明会を 実施した。 親子で遊んでもらったり、日頃の園での 様子を見てもらったりした。

小ざくら夜間保育園

【事業実施概要】

年齢発達に合ったねらいを意識した遊びと環境作りを行うとともに職員の心構えの実践を通して、職員間のチームワーク作りを目指した。また、配慮の必要な子どもと親の支援を法人内の事業所や外部機関と連携しながら継続的に実施できた。地域の方々（特に独り暮らしのお年寄り）との交流では園に招くとともに園児とともに出かけていく機会ももて職員も地域の方々と関わる機会がもてた。

【事業詳細】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方で)	実施内容
1	各種保育計画を見直し、理解した上で評価、課題を正しく認識し、保育の場で実践できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">各種保育計画の見直し 保育課程、年間指導計画、月週指導計画：平成30年3月完成計画を基に話し合い、振り返りの機会を月末にもち、主任を中心に意味のある話し合いを基に保育の評価、次月の立案へつながるようにする。	<ul style="list-style-type: none">計画通りに実施できた。話し合い、振り返りは計画通りに実施できた。評価、課題の認識には、主任の助言・指導を要する。
2	職員の心構えの実践を日々の保育の中で意識してできるようにし、チームワークを育む。	<ul style="list-style-type: none">確認（認め合う）の場を定期的にもつ：月1回職員会議	<ul style="list-style-type: none">毎月の職員会議で実施することで、職員間で確認し合うことができた。
3	法人内の事業所とのチームプレーを通して家庭的養護及び特別な配慮の必要な子どもと親の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none">子育て支援G内でのケース、家庭への支援強化…定期的な面談の実施、家庭訪問、利用者同士の交流等発達支援事業Gとのチームプレーによる支援の継続	<ul style="list-style-type: none">面談、家庭訪問の実施、利用者同士の交流、きらり水島とのチームプレーによる支援など計画的に実施できた。
4	地域や関係機関の人々との交流を通して、地域ニーズの把握を行い、虐待の恐れのある子どもの支	<ul style="list-style-type: none">事業所に招く機会とともに、出向く機会をもっていく。（水島の中・小学校区、町内会、愛育・民生委員さんなど地域の方々と	<ul style="list-style-type: none">水島小学校区や園の周辺にお住まいのお年寄りや愛育・民生委員さんなど地域の方々と

	援体制作りをともに行う。	等)	の交流は事業所に招くとともに園児と出かける機会をもてた。また、行政機関の方々と定期的に話す機会がもて、地域ニーズの把握、事業所について知ってもらうことができた。具体的な支援体制作りは、次年度の課題とする。
--	--------------	----	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	有休取得率の向上	・付与日数の半分の計画的取得ができるようにする	・計画的に取得できた。
2	ワークライフバランスの推進 ・定時退社（週2日）の定着と業務の見直し	・業務と業務分担の見直しと見える化と記録のスリム化 3カ月毎に実施	・業務と業務分担の見直し、ボード活用による見える化、記録のスリム化など継続的に実施していく。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	災害時事業継続計画の策定及びマニュアルの整備（29年度拠点で計画策定）	作成計画に合わせた時期に実施	・2月末に災害時事業継続計画を整備した。
2	様々な場面を想定した各種訓練の実施を行う（不審者、地震・津波など）	年間計画に基づき実施	・年間計画に基づき、各種訓練を毎月実施した。
3	感染症やアレルギーに関する保護者を巻き込んだ活動を行う	保護者会と協同で実施	アレルギーについて管理栄養士より話を聞く機会をもった。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	事業計画や保育方針についての説明の実施	懇談会（保護者会）および保育参観、行事の場で実施	・スライドを使用しながら具体的に説明した。
2	自己点検を行い、現状把握をし、改善する	29年度12月に実施、次年度の取り組み（計画）に活かす	・計画通り実施。項目についての理解にバラツキが見られた。
3	利用者アンケートの実施	29年度2～3月に実施、次年度の取り組み（計画）に活かす	・災害時の対応についての関心が強かった。

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	電源設備の更新	4月に工事実施	・12～1月上旬に完了。
2	セキュリティシステム（防犯モニター）の新設（更新）	29年度中	・29年度3月に完了。

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向 定員:30名																	
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
乳児分	実績	2	2	2	2	3	5	7	7	9	10	10	10	10	-	69	-
	計画	2	2	2	2	3	4	4	4	4	5	5	5	5	5	42	27
	H28年度実績	1	1	1	1	1	1	1	3	5	5	5	7	7	3	32	37
	H27年度実績	1	1	1	1	1	1	3	4	4	5	5	5	5	5	32	37
	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
1・2歳児分	H28年度実績													0	0	0	0
	H27年度実績													0	0	0	0
	実績	8	9	9	9	9	10	10	9	8	8	8	8	8	-	105	-
	計画	8	8	9	10	9	9	10	11	12	12	12	12	12	-4	122	-17
	H28年度実績	7	6	6	6	8	7	7	7	7	6	7	7	1	81	24	
	H27年度実績	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	-6	162	-57
3歳児分	実績	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	6	-	60	-
	計画	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	48	12
	H28年度実績	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	73	-13
	H27年度実績	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	1	67	-7	
	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
4歳以上児分	H28年度実績													0	0	0	0
	H27年度実績													0	0	0	0
	実績	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	-	114	-
	計画	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	-1	120	-6
	H28年度実績	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	-1	125	-11
	H27年度実績	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	-2	132	-18
実績	実績													0	-	0	-
	計画													0	0	0	0
	H28年度実績													0	0	0	0
	H27年度実績													0	0	0	0
	当年度	24	25	25	25	26	29	32	31	32	33	33	33	33	-	348	-
	計画	24	24	25	26	26	27	28	29	30	31	31	31	31	2	332	16
利用率	H28年度実績	26	24	24	24	26	24	24	26	28	28	27	30	30	3	311	37
	H27年度実績	31	31	31	31	31	31	34	34	34	35	35	35	35	-2	393	-45
	当年度	80.0%	83.3%	83.3%	83.3%	86.7%	96.7%	106.7%	103.3%	106.7%	110.0%	110.0%	110.0%	110.0%	-	96.7%	-
利用率	H28年度実績	86.7%	80.0%	80.0%	80.0%	86.7%	80.0%	80.0%	86.7%	93.3%	93.3%	90.0%	100.0%	100.0%	10.0%	86.4%	10.3%
	H27年度実績	103.3%	103.3%	103.3%	103.3%	103.3%	103.3%	113.3%	113.3%	113.3%	116.7%	116.7%	116.7%	116.7%	-6.7%	109.2%	-12.5%
II 月間開所日															単位:日		
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績		24	24	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	-	268	-
H28年度実績		25	23	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	0	268	0
H27年度実績		25	23	26	26	26	23	27	23	23	23	24	26	26	0	269	-1

V 職員配置		児童数	換算	実員	換算
配置基準					
0歳児	3:1	10	3.3	正職	6 6.0
1・2歳児	6:1	8	1.5	嘱託A	0 0.0
3歳児	15:1	6	0.4	嘱託B	7 3.0
4・5歳児	30:1	9	0.3	派遣	0 0.0
加配		3.0			
計		33	8.5	計	13 9.0
				過不足	0.5

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	「小さくら保育の取り組み」について、連絡帳、保護者対応について	・マニュアル、要領書を活用しながら具体的に説明。
5月	各種保育計画について（月週案、日案、保育プラン書） 子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成	・各種計画の流れ、年齢発達に合ったねらいや各種計画のポイントなどについて具体的に説明。 ・実際の子どもの姿と照らし合わせ、チームで話し合いながら確認していった。
6月	実技研修 制作…七夕飾り	・各年齢発達に合った七夕飾りを考え、実技で作っていった。
7月	子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成（保育プラン書）	・実際の子どもの姿と照らし合わせ、チームで話し合いながら確認していった。
9月	子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成（保育プラン書）	・実際の子どもの姿と照らし合わせ、チームで話し合いながら確認していった。
11月	子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成（保育プラン書） 実技研修 制作…クリスマス	・実際の子どもの姿と照らし合わせ、チームで話し合いながら確認していった。 ・各年齢発達に合ったクリスマス飾りを考え、実技で作っていった。
12月	保育の自己点検（自己評価）	・自己点検シートを使って、各自、保育の振り返りを行った。
1月	子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成（保育プラン書） 不審者対応訓練	・実際の子どもの姿と照らし合わせ、チームで話し合いながら確認していった。 ・園内に不審者が新入した想定でチームでの訓練を行った。
2月	実技研修 製作…ひな人形	・各年齢発達に合ったひな人形を考え、実技で作っていった。
3月	子どもの発達と生活、遊びの援助と環境構成（保育プラン書）	・実際の子どもの姿と照らし合わせ、チームで話し合いながら確認していった。

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	入園式 お花見会	28年度途中入園及び29年度新入園児が参加。 園庭の桜を見ながらお弁当(夕食)を食べた。
5月	花祭り 親子遠足	花御堂を飾り、お参りした。 卒園児親子も招き実施。
7月	七夕会 親子キャンプ 港祭り見学	地域の方を招き、催しを楽しんだり夕食と一緒に食べたりした。 卒園児親子も招き実施。 卒園児親子も招き実施。
9月	お月見会	地域の方を招き、催しを楽しんだり夕食と一緒に食べたりした。
10月	運動会	児童館で実施。親子で参加。
12月	クリスマス会	地域の方を招き、催しを楽しんだり夕食と一緒に食べたりした。
2月	節分会	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。
3月	ひな祭り会 お別れ会	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。 卒園する5歳児親子の送別会を行った。
参観日 懇談会	5、9、2月	園の方針や取り組みについて説明をした。また、懇談会の中で園に対する意見や要望、保護者同士の交流がもてるようにした。参観では親子の関わりがもてるよう活動に配慮した。
クッキング 試食会	6、9、11、12、1月	親子の関わりをもちながら楽しくクッキングができるようにした。また、試食会では栄養士も参加して、離乳食や食材の大きさ、味付けなどについて具体的に保護者に知らせることができた。

小ざくら小規模保育園

【事業実施概要】

乳幼児期の保育を、個々の家庭に寄り添いながら保護者が安心して子育てが出来るよう相談や支援を行ない、子ども一人ひとりの人格を尊重し個性を伸ばし自立を促すことができるよう、成長発達の援助や見守りを行なった。小規模保育園ならではの個別の保育の中で、異年齢児保育の中での子ども同士の関わり合いや育ちを大切にしてきた。また、保育者同士のチームワークや地域との関係など大切に実施し、職員自身も研修などを通じて子どもの手本となるべき人格となれるよう研鑽を行なった。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	・子どもの成長発達を促す保育の充実（計画・実施） ・子育てGとの公開保育の実施	・計画（毎月）、実施（毎日） 園内研修（各月） ・年3回	・年間計画、個別プラン書に基づき実施及び改定を行なう ・公開保育他事業所へ2名参加、来園は1名
2	保護者、家庭との協働 ・育児相談の場（茶話会）をもつ	・月1回	・年間5回実施（手作り玩具作成や育児相談などを実施）
3	保護者の育児力アップ ・伝承行事への参加、食事参観、試食会	・年3回（7・10・12月）	・年3回実施
4	地域との連携 (青葉町郵便局との交流)	・2カ月1回 (子どもの作品の展示・園の行事に招待する)	・作品展示や園の行事へ招待し交流した

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
----	------------------	-------------------	------

1	有休休暇取得の推進	半分消化	・年間で計画的にほぼ取得した
---	-----------	------	----------------

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	(株)創宅と合同避難訓練の実施	消防計画に基づく	・年2回実施
2	不審者対応訓練の実施	年2回	・5月と11月に実施し、職員の安全教育も行った
3	緊急通報装置設置	夏までに	・未実施

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	地域支援への取り組み	運動会・もちつき・秋祭りなどを通じた地域住民との交流	・秋祭りやもちつきなどに参加

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	なし		

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向 定員:18名		項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異		
乳児分	実績		1	1	2	2	3	2	4	6	6	6	7	7	7	-	47	-		
	計画		1	1	2	3	3	5	7	7	7	7	7	7	7	0	57	-10		
	H28年度実績		0	0	1	2	3	5	5	7	7	8	8	8	8	-1	54	-		
短時間	実績		0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	-	4	-		
	計画		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3		
	H28年度実績		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
1・2歳児分	実績		10	10	11	11	10	10	11	12	12	12	12	12	12	-	133	-		
	計画		10	10	11	11	10	11	11	11	11	11	11	11	11	1	129	4		
	H28年度実績		9	10	9	10	10	11	11	11	11	10	10	10	10	2	122	-		
短時間	実績		0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	-	2	-		
	計画		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
	H28年度実績		1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	-		
実績	当年度		11	11	13	13	15	15	16	18	18	18	19	19	19	-	186	-		
	計画		11	11	13	14	14	16	18	18	18	18	18	18	18	1	187	-1		
	H28年度実績		10	11	12	13	14	16	16	18	18	18	18	18	18	1	182	4		
利用率	当年度		61.1%	61.1%	72.2%	72.2%	83.3%	83.3%	88.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	105.6%	105.6%	105.6%	-	86.1%	-
	H28年度実績		55.6%	61.1%	66.7%	72.2%	77.8%	88.9%	88.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	5.6%	84.3%	1.9%	
	該当月																			
II 月間開所日		項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異		
	実績		24	24	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	-	294	-		
	H28年度実績		25	23	26	25	26	24	26	24	23	23	23	26	26	0	294	0		

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	マニュアル・要領書の確認、保育計画について	・全職員対象に説明実施
5月	危機管理（不審者対応）について（模擬訓練含む）、コーチング研修	・模擬訓練やマニュアルの読み合わせを実施
6月	トイレットトレーニングについて	・保護者にも説明実施
7月	災害時対応について（火災・地震）	・マニュアルの読み合わせを実施
8月	わらべうたについて	・全職員対象に実技実施
9月	絵本と読み聞かせについて	同上
10月	相談援助技術について	・書物を参考に模擬相談実施
11月	↓	同上
12月	保育の自己点検（自己評価）	・全職員対象に説明実施
1月		・コーチングを職員養成の中で実施
2月		
3月		

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	・入園式	新入園児3名含む5名参加
5月	・花まつり 　・歯科検診 　・参観日	参観日10名参加
6月		
7月	・七夕会 　・給食参観（試食会）	9世帯13名参加
8月		
9月	・参観日、秋祭り	本園と合同で参加
10月	・お月見会・給食参観（試食会） ・運動会 　・秋の遠足	お月見会16世帯20名参加 運動会13名、小さくら地域支援センターと合同で参加
11月		
12月	・もちつき 　・クリスマス会 ・給食参観（試食会）	地域の方を招待（都合により欠席）お土産を頂く
1月		
2月	・節分会	
3月	・ひなまつり会 　・参観日	19世帯27名参加

小ざくら地域子育て支援センター

【事業実施概要】

ひろばにじいろを入り口とし、相談からサービスまでの切れ目のない利用者支援と地域の方々との交流ができるようになり、また、水島拠点での法人内、あるいは関係機関、地域住民とのつながりも少しづつ強まり、子育て家庭がいつでもどこでも安心して利用できる環境づくりや身近な地域との交流を通して、互いの課題に耳を傾け、協力し、助け合い、支え合える地域づくりに努めることができた。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<ul style="list-style-type: none">各種保育計画の見直しと保育実践への活用 保育課程・年間指導計画 月週指導計画水島拠点での公開保育	<ul style="list-style-type: none">30年3月完成指針改定に基づき、WKチームにて協議・作成 →職員会議にて評価年3回	<ul style="list-style-type: none">保育4園の作成をもって検討を行うという流れに変更の為、未実施。29年度の評価・反省を踏まえ30年度見直し予定。計画に沿って実施。
2	<ul style="list-style-type: none">保育士としての行動規範制度理解と職業倫理を再認識する	<ul style="list-style-type: none">6回園内研修にて実施 →公開保育にて評価 /グループ専門研修	<ul style="list-style-type: none">計画に沿って園内研修にて実施。
3	<ul style="list-style-type: none">子育て支援体制（相談支援）確立情報の共有と支援方法の在り方検討を行う	<ul style="list-style-type: none">1/3か月：水島拠点会議子相見守りケース&気になる子どものケース検討会議を実施	<ul style="list-style-type: none">計画に沿って実施。子育てCとしてのケースは特になし。拠点会議での情報の共有と支援方法の検討は報告の形で実施。
4	<ul style="list-style-type: none">子育て情報と場の提供 ① H P・Face Book : 双方向	<ul style="list-style-type: none">年間計画に基づく ①月1回（随時）	<ul style="list-style-type: none">① H Pの更新、F Bへのアップはタイムリーに行うことが出来ないことがあった。あのネットへの情報発信は随時

	<p>② ママパワ・ 出前講座の充実</p> <p>③ にじいろカフェの 開催</p> <p>④ 交流会・座談会の 実施</p> <p>⑤ 育メンひろばの開 催</p>	<p>② 月1回ずつ</p> <p>③ 年3回 (春・夏・秋)</p> <p>④ 年2回</p> <p>⑤ 年1回 (10月)</p> <p>・各担当者立案する計画に 沿って協働開催する</p>	<p>行った。</p> <p>② 年間計画に沿って、全 ての講座を予定通り実 施。</p> <p>③ 5・11・2月に実施 要望を受け、2月はラ ンチを実施し、好評で あった。</p> <p>④ 9・3月実施</p> <p>⑤ 10月実施</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所作り (こども食堂を含む) ・食を介して多世代の交 流ができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づく ・居場所作り委員会にて計 画・実施 (水島小学校区 住民との協働) 	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所に関しては、に じいろ会議にて協議。 小さくら保育園児への 協働につなぐ。 ・多世代交流は年1回実 施
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアいきいき ポイント制の推進 ・新規登録者増 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年 ・三世代交流・にじいろカ フェの推進活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年実施 ・水島・連島地区との三 世代交流を実施。にじ いろカフェへのつなぎ もできている。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ママキーパーソンの 発掘と人材育成 ・にじいろ自主的活動 (プラットホーム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回：はじめの一 歩教室への参加 →1/3か月に1回： 茶話会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月 (2月を除く) 1 回参加。後半に拠点へ の参加も増えている が、キーパーソンとな る人材発掘は今後の課 題である。 ・3ヶ月に1回実施。茶 話会を通じて、2名の方 が自主活動を実施。

8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズの把握と課題提起 ・次年度課題へ反映できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・1/2か月に1回 ・四福小・水小地域ケア會議への参加、および関係機関とのコミュニケーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1回実施 ・必要に応じて各種會議の報告を法人内でも行い、地域課題の共有に努めた。
---	--	--	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育における登降園管理システムの導入 ・予約・実績管理報告書への連動を行うことでの業務削減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～（毎月） ・桜システムを活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・システムを導入し実施。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・有給取得 ・年度付与日数の半分消化 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～（毎月） ・年間カレンダーにて提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施できた。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退社 ・週2日の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～ ・業務の見える化と実態把握（職員会議での振り返りと課題提起） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等で振り返りを行い、定時退社ができるように努めた。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間コミュニケーション ・新体制のシステム作りを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づく ・サークル活動、並びに事業グループ内（水島拠点）における活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・水島港祭りへの参加、練習を通じて職員間の交流を図った。 ・一時保育（乳児保育園との連携）・拠点事業との連携の在り方も定着化している。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	・ B C P 策定に向けたマニュアルの整備 ※29 年度拠点にて策定	・ 作成計画に準じた時期	・ 2月末、B C P 策定。
2	・ 様々な災害（地震・津波・不審者）における対応の周知と職員の役割の明確化	・ 年間計画に基づく ・ 事業所内における訓練の実施	・ 年間計画に沿って各種訓練等実施。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施責任者（誰が）
1	・ 子育て支援センターの体制づくり ① 一時・休日保育 ② にじいろ・ほっとサロン ③ 子育て拠点事業 ・ 委託契約書・ガイドラインに基づいた事業展開ができる	・ 主任・主幹会議 (月1回) ・ 担当責任者を明確に推進し、子育てG統括が検証する	・ ①②③の体制作りを行う。後半は副主任を軸に、各担当責任者が責任をもって各事業を推進できるよう努めた。 ・ 新任担当者においては、各種研修に参加し、業務の理解と推進に努めた。
2	利用者アンケートの実施	・ 29 年度 2 月実施 ・ 次年度の課題抽出	・ H29 年度 3 月に実施。
3	定期的な受審とコンサルテーション 問題解決と課題提起	・ 年度計画に基づく ・ 利用者アンケートの検証と課題提起	・ 繼続してコンサルテーションを受けており、課題について改善していく。

【施設整備】

*一時保育（夜間棟）テラスに人工芝を設置

【利用者数・職員配置】

平成29年度		3月予算実績管理表												事業所名: 小ざくら地域子育て支援センター		責任者名: 岡本 初江																					
I 利用者動向		II 摂算収入												III 職員配置				IV 契約終了事由				V 当月総括及び次月予定															
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	請求額		配置基準				実員		換算											
一時	半日利用	実績	72	73	96	86	87	73	78	67	62	47	46	56	56	—	843	—	計画	50	60	80	60	60	75	60	60	60	60	60	60	60	—4	740	103		
		H28年度	68	91	103	72	82	76	108	68	58	69	73	66	66	—10	934	—91	H27年度	70	59	72	62	59	64	76	58	45	45	38	52	52	4	700	143		
	一日利用	実績	191	197	250	264	293	316	318	322	292	310	302	352	352	352	—	3,407	—	計画	220	200	250	250	260	260	270	270	260	280	280	280	280	280	72	3,060	347
		H28年度	287	281	381	355	363	355	388	387	342	356	379	387	387	387	—35	4,261	—854	H27年度	294	249	302	263	247	270	323	304	308	293	325	347	347	5	3,525	—118	
休日	合計	実績	263	270	346	350	380	389	396	389	354	357	348	408	408	408	—	4,250	—	計画	270	260	330	310	320	320	335	330	325	320	340	340	340	340	68	3,800	450
		H28年度	287	281	381	355	363	355	388	387	342	356	379	387	387	387	21	4,261	—11	H27年度	364	308	374	325	306	334	399	362	353	338	363	399	399	9	4,225	25	
	3歳児未満	実績	15	15	13	17	14	18	15	25	10	16	17	13	13	13	—	188	—	計画	15	18	10	15	13	15	15	15	15	13	18	18	18	—5	177	11	
		H28年度	16	20	10	25	17	24	20	30	26	20	20	19	19	19	—6	247	—59	H27年度	13	25	11	17	23	26	18	30	20	16	15	18	18	—5	232	—44	
産褥期	3歳児以上	実績	16	18	7	12	15	10	9	16	11	10	10	17	17	17	—	151	—	計画	10	15	8	12	10	12	12	12	12	10	12	12	12	5	137	14	
		H28年度	13	16	9	10	10	14	11	13	13	11	15	11	11	11	6	146	5	H27年度	13	18	9	14	16	17	12	21	13	12	11	11	11	6	167	—16	
	合計	実績	31	33	20	29	29	28	24	41	21	26	27	30	30	30	—	339	—	計画	25	33	18	27	23	27	27	27	23	30	30	30	30	0	314	25	
		H28年度	29	36	19	35	27	38	31	43	39	31	35	30	30	30	0	393	—54	H27年度	26	43	20	31	39	43	30	51	33	28	26	29	29	1	399	—60	
2時間以内	実績	0	1	0	5	3	0	2	0	0	1	8	2	2	2	—	22	—	計画	2	0	1	2	0	1	1	1	2	0	1	1	1	1	12	10		
		H28年度	0	0	0	1	0	4	2	0	5	1	0	0	0	0	2	13	9	H27年度	9	0	0	0	5	8	18	8	7	0	6	1	1	1	62	—40	
	2時間以上4時間以内	実績	0	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	4	4	4	—	12	—	計画	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	10
		H28年度	7	0	6	4	0	1	0	10	0	0	0	0	0	0	0	4	28	—16	H27年度	1	0	5	0	12	2	4	0	0	0	2	12	12	—8	38	—26
子育てヘルパー	実績	0	1	0	6	3	0	9	0	0	1	8	6	6	6	—	34	—	計画	2	0	2	2	0	1	1	1	1	0	1	1	1	5	14	20		
		H28年度	7	0	6	5	0	5	2	10	5	1	0	0	0	0	0	6	41	—7	H27年度	10	0	5	0	17	10	22	8	7	0	8	13	13	—7	100	—66
	合計	実績	8	11.5	6	20	5	7.5	6	14	8	8	4.5	7	7	7	—	106	—	計画	10	8	10	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8	—1	104	1.5	
		H28年度	11.5	9.5	14	24.5	13	7	9	12	13	27	19	19	19	19	19	—12	179	—73	H27年度	35	30	21.5	22	6	19	9	18	26	30	19.5	16	16	—9	252	—147
センター事業	実績	462	477	530	602	513	539	555	635	548	481	644	537	537	537	—	6,523	—	H28年度実績	594	675	716	614	770	610	664	546	499	480	521	571	571	—34	7,260	—737		
		H27年度実績	454	555	684	745	722	676	628	599	489	514	673	669	669	—132	7,408	—885																			
IV 契約終了事由		III 職員配置																				V 当月総括及び次月予定															

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	職務遂行要領書・マニュアルの内容確認	変更点を説明し、内容について再確認していった。
5月	29年度事業所内研修について（目的・手段・方法・担当者等の確認）	目的・手段・方法について説明し、担当者等の確認を行った。
6月	保育士倫理綱領に基づく研修 第1章	保育で大切にしていくことを確認し合った。
7月	不審者対応研修	マニュアルを確認しながらチームで対応できるよう訓練を実施。
8月	保育士倫理綱領に基づく研修 第2・3章	保育で大切にしていくことを確認し合った。
9月	第4・5章	
10月	第6・7章	
11月	避難訓練研修	マニュアルを確認しながら訓練を実施。
12月	保育士倫理綱領に基づく研修 第8章	保育で大切にしていくことを確認し合った。
1月	29年度の振り返りと次年度の課題提起（各担当部署）	各担当部署で今年度の振り返りと次年度の課題について話し合った。
2月	実践発表に向けてのショミュレーション	予定通り、実施。
3月	29年度事業所内研修の振り返りと次年度への課題提起	今年度の研修を振り返り、次年度の課題について検討した。

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	お花見	園庭の桜の花を見ながら実施。
5月	花まつり	花御堂を飾り、お参りした。
6月	参観週間	園での様子を見てもらったり、親子で関わりながら楽しく過ごしてもらったりした。

7月	七夕会	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。
9月	お月見会	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。
	秋祭り	地域の方々や保護者、園児と一緒に季節ならではの行事を楽しんだ。
10月	運動会 育メンひろば	児童館で実施。親子で参加。保育園、行政機関、地域の方々とともに開催した。
11月	秋の親子遠足	親子で楽しみながら自然体験ができた。
	七五三参り	地域の神社にお参りした。
12月	もちつき	杵と臼を使った餅つきの様子を見るなどした。
	クリスマス会	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。
1月	参観週間	園での様子を見てもらったり、親子で関わりながら楽しく過ごしてもらったりした。
2月	節分会	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。
	個人懇談	お子さんの様子や保護者の気になることなどについて個別に話し合う機会をもっていった。
3月	ひなまつり	由来を聞いたり、催しを楽しんだりした。

母子生活支援施設 倉敷市鶴心寮

【事業実施概要】

切れ目のない支援の充実を念頭に置き、法人内の他事業所とのチームプレイや他機関との連携を意識して支援を行った。特に、子どもへのアプローチを通して、学校をはじめとする関係機関、近隣住民やボランティアとの連携が深まった。

施設整備については、防犯カメラや給湯器の設置により、利用者の生活の質向上や安心安全につながった。また、ボランティアによる花壇の整備や壁面の飾りつけは利用者の癒しになった。

アセスメントシートの活用や支援プログラムの確立については不十分であり、支援の標準化とともに、利用者各々の自立とは何かについて、次年度の目標として取り組んでいく。

今年度は第三者評価を受審し、評価機関から改善課題についての詳細なアドバイスをいただいた。改善課題については、次年度の事業計画に盛り込み、改善に向けた取組みを進めることで、利用者の自立に寄与できるよう努める。

【事業詳細】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	子どもの会の充実 子どもの自治組織として組織の確立 個別のニーズに即した、行事の立案・参加	・月に一度開催 17時から集会室で利用世帯児童全員対象 ・毎月実施 何を体験したいかは、毎月職員が子どもたちにヒヤリングシートに記入してもらう	・毎月実施。役割分担により主体性が出てきた ・お化け屋敷や映画を見る会など子ども発案の行事の実施ができた
2	学習支援（平日）の充実 平日短時間職員（学習ボランティア）と、勉強をしていく 個別学習室の整備 一人で勉強したい子どものための、学習室の提供	・学習室で宿題を行う ・土日の利用要望に対応していく ・中高生の利用者や一人の時	・子どもの意見を尊重しながら時間や場所を検討した。ボランティアによる学習支援は不定期であった ・勉強するためだけ

		間を必要としている子どもに対して、都度対応していく	でなく、クールダウンにも活用した
3	新たな行事の実施 母子の会話を増やすために、母親と子どもに分けた、時間の提供を行う（外食等）	<ul style="list-style-type: none"> ・外食の機会の提供 ・体験型の行事を行う ・整容に関するセミナー等 上記内容を1回/2ヶ月程度実施	<ul style="list-style-type: none"> ・母親と子ども別々での外食を実施 ・ふあんふあーれにて子どもだけの体験活動を実施
4	おやつの提供 平日のおやつの提供を行い、子どもと職員とのコミュニケーションを増やしていく	<ul style="list-style-type: none"> ・平日 15時～17時の間（長期休暇等は提供しない） 毎週水曜日は手作りおやつ提供 対象児：利用世帯の児童	<ul style="list-style-type: none"> ・下校後におやつ提供をした。リラックスした状況で、異年齢の交流や家族の語りの場になった
5	季節行事の開催 季節を感じる行事の実施をしていく中で、日本文化に触れる機会の提供	行事計画に沿って行う（別紙参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・行事計画に沿って実施。交流やリフレッシュ、風習を学ぶ機会となった
6	環境整備（相談室等） 落ち着いた環境で相談できる場所を設ける 使用状況に応じて集会室・静養室・ふれあいルーム・相談室の環境改善を行う	ワーキングチームを設定し見直しをしていく【利用者満足の取り組み参照】	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファーやコタツなどの家具設置や植物を飾るなど落ち着いて過ごせる環境づくりに努めた
7	社会的擁護関連の事業所とのチームプレイ 「施設」としての機能があるため、寮の職員に話しづらいことや発達に関して気になることを相談しやすい環境を作る。また、退所後、相談できる場所として、世帯との交流を深めていき、地域生活の困り感に対して、早	【児童家庭支援センター】 <ul style="list-style-type: none"> ・合同会議（1回/2ヶ月程度） 両事業所での会議を実施。議題に関しては、都度双方の職員より意見を出す。また、互いに参加した研修報告をし、共有理解に努める ・定期面談への参加（入所初期・更新面談・退所時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同会議を概ね月一回実施 ・面談には参加していない

	<p>期に対応できるようにしていく</p> <p>世帯の就労等において水島地域との連携を図り生活を支えていくことも念頭に情報共有を行って行く</p>	<p>世帯の状況を把握するためには、世帯との面談に同席する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児家センの鶴心寮の支援員会議又は、ケース会議への参加（1回/月） 世帯の生活状況を把握し、問題解決を共に行って行く 【ひろばにじいろ・小ざくら夜間保育園】 ・ライフサポート調整会議（毎月第一火曜日） ケース状況に対して検討・実施していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・児家セン心理士が子どもの行動観察、支援員会議に参加 ・ライフサポート会議に参加。啓発活動として母子父子自立支援への取り組み紹介、パンフレット作成に取り組んだ
8	<p>関係機関との連携</p> <p>倉敷市子ども支援課・子ども相談センター・児童相談所・福祉事務所を中心に情報共有を行い、世帯の生活状況の報告をしていく。また、自立生活支援センターとの協働や他市の子ども課と世帯の状況に応じて、情報共有や訪問を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども相談センターとの情報共有（1回/月）また、寮全体の情報共有を行う（1回/半年） ・子育て支援課への世帯利用状況の報告（1回/月） ・福祉事務所に関しては、利用世帯の入所状況に応じて、福祉事務所にも情報共有していく。また、必要に応じて、保健師や母子父子自立支援員にも来寮してもらう ・自立支援センター及び利用世帯の状況に応じて必要なサービス事業所との連携を行う ・要保護児童対策地域協議会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な情報共有だけでなく、随時、報告や相談を行った ・計画通り実施した ・定期的に情報共有し、随時、相談を行った ・必要に応じて連携を行った ・参加した
9	<p>アセスメントシートの活用</p> <p>退所までの見通しを利</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートの運用（4月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートを改訂し、運用を

	用世帯・職員や共通理解できるようにするためには、ニーズ調査を行う	→運用内容周知はH28年度に行う ・見直し（9月末） →9月初旬：全職員に状況確認 9月中旬：見直し 10月～：改訂版での運用開始	したが、内容が不十分なため、改訂の必要がある
10	支援の流れの確立（ストーリー性のあるもの） 利用世帯に目標を持つて、1年間の利用機関を過ごしていただく。入所初期・中期・後期・退所期とどのような視点が必要なのか、職員の支援の明確を行う。また、双方の認識を合わせるために、母親とは定期的な面談を行い、困り感や不安の軽減に繋げる	・支援プログラムの見直し（～6月） ・支援プログラムに照らし合わせて、利用世帯の状況把握（7月～） ・支援プログラムを意識した支援の実施（9月～） ・母子支援員・少年指導員と母親と子どもの面談（1回/月）	・支援プログラムの策定はできなかった ・ケースによって頻度は異なるが、実施できた
11	アフターケアの充実 地域に出てからも頼れる場所として気軽に立ち寄れる居場所つくり	・サロンの実施（たいけんひろばファンファーレと同時開催1回/月）	・手紙などで案内を行った
12	トワイライトステイ事業の活用 小学校の1年生～3年生の子どもを持つ退所世帯を中心に利用を繋げる	・退所説明を行なう際に対象年齢が居る世帯に説明をする（退所毎）	・対象世帯に案内は行なったが、利用にはつながらなかった
13	たいけんひろばファンファーレ（居場所作り） 利用世帯の生活状況や食事の提供する中で、母親や子どもの居場所つくりをする。また、アフタ	・毎月第2土曜日 10:00～13:00 →・調理活動 ・体験学習	・毎月、実施した

	一の世帯にも声をかけていき、学校の学習の遅れや母だけでは経験できないことを提供していく時間にする	・アフターへのサロン開催	・アフター世帯が参加だけでなく、手伝いもしてくれた
14	大学生ボランティアの活用、人材育成 ボランティアを起用することで、子どもに対して学習意欲を向上させることで身近な未来モデルを見ることになる。そのことで、子どもたちにとつて、目標になることを伝えていき、ボランティアの意義を伝えていく。また、ボランティアに来ている学生に対しては、母子生活支援施設についての学習会を設けていく	・ボランティアセンターとの調整・状況把握（1回/月） ・学生ボランティアとの勉強会（3回程度/年） ・ボランティア利用日のフィードバック（活動日ごと）→フィードバックファイルに記入してもらう	・計画通り実施 ・ボランティアが不定期なため実施できなかった ・活動後に気づきや困りごとを記入してもらい、フィードバックをした
15	地域との関わり 寮内行事への招待をしていく。また、世帯と共に町内会への参加していく、民生委員との関わりを増やし、地域交流していく	・行事への招待（2回/年）→鶴心寮ふれあい祭り・ももちつき ・町内会への参画（1回/月） ・町内ボランティアとの交流行事（2回/年）	・近隣住民8世帯を招待 ・清掃活動や行事に参加 ・ふあんふあーれの民生委員による手伝い

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	年休の計画的取得促進 年次休暇5日以上取得出来るようにするため、誕	・毎月2日を目安に、公休希望を聞き取る	・計画通り希望休や有給休暇取得で

	生日の休暇取得や希望休の取得を推進していく。		きた
2	定時退社の実施 効率よく仕事をするため に、時間を意識して仕事 をしていく。	・週2回（火・金） →カレンダーに定時退社デー の周知を毎月記入していく。 →事業所内スローガンの利用	・概ね定時退社で きた
3	職場内のストレス改善 休憩時間を利用した体を 動かす機会や、リラクゼ ーションの機会を設け る。	・平日の休み時間 ・集会室や静養室で実施 (12:15~13:00)	・バランスボール などの器具を導入 したが、活用は少 なかった
4	業務の役割分担明確化 ルーティン業務以外の行 事担当等責任者を設け、 業務遂行率を高め、業務 負担の軽減を図る。	・定時退社を促進するため、 業務内容の見直し実施する（9 月末まで） →新たな問題に対しては随時 対応して改善を図る。	・業務分担が明確 になり、分担をして業務に取り組めた
5	専門性・資質向上 事業所内研修・事業グル ープ内専門研修・階層別 研修を受け、法人の職員 として、事業所の職員と しての資質向上を目指 す。 また、必要な専門知識に 関しては、関係機関が作 成しているDVD等を活用 して、高い知識を得てい く。	・事業所内研修【別紙参照】 ・専門研修【教育・研修委員 会計画参照】 ・階層別研修【法人年間行事 参照】	・概ね計画通り実 施できた ・計画通り参加し た ・計画通り参加し た

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どの レベルまで）	実施計画（いつ、どのよ うな方法で）	実施内容
1	震災等に対するマニュ	・法人内安全・防災委員	・B C Pを策定

	アルの見直しと改定 常にリスクが合った際に対応できるように、世帯と職員マニュアル整備	会と協同をし、災害時の対応を確定していく。また、行政や消防局から助言をもらっていく。(～6月)	消防署立ち合いの訓練を実施し、助言をいただいた
2	利用世帯を含めた防災訓練の開催 常に防災に対して意識をしていき、毎月内容の違う訓練を実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一金曜日に実施 →世帯への周知方法は、施設内掲示板で知らせる。 ・防災予定は【別紙参照】 ・月担当を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施した
3	緊急時の連絡体制の明確化 ・職員の緊急連絡の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に一度、緊急連絡網を利用したシミュレーションの実施 →実施状況は毎月、担当職員が反省を出していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施できなかった

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	権利擁護への取り組み 心理的虐待等の防止を含め、施設内でのプライバシー保護を意識した対応と苦情受付の更なる明確化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークや研修を通して学びを深めていく。 ・グループワーク:年2回(所内研修) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施できなかった ・苦情受付の対応については明確になり機能した
2	施設環境の改善 衣類の預かり等を行い、狭い一室を子との生活を快適に過ごせる配慮	倉庫の整理をし、預かり場所の確保(5月末まで)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて家具などの預かりをした

	を行っていく。		
3	ワーキングチームの設定 ソーシャルワーク・營繕・環境・行事・防災・衛生の担当を決め、寮内の運営状況を改善していく。	・3ヶ月に1度、職員会議で報告していく、改善点等把握していく	・定期的に話合いが持てた
4	意見・苦情受付の明確化 世帯からの苦情や意見は書面にまとめ、返答していく。また、大きく改善点が必要な問題に関しては、法人の第三者委員に助言を求める。	・苦情受付担当・苦情受付責任者・第三者委員の名前の掲示 ・意見・苦情等の報告書の提出 →場合によっては、第三者委員に助言を求め、倉敷市子ども支援課に報告	・体制整備ができ機能した ・意見書の改定により、意見が寄せられた

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	給湯器の設置 給湯器設置に至るまでに、共同水道の使用用途改善をし、それまでの間にお湯が使用できる生活の提供を行う。	・市との協議を行う（設置の有無が明確化するまで）。 ・市との協議が終わるまでは、共同水道の利用方法とルールの改定を行い、実施する（4月末）。	・市の予算にて各居室に給湯器が設置できた
2	建物点検 建物の損傷等確認を行い、早期に修繕が必要な個所を発見し、対応していく。	全職員が担当、空室や共同スペースの破損等の確認を行う（1回/月）。 点検方法：建物点検表を使用して行う。	・清掃などを通して、定期的に点検を行った

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	-	41	-
H28年度実績	6	6	6	5	5	4	4	5	4	4	4	5	5	-1	58	-17
H27年度実績	7	8	8	7	7	5	5	5	5	5	5	5	5	-1	72	-31

II 契約数		III 職員配置				
区分	人数	配置基準		実員		換算
新規入寮数		定員20人未満	母子支援員	1.0	正職	6 6.0
		少年支援員	1.0	嘱託A	0 0.0	
月末入寮数		定員20人以上	母子支援員	3.0	嘱託B	1 0.3
			少年支援員	2.0	派遣	0 0.0
				計	7	6.3

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	倫理綱領、運営指針、記録方法について	母子生活支援施設の倫理綱領、国の施策、日誌など記録方法の重要性・記入内容の統一について確認した
5月	入所の流れについて	緊急一時や入所の流れについて確認した
6月	母子生活支援施設からみた子どもの愛着形成	母子生活支援施設の職員の立ち位置、母親の育ち直し、愛着関係について学んだ
7月	第三者評価について	第三者評価受審のねらいや自己評価方法について確認した
8月	ひきこもりの理解と対応	ひきこもりの概要と関わり方について学んだ
9月	災害時対応について	災害時マニュアルの確認と、フィールドワークによる危険箇所の洗い出しが行った
10月	虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える生活の中の支援	日々の丁寧な支援が心理的治療につながることや、行動の意味を学んだ
11月	不審者対応について	不審者対応マニュアルを確認し、ロールプレイを行った

12月	DV 被害の母子支援について	DV や虐待による影響や支援方法について学んだ
2月	精神疾患を抱えた親への子育て	精神疾患がある親の生きづらさと支援方法について学んだ

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
毎月	たいけんひろばふあんふあーれ	利用者とアフターを対象にした体験の機会と食事を通した居場所づくり
4月	お花見	花見をして季節を感じる
5月	母の日・子どもの日	動物園に行き、リフレッシュする
6月	大掃除	寮内の清掃
7月	七夕会	親子で七夕飾り作りや短冊を笹に飾る
8月	日帰り旅行 バーベキュー 鶴心寮ふれあい祭り	弥高山でカレー作り、散策、自然観察などを行う 利用者、退所者が一緒にバーベキューを楽しむ 夜店、花火など祭りの雰囲気を楽しむ
12月	クリスマス会 母子行事 餅つき 年越し会	ツリーの飾りつけ、ゲーム、ケーキづくりなどを楽しみ和やかな場を過ごす 母親と子どもに別れて外食を楽しむ 食事のマナーを身につける 千歳楽保存会及び地域住民と餅つきを楽しむ 年末年始を寮内で過ごす世帯とともに料理を作り食卓を囲む
2月	節分会	豆まき、ゲームなどを楽しむ
3月	ひな祭り会	美觀地区の雛めぐりをする

児童家庭支援センタークムレ

【事業実施概要】

相談からサービスまで切れ目のない利用者支援の実現を目指して、水島拠点の相談支援事業所やサービス提供事業所、関係機関や地域住民を含めたチームプレイにより、子育て家庭への支援をより総合的に行うことを目指し事業に取り組んだ。「子ども・家庭を支える児童家庭支援センターの役割」をテーマとし、児童相談所のS V. を受けながら、中四国児家セン協議会での発表を行なったことで、今後進むべき方向性が確認できたこと、あるいは支援ツールを通して、相談・支援の考え方やその方法を職員が一同を介して学ぶことができた一年だと感じる。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	終結像を描いたうえで、相談者のエンパワメントに着目した相談支援ができる	<ul style="list-style-type: none">・児相や外部心理士によるS V.、事例検討実施(隔月)・アセスメントツールや事例検討等の研修参加(随時)	<ul style="list-style-type: none">・児相・外部心理士によるS V. を受講(隔月実施)・児相によるS V. にて指導を受ける(隔月)
2	関係機関に児家センの活動内容を知ってもらうことで、相談につなげる	<ul style="list-style-type: none">・学校教職員に向けた、児家センの取組紹介(6月)・主任児童委員の勉強会や家庭児童相談連絡会、要保護児童対策協議会で取組を紹介(年6回)・ホームページによる情報発信(月1回以上)・作品展など関係機関を招く行事の実施(年2回)	<ul style="list-style-type: none">・ケース会議を通じて、対象校12箇所、関係機関6箇所に紹介・年7回実施・体験学習・子ども食堂等の記事をアップ(随時)・子ども食堂を通じ、行政・社協などの関係機関を招待(年2回実施)

3	サロンや研修会への主体的な参加により、里親・里子とのネットワークを強化する	<ul style="list-style-type: none"> ・里親サロンや研修会での託児や会場準備の手伝い(年10回) ・イベント企画および行事の手伝い(年1回) ・里親家庭に対する訪問、来所による相談支援(毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年9回実施 ・年2回実施 ・対象家庭1世帯:隔月実施
4	社会的養護や家庭的養護各施設との一体的な支援で、自立した地域生活を支える	<p><鶴心寮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会議の実施(隔月) ・定期面談同席、支援会議やケース会議への参加で支援の状況把握(月1回) ・出張相談(ミニ講座等)で具体的な相談につなげる(月1回) <p><夜間保育園></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通するケースにおいて事例検討をし、気になる子どもの支援にあたる (社会的・家庭的養護調整会議) ・利用者同士、職員同士の相互交流の場として簡易クッキングを実施(随時) <p><児童養護施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設退所者のアフターフォロー 	<ul style="list-style-type: none"> ・隔月実施 鶴心寮と児家センターの協働の意義を検討し、目的の明確化を図る ・合同会議と並行し、児家センターによる支援の連携の在り方を模索→30年度より実施 ・鶴心寮“遊ぶ会”への心理士の参加(後期より月1回) ・毎月会議にて互いの利用者、あるいは地域ニーズについて状況把握を行う ・子ども食堂を通じて、年2回実施 ・該当家庭1世帯
5	予防的視点に基づいたアウトリーチ活動を通し、地域の困りごとに寄り添う	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師と連携することで、地域の気になる子どもへの支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回水島保健推進室と話し合いを実施(子ども包括支援セン

	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師とのケース会議実施(随時) ・C S Pを地域の対象者に向けて実施(随時) ・地域住民と一体的に食事会や学習支援を実施することで地域ニーズを把握し、敷居の低い場での相談に繋げる。相談者のアフターフォロー、居場所づくりにつなげる(月1回) 	<p>ターについての勉強会実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要対協の進行 管理会議にて状況確認(隔月) ・児家セン・ひろばにじいろにて、計7回実施 ・子ども食堂 計11回 体験学習 計6回 <p>※地域交流スペースの活用は未実施</p>
--	--	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	互いにサポートできる体制をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・報告、連絡、相談のルールや仕組みを再検討し、何をどのように伝えるかを明確にする ・共有できる連絡表にて、情報の伝え漏れを防ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼で互いの業務の確認と業務終了後の報告を徹底(業務日誌の再活用) ・w a w a. を活用しての情報の共有(スケジュール管理を含む) ・担当ケースの把握と役割調整を実施(後期実施)
2	定時退社実施(週2日)	・業務の優先順位をつけ、定時退社を実現(週2日)	・声掛けは十分できているが、個人差がある
3	リフレッシュを目的とした有給休暇の取得(年次	・本人希望にて、計画的に有給休暇を取得(年次有給休暇の	・毎月の希望聴取と計画的取得を行

	有給休暇の半数)	半数)	い、年次有給休暇半数取得は実施完了
--	----------	-----	-------------------

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	避難訓練の実施（月1回）	<ul style="list-style-type: none"> センタークムレと合同で避難訓練実施（月1回） 緊急時マニュアル見直し（上半期） 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施（年2回：法人合同訓練を含む） 緊急時マニュアル：見直し完了 <p>※敷地内での訓練実施に関しては、次年度計画見直しの必要性あり</p>
2	不審者対応訓練の実施（年1回）	<ul style="list-style-type: none"> 警察のアドバイスのもと、センタークムレと合同で不審者対応訓練実施（年1回） 不審者対応マニュアル見直し（上半期） 	<ul style="list-style-type: none"> 実施完了 不審者対応マニュアル：見直し完了 <p>※敷地内連携においては次年度課題検討が必要</p>
3	地域と連携して、災害時にも事業が継続できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 水島拠点にて災害時事業継続計画の作成（年度内） 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所としてのBCP計画書は作成済み

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	第三者評価を活用した改善	定期的な受審とコンサルテーション	<ul style="list-style-type: none"> 年1回実施
2	利用者アンケートを実施することで相談支援の質向上につなげる	<ul style="list-style-type: none"> 配布郵送調査の実施（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 未実施 <p>※受審該当のみ郵送調査を実施</p>

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	児家センの表示の明確化を図る	・看板の位置変更(年度内)・出入り口の明示(上半期)	・看板設置場所が明らかになるよう、鉢物等を設置し、視覚化した
2	施設内環境を整える	・草抜きや施設周囲清掃の実施(毎週金曜)	・定期的な除草の実施と花壇の設置変更、並びに季節の草花を植栽する

【利用者数・職員配置】

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
電話	実績	78	88	124	117	49	101	116	114	133	127	135	111	111	-	1,293	-
	H28年度実績	44	40	33	29	29	43	30	50	30	41	97	114	97	14	466	827
	H27年度実績	41	48	38	36	30	31	49	40	37	33	28	41	28	83	411	882
来所	実績	44	72	46	38	41	58	23	54	39	43	49	65	65	-	572	-
	H28年度実績	37	48	33	33	39	33	41	37	33	38	59	94	59	6	431	141
	H27年度実績	41	32	28	54	50	42	38	44	50	42	40	41	40	25	461	111
訪問	実績	56	65	41	77	63	57	43	62	37	27	42	53	53	-	623	-
	H28年度実績	34	31	42	42	35	29	31	39	45	41	72	72	72	-19	441	182
	H27年度実績	34	29	35	38	35	31	43	33	45	41	27	34	27	26	391	232
新規受領件数	実績	7	8	12	8	11	14	13	6	6	6	3	9	9	-	113	-
	H28年度実績	5	7	8	8	7	7	5	13	15	4	7	6	7	2	86	27
	H27年度実績	11	3	15	15	8	2	21	15	9	8	10	11	10	-1	117	-4
児相委託	実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-
	H28年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H27年度実績	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-3	33	-33
ケース会議	実績	1	1	4	2	3	0	0	1	1	2	3	2	2	-	20	-
	H28年度実績	3	1	5	6	4	3	3	2	3	0	8	6	8	-6	38	-18
	H27年度実績	1	6	5	4	4	4	3	5	7	3	6	1	6	-4	48	-28
心理療法・検査	実績	15	16	15	17	12	13	9	14	14	7	13	13	13	-	168	-
	H28年度実績	5	7	5	9	6	10	8	11	12	9	12	20	12	1	94	74
	H27年度実績	4	4	8	16	17	6	13	11	8	13	11	4	11	2	111	57

単位：名

配置基準		実員		換算
責任者	1.0	正職	4	1.0
心理士	1.0	嘱託A		1.0
児童福祉士	2.0	嘱託B		2.0
		派遣		
計	4.0	計	4	4.0
			過不足	0.0

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	基本業務	児家センクムレでの業務について
5月	相談業務	児童家庭支援センター運営ハンドブックについて
6月	制度	児童福祉法改定後の新たな家庭福祉のあり方について

7月	基本業務	アセスメントについて ・ニーズシートの活用 ・個人情報の取り扱い・記録
9月	業務標準	中四国児家セン協議会の振り返り 業務マニュアルの作成
10月	出張報告	全国児家セン協議会報告
11月	制度	里親制度と里親支援について
1月	実践	実践発表ショミュレーション
2月	専門 制度	心理検査の種類と目的 DVに対する制度やDVから受ける影響について
3月	基本業務 ↓	業務標準のまとめ ↓

【年間行事】

実施月	行事項目		実施内容
5月	ひだまりカフェ (子ども食堂)		簡単ピザづくり
6月		体験学習	やきそば あじさいゼリー
7月			夜間保育園との交流
8月	体験学習		ひんやりゼリーづくり モビール製作
9月			白玉団子づくり
10月	体験学習		お弁当作り ピクニック
11月			クレープづくり
12月			夜間保育園との交流
1月	体験学習		おでんづくり 書初め大会
2月			シチュー・チョコフォンデュ
3月	体験学習 ↓		お弁当作り ピクニック

児童発達支援センタークムレ

【事業実施概要】

「チャイルドファースト」という子ども観のもと、子どもとしての豊かな発達を支援するため、保育指針と発達支援ガイドラインを基盤とした4領域における支援の枠組みを体系化した。支援にあたっては、子どもたちが“はたちになった姿”を保護者と共にし、地域で生きることを念頭に切れ目のない支援を具体化してきた。

親子通園では、早期に地域移行していく母子支援を実施し、単独通園は年次別や異年齢活動に加え、地域参加と交流を行う活動を積極的に取り入れ成果が認められた。また、家族支援においては、当事者同士が支え合う意識の醸成及び支え合う場づくり、卒園後の居場所づくりに積極的に取り組み、理解者を増やす住民への啓蒙活動は、住民・保護者・保育関係者を交えたサポートー育成とその活躍の場の提供を行った。

その結果、地域共生社会の実現に向けて、当事者である家族と住民がセンター内外でつながり、活気に満ちた日々となった。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none">・法人階層別研修・専門研修・事業所内研修（拠点合同、全職員：月1回）・実践研究・多職種協働によるケース検討（月1回）・出張伝達講習の定例化	<ul style="list-style-type: none">・階層別研修：全員参加、各階層に求められる役割と責任を認識後、事業所内でOJTを継続した。・事業所内研修：対人支援者の職業倫理、本人支援、家族支援、地域支援各領域の基本的理解を促した。・実践研究：拠点で研究チーム編成、2題入賞。保育と発達支援の共通項や付加事項等、インクルーシブ保育に向けた新たな実践課題を見出す。・ケース検討：クラス持ち回りで月1回実施。次月に実施経過を報告、支援の質の向上に役立てた。
	本人支援 子どもの権利擁護	<ul style="list-style-type: none">・尊厳と自立支援（意思決定、合理的配慮）・意思表示方法の工夫等	<ul style="list-style-type: none">・人としての尊厳保持、自立支援子どもの人権擁護と職業倫理観の育成：専門研修として人権倫理委員会と合同で全員受講。その後、

		<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズの実現のため、アセスメント力向上 ・個別性に配慮した活動を行うため、二十歳の姿をイメージして集団の中で生きる力を育む支援の体系化 <p>年長児特別活動</p> <p>倉敷芸術科学大学との共同研究（自閉スペクトラム症児への五感育成活動）</p> <p>地域で過ごすことを重視した親子通園における循環型利用の推進</p>	<p>具体的行動指針を掲げ進捗確認、日常支援の中で子どもの人権を守る必要性を意識。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育指針と発達支援ガイドラインをベースに4領域（健康、人間関係、環境、言語・表現）の年間活動計画を策定、支援の枠組みを体系化した。 ・個別性に配慮し、個々のニーズ実現のため、保護者と共に「二十歳の姿」をイメージし年間活動計画に基づく個別支援計画作成。プランと月案、週案、日案がリンクする実践をした。 ・活動：年次別、異年齢、集団、地域活動を織り交ぜ、4領域の随所に成果が認められた。 ・年長児：キッズボラ、お手伝い活動、地域参加など人の役に立つ活動導入、達成感と自己有用感を持つ機会となった。 ・年長児 20 人を前期・後期（各3回）実施。心を開放し自由に製作する喜び、期待感、楽しむ時間を持つことができた。 ○多様な経験をする機会は、親と子に笑顔、ワクワク感、元気をもたらし、活気が出てきた。 ・地域で過ごすことを大切に、短期間利用を意識し親子支援を行った。ママボラの力を借り、低年齢の母子を支えつつ、地域の園への受け皿づくりをした。 ・親子通園座談会：ママボラ、OB ママボラを中心に進めた。先輩ママが後輩ママの不安に寄り
--	--	--	---

			<p>添い、具体的な問題を解決する場となり、当事者同士の仲間意識が強くなってきた。</p>
	<p>① チームアプローチの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小ざくら保育園とのインクルーシブ保育 ・専門性を発揮できる環境づくり、多職種協働による包括的支援 ・サービス調整会議(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児は小ざくら園でプールやリトミック、草取りなど共に行った。子ども同士助け合いや物おじしない障がい児の姿に保育者の意識変化が認められた。 ・サービス調整会議：多職種協働、包括的支援は未徹底。児発管の更なる意識変容必要。
2	<p>① 保護者との協働関係の強化</p> <p>②家族のエンパワメント支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア・トレ(合同年2回) ○保護者勉強会と情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・就学前勉強会 ・地域情報資源等情報提供 ○家庭訪問 ○座談会や個別懇談(定期・必要時) ・保護者同士のつながり強化(家族会、保護者会) ・学びの機会(月1回) ・獲得した力を家庭や地域で発揮できる環境調整 ・就学前の支援 ・家族関係の調整 ・きょうだい児・祖父母：遊びと語りの場の提供・園庭解放、卒園児支援 ○保護者会活動支援(リフレッシュ、エンパワメント) <ul style="list-style-type: none"> ・自主運営サークル支援 ・かがやき手帳・先輩ママの活躍の場提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレ：計画通り実施。指導者育成が課題。 ・就学：全対象児希望就学。 ・保護者と地域資源マップ作成し保護者に配布した。 ・定期座談会以外に保護者とOBママとの座談会、サポーター養成講座修了ママの座談会、ママカフェ(親子通園)など多彩な座談会になった。 ・保護者、ママ同士が仲良くなり活気があった。ママカフェや保護者会を中心に親が繋がった。 ・支え合いの居場所づくり：お家カフェ、にじいろたまごの会など多様な場所で保護者主体のピアサポート、居場所できた。 ・OBママボラ、サポーター、保護者が一体となって、自らの才能を活かしたイベント企画・実施や自主企画活動も盛んになり、ミニ音楽会、人形劇等子どもたちの楽しみ支援実施。 ・かがやき手帳の書き方指導も先輩ママが主導した。

3	<p>① 機関連携・地域 関係づくり</p> <p>② 地域住民も参 加できる場づ くり</p> <p>③ 地域社会への 障がいの理解 と啓発</p> <p>④ 地域子ども支 援力向上</p> <p>にじいろ活動</p>	<p>○機関連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所訪問（情報共有、つなぐ支援） ・健診保育（保健師と情報共有、予防的つなぎ支援） <p>○フォーマル・インフォーマル機関連携・協働</p> <p>保健師、ゆめぱる、にじいろ、地区社協、児童委員等連携し家庭への支援</p> <p>○ボランティア受け入れ：</p> <p>地域住民・保護者OB・中高大学生（水中・中央高校・くらしき作陽大学、くらしき芸術科学大学・福大・川短・中短等）</p> <p>○実習生受け入れ：県大、川短、中学大、日福、中央高校</p> <p>○ひろば、町内会、大学、福祉施設とコラボ</p> <p>○日常活動への住民参加と交流機会</p> <p>○地域啓蒙活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座 <p>○サポーター1期生活躍の場と情報交換の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑の活用（栽培・収穫物で地域交流） ・気軽に相談 ・ゆめいろ、なないろ教室 ・住民主体の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期教育の場へのつなぎの支援 <p>幼稚園1園、小学校4校計5名への支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診保育：月1回保健師と情報交換し、地域ニーズを把握。 ・すくすく教室（倉敷3クール、水島2クール）派遣し、ひろば（ゆめいろ・なないろ）へのつなぎの支援や親子通園・保育園等資源との調整を行った。 ・ボランティア：左記の人たちに加え、そらいろサポーター（サポーター講座修了生）も日常支援、行事など多数協力。 ・常連のボラは、クリスマス会に招待、感謝の日とした。 <p>左記学校より実習受け入れ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事は住民・大学生・福祉施設とコラボして実施。日常活動へ住民、学生をボラとして受け入れ交流をしてきた。 ・2期生が終了し合計40名のあおぞらサポーター登録有。活躍の場提供するための案内や情報交換の場を設定した。発達障がいを理解した支え手が地域に輪が広がっていることを実感。 ・ゆめいろ、なないろ教室：地域の気になる子の母と支援者、ママボラの出会い（月1回）。 ・シニア世代と子育てママがひろばの役割を考えた。
---	--	---	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	社会の変化、ニーズに応えられる職業人の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流機会、機関連携を増やしながら拠点・事業所内研修やOJT、職員会議で深める ・施設外研修派遣等 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点・事業所内研修やOJT、職員会議、必要な書類を配布し研修した。 ・外部研修は機会が少ないと思われる。
2	職員の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の尊厳を最優先する支援体制 ・児童発達管理責任者のモニタリング視点の確立 ・支援観統一(サービス調整会議、職員会議等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア会議、サービス調整会議、職員会議等で、左記の内容の周知と徹底をした。 ・業務改善と併せて改善してきた。
3	指導者層の育成 (チーフ、SM)	<ul style="list-style-type: none"> 月1回育成会議(G会議後) ・中間管理職として法人内目標、ビジョンの明確化 ・状況を客観視し分析する力、評価する力育成 ・事実に基づく判断、多角的・複眼的視点、柔軟な発想、創造力、リーダーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> 11月まで、発達支援ガイドラインの抄読、グループ討議、12月グループ統括によるまとめの講義が未開催。 ・副主任以上の参加。ガイドラインに沿い支援をしているのは、Cクムレのみ。
	子ども・保護者とワクワクできる職場	子どもの将来の姿をイメージし楽しめる活動を全員で考え実施する	保護者座談会、役員会、懇談会等で種々提案され、自主企画として実現した。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	消防計画に基づき防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練(毎月)、消防署と協働の火災訓練(年1回)、防災設備点検委託(年2回) ・災害時を想定した備蓄 	<ul style="list-style-type: none"> 消防計画に沿って実施 地震については、レベルを想定した訓練実施
2	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内外安全点検 ・不審者訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内外安全点検(毎月) 水島警察と協働(年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> 定期実施と確認 不審者訓練は感染症の発生

	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎車両安全点検 ・救急法の研修会 	<p>毎日：送迎時の交通マナー 専門研修（年1回）</p>	等により1回のみ実施
3	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の消毒 ・玩具等消毒徹底 ・感染予防：情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・害虫駆除・樹木消毒の実施 ・毎日・月1回点検 ・毎月の健康だより 	定期的実施と確認

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	利用者アンケート	11月アンケート配布・回収、12月集計、2月報告	11月できず、3月実施し、改善点は次年度事業計画へ
2	子どもとしての多様な経験の機会提供	年間行事、活動参照	公民館、児童館、高齢施設 キッズボラ・交流、公共交通機関利用、買い物、公園保育園と交流
3	切れ目のない支援	相談からサービス提供、新たな資源開発	健診保育やすくすく教室からひろば、ひろばから親子通園、小学校とのカンファレンス、卒園後もつながる母親同士の居場所づくりを保護者と共に行った。

【施設整備】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	相談室の改修	5月、カーペット張替え カーテン交換、壁紙改修	相談室向きのカーペット、壁、カーテン改裝
2	親子棟雨漏り修理	廊下屋根の張替え、修理	親子棟外廊下屋根張替え
3	親子棟廊下傾斜面	6月修理	傾斜の修理（平面に）

【利用者数・職員配置】

利用者数：定員 50 人（単独通園 40 人、親子通園 10 人）

	児童発達支援		日中一時支援	保育所等訪問
	単独	親子		
利用者定員	40 名	10 名		
利用者延数	10706 名	269 名	名	名
一日平均利用者数	40 名	10 名	名	1 名
利用率 (%)	100%	100%		50%
開所日数	269 日	269 日	日	269 日

単位：名

職員 数 (常 勤換 算)		管理者 (兼務)	児童発達支援 管理責任者	指導員 保育士	栄養士	調理員	機能訓練 担当職員他	計
	配置基準	1	1	12	1	1		1 6
	正規職員	1	1	1 2	3	1	1	1 9
	パート			7			2	9
	計	1	1	1 9	3	1	3	2 8

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	福祉に従事する者の職業倫理	・専門職に求められる判断と行動の規範のを理解し、日常支援に活かす。
5月	発達障がいの理解と支援の方法 0歳～2歳児の発達	・障がい特性を子どもの目線で理解し、生活のしづらさの軽減方法を正しく理解。 ・0歳～2歳児の発達理解
6月	水島拠点の地域支援事業の理解 新人研修：遠城寺発達検査の理解	・ひろば、保育所等訪問、保護者ボラ、サポーター養成、小さくら園など“子ども発”地域につなぐ支援、地域づくの現状を理解。 ・発達検査の目的、方法の理解
7月	組織が求めるコミュニケーション 新人研修：3歳～5歳の発達	・組織内の「報・連・相」の内容、仕組みを理解し気づき力、考える力を養う。 正規発達状態を理解
8月	新人研修：自閉症スペクトラムとは	・子どもの視点で困り感を理解

9月	新人研修：氷山モデル	・子どもの行動から要因を見つけ対応する
10月	合理的配慮の理解 新人研修：太田ステージ評価	・支援事例を通して合理的配慮を考えた。 ・認知発達段階評価方法を理解
11月	アセスメントから遊びへの組み立て方	・ST 視点：アセスメントに基づく遊びの組み立て方を知り、支援に活かす。
1月	次年度拠点事業の理解	キヤップ以上階層に説明・理解
2月	家族とのコミュニケーション（受容・共感・傾聴）	障がい児をもつ家族の心理と障がい受容過程を理解
3月	次年度事業計画の理解	次年度拠点事業計画の考え方等の理解

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	入園式・在園児新年度説明会 保護者勉強会・家庭訪問 個別懇談	法人理念・目標、支援方針・方法、苦情解決等説明 家庭、園児・家族の支援課題把握、支援計画に反映、 家庭での遊びや過ごし方を共に考える環境支援
5月	保護者勉強会・座談会	C クムレ事業計画と支援について
6月	就学勉強会・座談会	進路について保護者が考える機会の提供
7月	夏祭り	家族・地域、学生ボラと夏祭りを楽しむ
8月	年長児課外活動 きょうだい児支援	保護者と離れセンター外で活動する就学準備 スポーツ、ゲーム、遊びを通した支援
9月	家庭訪問・個別懇談	
10月	One デー m a r c h いも堀り遠足 保護者勉強会・座談会	散歩で得た体力を発揮、家族間交流、住民との交流 収穫を親・ボランティアと楽しむ
11月	年次別発表会	成長した姿共有し子育て意欲喚起、愛着形成
12月	クリスマス会	地域ボランティア、主任児童委員、サポーター などを招待し、一緒に Xmas を楽しんだ。
1月	もちつき・ミニコンサート	主任児童委員ボラ、学生ボラを交えて、季節の 行事を楽しんだ
2月	豆まき・人形劇・個別懇談	ママボラと季節の行事や人形劇を楽しんだ
3月	卒園遠足 在園児・新入園児説明会 卒園式	保護者会と共に 支援の方向性共有、保護者の意見を運営に活かす

児童発達支援事業所 きらり水島

【事業実施概要】

きらり水島は、水島地区を中心とした発達支援を必要とするお子さん、ご家族、園と小学校への支援を実施してきた。支援内容としては、利用児の発達特性に応じて個別や小集団での支援を行い、支援内容をご家族と共有した。保護者が子育てに自信が持てるような関わりの実践や研修の機会も設定した。また、地域の園や小学校での生活において、お子さんが生活しやすいよう、書面（連絡帳）・訪問・会議等の手段で担当の先生方と支援方法を共有している。

特に、小さくら保育園とはチームで支援を組み立てており、発達特性のあるお子さんが地域で生活しやすくなることを目的として、協働での取り組みを展開した。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	① 人材育成 ② 子どもの権利擁護 ③ チームアプローチの充実	① 年間で、年間計画に沿って法人内階層別研修・専門研修・拠点研修を実施。 ② 毎日の晨礼で子どもとの関わりについて意見交換する。 ③ アセスメントと通所支援計画立案時、他職種協働による包括的支援を実施。年間を通して、小さくら保育園とのチームアプローチを行なう。	① 3種の研修を受講した。特に専門研修（人権倫理）での目標行動指針を立てた後は、年間で継続してモニタリングすることによりテーマを意識した利用児への関わりが実践できた。 ② 実施。 ③ 医療機関、栄養士、児童家庭支援センターとの連携、相談支援事業所との情報共有を行い支援に活かした。
2	① 保護者との協働関係の強化 ② 家族のエンパワメント支援	① ・ペアレントトレーニングの実施（年2回） ・就学児懇談（年2回） ・家庭訪問（在宅児）	① ペアトレの開催（2ヶ月）、各懇談を実施し、保護者の力を高められるよう働きかけた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け勉強会（8、1月） ② ②・茶話会（7、11、2月） ・サポートブック作り講習会（6月） 	<p>② 座談会、サポートブック作り講習会（3回）やツール作成会を通し、家庭での実践に繋げていけるよう働きかけた。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ① 機関連携 ② 地域住民も参加できる場作り ③ 地域社会への障がいの理解と啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間で園・学校訪問、ボランティア・実習生の受け入れ ② 小ざくら保育園祭りの参加（秋頃） ③ サポーター養成講座（初級、中級、上級）年2回の開催。なないろ・ゆめいろの日と教室の参加。小ざくら保育園職員向け勉強会の実施。（年2回） 	<p>① ケア会議、園訪問、勉強会、3者懇談、連絡帳の共有。利用児所属の園、小学校との連携（訪問やケース会議）介護実習、職場体験、SW（機関連携で単発）実習、ボランティアの受け入れ等を行った。子育て・自立Gからの他事業所体験実習も受け入れている。</p> <p>② 秋祭りだけでなくひろばにじいろの赤提灯やカフェ、水島港まつりへのボラ参加を通して、地域住民との交流を図った。</p> <p>③ サポーター養成講座を実施した。ゆめいろ・なないろは、相談日や教室に参加し、地域の発達が気になる子を育てる母親の相談を聞き、つなぎの支援を実施した。</p>

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	目標管理活動に取り組む	年間で目標管理シートを活用して取り組む。	実施済。
2	職員の意見交換がしやす	・朝礼と昼礼で報告連	・朝礼と昼礼の実施。

	い風土作り	絡相談の徹底 ・年2回 親睦会	・センタークムレ、きらり玉島、水島の合同で送別会を実施。(3月)
--	-------	--------------------	----------------------------------

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	防災訓練	毎月実施	毎月、実施。
2	マニュアルの見直し	現在のマニュアルが現状に即しているか確認し、必要な部分を修正し、周知する。	安全点検表に備蓄品の賞味期限を確認する項目を作り、点検している。
3	防災研修	年2回、外部講師（警察署）による不審者訓練。	警察官を招き、不審者訓練を1月に実施した。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	サービスの終了時のつなぎの支援を実施。	3月に引き継ぎ書の作成、ケア会議の実施	引き継ぎ書（21人）の作成を行なった。
2	利用者アンケートの実施。	11月にアンケートを配布する。	第三者評価受審の際に利用者アンケートを配布した。(7月)

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	なし	なし	なし

【利用者数・職員配置】

平成29年度 3月予算実績管理表

事業所名: きらり水島

責任者名: 川上 亜仁

I 利用者動向

■児童発達支援 定員10名

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	183	208	223	207	211	217	230	213	205	187	192	213	213	-	2,489	-
計画	190	200	220	200	200	200	220	200	210	180	190	210	210	3	2,420	69
H28年度実績	194	205	232	217	210	229	219	225	209	206	211	223	223	-10	2,580	-91
H27年度実績	199	216	257	241	226	220	242	232	228	215	200	212	212	1	2,688	-199

■放課後デイサービス

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	26	16	18	29	20	26	13	27	15	24	29	21	21	-	264	-
計画	30	20	30	40	30	40	20	40	20	40	40	30	30	-9	380	-116
H28年度実績	18	12	24	22	16	21	20	21	23	20	21	21	21	0	239	25
H27年度実績	10	10	11	10	8	8	9	10	9	9	7	8	8	13	109	155

II 月間開所日

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	22	22	25	24	23	24	24	23	22	23	24	24	24	-	280	-
計画	22	22	25	24	23	24	24	23	22	23	24	24	24	0	280	0
H28年度実績	21	22	25	24	23	24	24	23	23	23	24	24	24	0	280	0
H27年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	22	22	22	22	2	270	10

III 月平均利用者数

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異
実績	9.5	10.2	9.6	9.8	10.0	10.1	10.1	10.0	9.6	9.6	9.6	9.8	9.8	-	9.8	-
H28年度実績	10.1	9.9	10.2	10.0	9.8	10.4	10.0	10.3	10.1	9.8	10.1	10.2	10.2	-0.4	10.1	-0.2
H27年度実績	10.5	10.3	10.7	10.5	10.2	10.9	10.5	11.0	10.3	10.2	9.4	10.0	10.0	-0.3	10.4	-0.5

IV 概算収入

請求額	
児童発達支援	2,406,900
放課後等デイサービス	237,300
合計	2,644,200

V 契約数

契 約	件数
新規契約	0
契約数／月末	56
幼児	40
学童	16
待機者数	8
幼児	8
学童	0
当月契約終了	1
幼児	1
学童	0

VI 職員配置

職種	基準	実員	換算	過不足	備考
管理者	1	1	4.9	0.9	兼務
指導員・保育士	3	6			福祉専門職配置等加算
児童発達支援管理責任者	1	1	1	0.0	発達支援管理責任者専任加算
機能訓練担当職員	0	0	0	0.0	特別支援加算

※定員基準

単位ごとに当該支援を行う時間帯を通じて専ら当該支援の提供

にあたる指導員又は保育士の合計数が以下の必要数以上

(※1人以上は常勤)

・障害児の数が10まで 2人以上

・障害児の数が10を超えるときは、2人に、障害児の数が10を超えて5又はその端数を増すごとに1人を加えた数以上

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	なし	権利・倫理・虐待予防研修
5月	福祉に従事する者の職業倫理	福祉に従事する者の職業倫理 0～2歳児の発達
6月	発達障がいの理解と支援の方法	発達障がいの理解と支援の方法
7月	地域支援事業の理解	地域支援事業の理解
8月	なし	自閉症スペクトラムとは
9月	組織が求めるコミュニケーション	組織が求めるコミュニケーション
10月	合理的配慮の理解	合理的配慮の理解 太田ステージ評価
11月	アセスメントから遊びへの組み立て	アセスメントから遊びへの組み立て
12月	なし	なし
1月	なし	なし
2月	家族とのコミュニケーション	家族とのコミュニケーション
3月	なし	なし

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	なし	
5月	なし	
6月	サポートブック作り講習会	保護者向け勉強会 サポートブック作り講習会
7月	茶話会	茶話会
8月	保護者向け勉強会	
9月	就学児懇談	ツール作成会、就学児懇談
10月	幼児レクリエーション	幼児レクリエーション
11月	茶話会	サポートブック作り講習会
12月	就学児懇談、幼児レクリエーション	幼児レクリエーション 就学児懇談（希望者のみ）
1月	保護者向け勉強会	サポートブック作り講習会
2月	茶話会	茶話会
3月	幼児レクリエーション	幼児レクリエーション

児童発達支援事業所 きらり玉島

【事業実施概要】

きらり玉島は、玉島地区を中心とした発達支援を必要とするお子さん、ご家族、園や小学校への支援を実施してきた。特に利用児の所属する園や学校への訪問、病院（リハビリ）訪問については積極的に実施してきた。（全42件）また保護者会である「かたつむりの会」に参加することで、同じ玉島地区で暮らす障がい児のご家族の相談支援にも携わってきた。さらに「玉島就活プロジェクト」や「玉島母子保健連絡会」を通して、玉島地区のネットワーク作りにも励んできた。今後も玉島のネットワークを通して、顔の見える関係作りを強化していくことで、障がいのある子どもとそのご家族が地域住民に理解され、自分らしく生活していくことができるような支援や地域作りを目指していきたい。

【事業詳細】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	① 人材育成 ② 子どもの権利擁護 ③ チームアプローチの充実	① 法人階層別研修 専門研修、拠点研修 ② アセスメント力の向上 ・子どもの個別性に配慮した活動、支援の見直し ・子どもの個々のニーズ実現 ・意思表示方法の工夫 ・職業倫理 ③ 支援計画実施における専門性の発揮 ・多職種協働の支援 (年2回) ・サービス担当者会議の実施	① 参加済。 ② 年2回、アセスメントシートに基づいて通所支援計画書の作成を行なった。 プレイエリア内の玩具要求カードの見直し及び作成。 ③ 7月に2名のケア会議の実施。（相談支援専門員、所属園の先生、きらり）
2	① 保護者との協働関係の強化 ② 家族のエンパワメン	① 保育者見学週間の実施 ・在宅児の家庭訪問 ・就学前懇談	① 家庭訪問の実施。 (5月) ・就学前懇談の実施。

	ト支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者勉強会 ・未就園児懇談 ・ペアレントトレーニング (5、10月) ② ②・就学前勉強会 (6月) ・かがやき手帳勉強会 (7、1月) ・茶話会 (7、2月) 	<ul style="list-style-type: none"> (6月、12月) ・保護者勉強会の実施。 ・就園前懇談の実施。 (7月) ・ペアトレの実施。 (5、10月) ② ②・就学前勉強会は児童発達支援センタークムレと合同で開催。 ・かがやき手帳勉強会は玉島児童発達支援センターと合同で開催。
3	① 機関連携・地域関係づくり ② 地域住民も参加できる場づくり ③ 地域社会への障がいの理解と啓発 ④ 地域子ども支援力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・所属園訪問：隨時 ・医療、保健、園、学校等連携 ・環境調整：1／2W ・ボランティアの受け入れ ・かたつむりの会 ・ち一む玉島修活 PJ ・サポーター養成講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児36名、学童2名の所属園訪問の実施。 ・幼児4名のリハビリ見学の実施。 ・市立玉島高校のインターシップ ・かたつむりの会（1回／2ヶ月）参加。 ・ち一む修活 PJ（1回／2ヶ月）参加。 ・サポーター養成講座の開催済。

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	職員間コミュニケーションの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、終礼時に子どもに必要な情報共有を行なう。 ・お互いの立場や能力を理解し、子どもの立場に立って話し合う。 	朝礼・終礼の実施。
2	目標管理活動に取り組む	年間を通して、目標管理香津堂シートを使用して実施する。	実施済。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	災害・不審者を含む対応訓練の実施	・毎月、防災訓練を実施 ・警察署と協働不審者訓練 (年1回)	・実施済 (毎月) ・実施済 (10/12)
2	安全な事業所運営 安全点検の実施	毎月、安全点検を実施	実施済。(毎月)
3	安全な事業所運営 衛生管理の実施	毎月、衛生管理を実施	実施済。(毎月)

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	サービス終了時の繋ぎの支援の実施	3月に引き継ぎ書の作成、ケア会議の実施。	引き継ぎ書の作成済。就学先への訪問の実施 (3件)
2	利用者アンケートの実施	11月にアンケート配布・回収、12月集計、2月報告	第三者評価受審の際に利用者アンケートを配布した。

【施設整備】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	なし	なし	なし

【利用者数・職員配置】

平成29年度 3月予算実績管理表											事業所名: きらり玉島			責任者名: 井手佳織		
I 利用者動向											II 放課後デイサービス			III 月間開所日		
■児童発達支援 定員10名											■放課後デイサービス			■月間開所日		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	181	193	221	212	206	196	195	211	214	216	215	220	220	-	2,480	-
計画	190	200	220	200	200	200	210	200	200	190	190	200	200	20	2,400	80
H28年度実績	183	191	212	199	196	210	211	232	206	205	192	217	217	3	2,454	26
H27年度実績	172	185	201	208	196	201	237	200	215	205	202	201	201	19	2,423	57
■放課後デイサービス											■月間開所日			■請求額		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	28	18	26	32	18	32	15	18	17	18	13	20	20	-	255	-
計画	30	20	30	40	30	40	30	30	30	40	40	40	40	-20	400	-145
H28年度実績	20	10	22	25	23	23	17	19	22	16	17	24	24	-4	238	17
H27年度実績	20	17	21	17	16	19	16	15	16	15	13	14	14	6	199	56
■月間開所日											■請求額			■契約数		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	22	22	25	24	23	24	24	23	23	23	23	24	24	-	280	-
計画	22	22	25	24	23	24	24	23	23	23	23	24	24	0	280	0
H28年度実績	21	21	24	24	24	25	24	25	23	23	23	24	24	0	281	-1
H27年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	22	22	22	22	2	270	10
■月平均利用者数											■職員配置			■請求額		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異
実績	9.5	9.6	9.9	10.2	9.7	9.5	8.8	10.0	10.0	10.2	9.9	10.0	10.0	-	9.8	-
H28年度実績	9.7	9.6	9.8	9.3	9.1	9.3	9.5	10.0	9.9	9.6	9.1	10.0	10.0	-0.0	9.6	0.2
H27年度実績	9.6	9.2	8.9	9.4	9.2	10.5	10.5	9.8	10.0	10.0	9.8	9.8	9.8	0.2	9.7	0.0
■職員配置											■契約数			■職員配置		
項目	契約	件数	職種	基準	実員	換算	過不足	備考								
児童発達支援	当月新規契約	0	管理者	1	1	4.6	0	兼務								
放課後等デイサービス	契約数／月末	48	指導員・保育士	3	6			福祉専門職配置等加算								
合計	幼児	39	児童発達支援管理責任者	1	1	0.0		発達支援管理責任者専任加算								
	学童	9	機能訓練担当職員	0	0	0.0		特別支援加算								
■請求額											■契約数			■職員配置		
待機者数	0		職種	基準	実員	換算	過不足	備考								
幼児	0	管理者	1	1	4.6	0		兼務								
学童	0	指導員・保育士	3	6				福祉専門職配置等加算								
当月契約終了	9	児童発達支援管理責任者	1	1	0.0			発達支援管理責任者専任加算								
	幼児	39	機能訓練担当職員	0	0	0.0		特別支援加算								
	学童	9														
■職員配置											■請求額			■契約数		
契約	件数	職種	基準	実員	換算	過不足	備考									
当月新規契約	0	管理者	1	1	4.6	0	兼務									
契約数／月末	48	指導員・保育士	3	6			福祉専門職配置等加算									
幼児	39	児童発達支援管理責任者	1	1	0.0		発達支援管理責任者専任加算									
学童	9	機能訓練担当職員	0	0	0.0		特別支援加算									
待機者数	0															
幼児	0															
学童	0															
当月契約終了	9															
	幼児	39														
	学童	9														
※定員基準											職種			契約		
単位ごとに当該支援を行う時間帯を通じて専ら当該支援の提供											件数			当月新規契約		
にあたる指導員又は保育士の合計数が以下の必要数以上											契約数／月末			当月契約終了		
(※1人以上は常勤)											幼児			待機者数		
・障害児の数が10まで 2人以上											学童			当月契約終了		
・障害児の数が10を超えるときは、2人に、障害児の数が10を超えて5又はその端数を増すごとに1人を加えた数以上											合計			当月契約終了		

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	なし	権利・倫理・虐待予防研修
5月	福祉に従事する者の職業倫理	福祉に従事する者の職業倫理
6月	発達障がいの理解と支援方法（子どもの理解）	発達障がいの理解と支援方法（子どもの理解）
7月	地域支援事業の理解	地域支援事業の理解 3～5歳児の発達
8月	なし	なし
9月	組織が求めるコミュニケーション	組織が求めるコミュニケーション 自閉症児との関わり方
10月	合理的配慮の理解	合理的配慮の理解
11月	アセスメントから遊びへの組み立て	アセスメントから遊びへの組み立て
12月	なし	なし
1月	なし	なし
2月	家族とのコミュニケーション (受容・共感・傾聴)	家族とのコミュニケーション (受容・共感・傾聴)
3月	なし	なし

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	なし	なし
5月	なし	なし
6月	保護者勉強会	実施済。
7月	かがやき手帳勉強会	実施済。
8月	夏祭り週間	実施済。学童、美術館見学実施。
9月	就園前懇談、就学児懇談	実施済。
10月	なし	なし
11月	なし	なし
12月	クリスマス週間、就学児懇談	実施済。
1月	かがやき手帳勉強会	実施済。
2月	茶話会	クッキング（恵方巻）実施。
3月	なし	クッキング（フランクフルト）実施

指定特定相談支援事業所事業所

指定障害児相談支援事業所

クムレとて

【事業実施概要】

平成が 24 年度の事業開始より、障害児相談支援事業を実施しているが、福祉サービス利用希望者の増加に伴い、当事業所の契約者も増加し、1 名の相談支援専門員では対応できなくなっている。平成 29 年度は、相談支援専門員 2 名、相談員 1 名の複数体制で事業をスタートさせ、以前と比較すると、外部での研修や相談支援部会、担当者会議などへの参加が可能となり、ネットワーク作りに努めることができた。契約者への対応に関しては、計画作成は実施できたが、モニタリングの対応が不十分であり、大きな課題となっている。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	相談支援契約者に対しての障害児支援利用計画の作成	受給者証更新時期に合わせて、または新規利用に間に合うように、個々の状況に応じたプラン作成を行う。	3 名のスタッフ体制により、タイムリーに更新手続きに対応できた。内容に関しては、サービス事業所との情報共有に努め、児童の実態に即したものを作成できた。
2	定期的なモニタリングの実施	個々に合わせた契約内容の時期にモニタリングを実施する。	モニタリング時期での対応が難しく、全体的に遅れがちであった。 サービスや支給量の変更などに関しては、その時期に合わせた対応を行った。
3	サービス担当者会議の実施	サービス提供開始時、モニタリング時に、担当者会議を実施する。	必要時に、関係機関・保護者での担当者会議を実施した。 全ケースへの対応は出来ていない。

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	相談員、相談支援専門員の増員		半年間は、スタッフ 3 名体制で、役割分担をしながら業務にあたることができた。後半は減員（1 名退職、1 名異

			動) となつたため、必要な業務の遂行は難しい結果となつた。休暇の取得も困難であつた。
2	職員間の連携、相談支援専門員の知識・技術の向上、関係機関とのネットワーク作り	・相談記録の整備 ・相談支援専門員、発達支援の研修への参加 ・相談支援部会への参加	スタッフが情報共有しやすいような相談記録の整備を行つた。 相談支援の記録の整備などスタッフ増員に伴い、役割分担をしながらの関係機関の会議への参加が可能になり、ネットワーク作りを積極的に行つた。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	防災、安全、衛生に関するマニュアル整備	相談支援事業所としての災害時、緊急時の対応マニュアルの作成	防災、緊急時のマニュアルを作成した。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	契約者への定期的なモニタリングの実施	個々に合わせた契約内容の時期にモニタリングを実施する。	モニタリングが遅れがちになつておらず、面談ではなく、電話対応になるケースもあり、大きな反省点である。
2	意見・苦情・要望の確認	インターク時の希望確認、契約時の要望用紙の利用勧奨を行う。	意見、苦情、要望等の確認を面談時に行い、用紙記入の推奨を行つたが、意見はあまり出てきていません。

【施設整備】

年度当初の計画にはなかつたが、

- ① 平成29年10月より、児童家庭支援センター内の和室に事務所を移す。
- ② 平成30年度3月 児童家庭支援センターの和室改修のため、児童家庭支援センター事務所内に事務所を移す。

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向

■相談契約

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	累計月	差異
実績	27	31	24	28	27	27	27	18	13	29	41	54	54	-	346
計画	20	15	18	28	28	21	20	20	20	25	45	40	40	14	300
H28 年度実績	30	27	23	31	30	26	24	19	17	27	49	45	45	9	348
H27 年度実績	30	12	20	35	30	35	18	17	18	14	59	60	60	-6	348

■モニタリング

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	累計月	差異
実績	4	3	4	5	5	9	15	15	19	12	5	9	9	-	105
計画	20	25	30	5	5	25	30	25	25	28	20	22	22	-13	260
H28 年度実績	3	4	4	3	3	7	2	5	9	3	2	2	2	7	47
H27 年度実績	0	4	5	3	4	5	7	10	6	3	7	11	11	-2	65

II 概算収入

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	差異	通期
計画作成件数	13	75	34	27	29	42	38	41	36	26	27	16	34	-	404
H28 年度実績	16	73	28	11	14	18	26	32	16	13	12	7	22	12	266
H27 年度実績	46	15	7	10	43	46	30	18	24	10	10	4	22	12	263

請求額 **212,480**

III 職員配置

職種	基準	実員	換算	備考
管理者	1	1		兼務
相談支援専門員	1	1		(H30. 1まで 2)
相談支援員		0		(H29. 10まで1)

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月		障害児相談支援事業について
5月		
6月		倉敷地域生活支援センターとの合同研修について (児童と成人のサービスについて)

7月		
8月		障害児相談支援事業について（初任者研修報告）
9月		
10月		サービス等利用計画について
11月		
12月		モニタリング・担当者会議について
1月		
2月		
3月		

【年間行事】

なし

倉 敷 抛 点

- 児童発達支援センター 倉敷学園
- 児童発達支援事業所 きらり中庄
- 児童発達支援事業所 きらり倉敷
- 児童発達支援事業所 きらり児島
- 障がい者支援施設 あしたば
- 共同生活援助事業所クムレ
- 生活介護事業所 コトノハ
- 放課後等デイサービス コトノハ
- 生活介護事業所 わきあいあい
- 就労継続支援 B型事業所 クラシス
- 就労継続支援 B型事業所 やさい畠クムレ
- 居宅介護事業所 なないろ
- 倉敷地域生活支援センター
- 倉敷発達障がい者支援センター

児童発達支援センター倉敷学園

【事業実施概要】

倉敷学園では、今年度より保育所等訪問支援事業を開始した。地域の0歳～18歳までの児童に対して学園内の基本相談との連携により障害受容からより身近な生活基盤で支援を行えるようアウトリーチの基盤作りを行なう年度となった。親子の愛着形成に寄り添うために今年度も専門職によるペアトレを二期実施した。ひろば栗の家での地域支援では、福祉サービスを受けていない発達の気になる児童を受け入れ繋ぎの支援も実施した。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1 子どもの豊かな発達支援	<p>① 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・職業人、対人支援者としての人間力向上・広い視野を持ち専門性を向上させ支援する、・研修のバックアップ <p>②子どもの権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの全体像を把握した支援提供を行う・尊厳と自立支援 <p>③チームアプローチの充実</p> <ul style="list-style-type: none">・多職種協働により専門性を発揮した支援提供	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none">・階層別研修（法人 別紙）・専門研修、拠点研修（別紙）、事業所研修（下記表）・研修前後で内容の確認と実践での助言 <p>②・アセスメントシートのバージョンアップ</p> <ul style="list-style-type: none">・アセスメント力向上の勉強会・子どもの個別性に配慮した活動・支援方法の見直し・合理的配慮支援・子どもの個々のニーズの実現・意思表示方法等の工夫・多様な経験が持てる日常プログラム・生活の場での支援（自宅・園訪問） <p>③・支援計画における専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none">・特別支援計画書による支援充実・学習グループ（年長児対象）	<p>① 階層別研修と専門研修は、法人の計画通り実施した。</p> <p>事業所研修は、きらりと合同で行い重症心身児の支援も考える上で良い研修であった。</p> <p>②シートのバージョンアップには至っていない。見立て後の課題分析表を用いて計画に落としこめるようになった。</p> <p>・今年度年長児には、花育の機会を月に一回持ち経験の場が増えた</p> <p>③保護者からのニーズが高い特別支援についてもST訓練は全園児に、OTについては年長児に対して行なった。</p> <p>・ケースカンファレンス時は</p>

		<ul style="list-style-type: none"> • S S T グループ • 年に 2 回サービス担当者会議の実施 (多職種協働による包括支援) • クラス会議 • P E P 検査 川崎医療福祉大学諒訪先生と大学院生による検査と職員に対しての指導 	<p>学園内の専門職に参加し多方面からの見立てが行なえた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PEP 検査も実施志、振り返り時には職員も同席し支援について指導を受ける機会が持てた
2 家 族 の 子 育 て 力 の 強 化 支 援	① 保護者との協働関係の強化 ② 家族のエンパワメント支援	① 家庭訪問：定期訪問（4月末・9月）・必要時 親子療育：年 6 回、懇談：年 3 回 保護者会：毎月、勉強会：年 3 回、座談会：2 回 茶話会：3 回（OT/SW） 保護者バス旅行・施設見学 7 月 ペアトレ：2 回（春・秋） 卒園児の会：継続的な卒園児保護者の相談の場：月一回 ② 就学前研修会（教育委員会：6 月、 兄弟児活動：年 2 回とひろば活動での母ボラ、 先輩保護者勉強会：7 月 かがやき手帳・サポートブック作成（8 月） 祖父母親子参観：6 月 ひろば利用したサークル活動支援 座談会	① 家庭訪問は、4 月に実施した。必要な家庭については通所支援計画に基づき訪問を行なった。担任だけではなく環境要因から OT も訪問実施した。親子療育は祖父母療育日を設けた。勉強会時には倉学カフェも実施。保護者同士のつながりの場、学園職員との話し合いの場、食育の場としても活用出来た。 <ul style="list-style-type: none"> • 子供の発達、障害、健康などについて専門職が座談会茶話会を行なった。子育てや就学等テーマによっては卒園児の保護者に講師役をお願いした。 • 卒園児の会は毎月一回実施。川崎医療福祉大学の学生ボラも参加し、子どもの成長や保護者の不安・喜びに寄り添った。 ② 計画に沿って実施した <ul style="list-style-type: none"> • コトノハ（生活介護）の保護者との交流茶話会も実施した。 • ママさん女子会を月に一回開催し保護者のエンパワメント支援

			<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟児支援は月に一回実施。11月はきらり中庄の兄弟児とともにデイキャンプを行なった。 ・どんぐりひろばには、学園保護者がママボラとして入ってくれた。
3生涯生活できる地域環境づくり	<p>① 機関連携・地域関係つくり 地域課題を明らかにして地域で課題解決する場</p> <p>② 地域住民も参加できる場つくり 心身健康の維持の場、多世代交流</p> <p>③ 地域社会への障害の理解と啓発</p> <p>④ 地域子ども支援力向上 福祉サービスを伴わない児童の相談支援</p>	<p>① 赤ちょうちん栗の家：毎月第3水曜日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄小地域ケア会議 ・機関連携（保育所等訪問・検診保育・すくすく教室派遣 <p>② ・オレンジカフェ：月1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりコラボ：年3回 <p>③ クラ☆コト：10月 行事予定参照 ボランティア受入（庄地域・卒園児・保護者OB） 実習生：県立大学・川福大・日福・中国大学・NDSU・吉備国大等</p> <p>④ どんぐりひろば：月2回 学習支援：10日間コース、夏季集中コース どんぐりフットサル 卒園児・兄弟児支援（川崎医療福祉大学ボランティア）</p>	<p>①計画通り実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議やケアマネ交流会に参加し多様化した福祉サービスが必要な世帯や貧困家庭について事例を通して考える機会を持った。30年度の倉敷拠点共生モデルの80・50・25・5はそこでの事例であり今年度の支援に繋がっている。 <p>②計画通り実施</p> <p>③実習・ボランティア受け入れの基本方針に沿って推進した。庄地区人権推進のボランティアも今年度は受け入れ理解の促進を図った。</p> <p>④計画通り実施した。 相談から必要な社会資源への紹介を行なった。未就学児に対してはどんぐりひろば、学齢期の児童に対してはどんぐりフットサルのプレ療育（無料）を実施した。</p>

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>① 風通しの良い職場つくり、何でも言い合える職場</p> <p>② 伝達力、聞く力を身に付ける</p> <p>③ 行事や普段業務の業務改善</p>	<p>①・明るい挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議にて事業内容の説明、中間報告を行なう。 ・報告・連絡・相談の徹底 ・毎月、提案型のアンケートを集約し翌月の職員会議で検討 <p>2 上司不在時は、WAWA 等を活用し報告、連絡、相談を行なう。</p> <p>③業務内容の点検を行い定時退社を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチ ・3ヵ月後との書類提出状況の確認、提出状況を見て業務見直し職員会議で伝達 	<p>① 大きな倉敷学園として、きらりとも助け合いながらの職場環境だった。気持ちの良い挨拶は心掛けた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に中間報告と職員からの意見を聞き取り、後半に改善を行った。また翌年の事業計画にも反映している。 ② WAWA や携帯など活用し相談している。 ③ 日々は定時に近い時間帯で帰宅できる職員が多い。書類作成時期・行事前は、退社時間が遅くなる。
2	業務マニュアルの点検と見直し	拠点やグループでマニュアル項目を決める。分担し試案を作成した上で、話し合いで検討し決定する。	第三者評価受審後児童発達支援ガイドラインに基づき法人理念や学園の支援について支援の目的を明記した業務標準指針（マニュアル）を作成した。次年度はこの業務標準指針を元に年間発達支援計画を立案している
3	実習生、ボランティアの受け入れと育成	実習・ボランティア受け入れの基本方針に沿って推進した。大学と連携しそれぞれの実習プログラムシートに基づいた丁寧な指導を行なった。	<ul style="list-style-type: none"> ・SW 実習…川崎医療福祉大学（3名）・岡山県立大学（2名）・日本福祉大学（2名） ・保育実習…清心（3名）川短（2名）中短（3名）

	<p>クラスでの受け入れにおいても、実習目的を明確に発言できる場合は達成できるようフォローした。受け入れ終了時は各大学の実習報告会にも出席した。</p> <p>・ クムレいきいきポイント制度の導入時にはボランティア登録し今年度は利用者家族地域の方々にもお散歩ボラ、環境整備や行事の時の子供支援等活躍の場が広がった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害児保育実習（川崎医療保育 2 名） ・ 川崎医療福祉大学院（院生 2 名） ・ インターンシップ（京都女子大 1 名） ・ 中堅教諭資質向上研修…（小学校教諭 1 名） ・ 発達支援事業所（3 箇所）職員実習 4 名受け入れ
--	---	--

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	BCP 作成の試案を作成する	<p>栗坂合同防災訓練：毎月避難訓練、その後 振り返り内容の共有</p> <p>拠点ミーティング：毎月第 1 水曜日 10 時から 12 時</p> <p>安全防災委員会への参加：毎月</p>	<p>倉敷学園・きらり中庄は毎月 20 日防災訓練を実施した。</p> <p>事業所独自の BCP 作成には至っていない。</p> <p>拠点にてサービス調整会議（発達）は、毎月実施。</p> <p>・ 地域の警察署（不審者対応 10 月）、消防署（火災訓練 11 月）と連携を取り、防災訓練を実施した。</p>
2	コンプライアンス（法令順守）	<p>管理者として安全衛生の観点でまとめたシートを用いて自己点検</p> <p>児童福祉法など支援業務において遵守すべき項目は、書面を用いて共通理解を図り整える（岡山自主点検表）。事業所内にとどまらずグループや拠点で共有する。</p>	<p>児童発達支援ガイドラインに基づき支援を実施。また保護者と職員による事業所評価を行った。</p>

3	地域が魅力を感じる施設周辺環境を作る	拠点ミーティングで内容の周知を行なう。 敷地内外の清掃、園芸整備計画、避難できる環境設備を整える、駐車場の清掃、ヤギ飼育による触れ合い	月に一回倉敷拠点ミーティングでひろば栗の家の活動報告等周知した。地域の清掃活動にも参加し、9月には避難時の炊き出し訓練を実施した。
---	--------------------	--	---

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	地域で選ばれる事業所を目指し、受給量に見合った支援提供	開所日、269日 一時的な送迎や時間外の受け入れ	269日開所した（市内受給量が-8日であるため）保護者の出産時等送迎が出来にくい時に送迎を実施した。
2	公開療育 専門職による勉強会、講演会	中四国地区職員研修・公開療育 10月19日 20日 S I 学会実践コース 9月 22日～24日、講演会「ライフサイクルにおける幼児期の子育て」難波寿和氏 11月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・公開療育、中国四国地区職員研修実施。40名の職員が学園の公開療育に参加。クラス療育・特別支援（ST/OT）・音楽療法公開した。 ・感覚統合講習会は学園児と関りながら①感覚統合的視点での子どもの観察法②感覚統合の考え方を生かした療育活動の立案と実施について学んだ。 ・ASDの当事者であり臨床心理士の難波氏を迎えライフステージにおいて幼児期の子育てを支援者と当事者の2つの視点から講演。
3	開かれた施設を目指し、事業内容を発信	アンケート実施、保護者の意見を集約、改善し発信（行事後）。親子療育などで、書面を用いてねらいの伝達と感想集約し、返答する毎月1回 ホームページを活用して情報発信	行事後にはアンケートを実施した次回に活かした。学園の支援については、2月にアンケート実施した。内容については平成30年度の支援に活かしている。 ホームページをうまく活用しきれていない。

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
----	------------------	-------------------	------

1	スヌーズレンルームを整備する。	4月に整備し、より活用できるようメンテナンスを行なう。	4月にバブルチューブ・ポールプール等環境整備実施。
2	多機能型きらり中庄との協働支援に向けた整備	施設の改善、修繕、メンテナンスを行う	きらり中庄と協働し、北側の居室整備を実施した

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向														単位:人		
■通園		定員:50														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1,128	1,169	1,131	1,120	1,133	1,106	1,097	1,127	1,183	1,174	1,000	1,138	1,138	-	13,506	-
計画	1,100	1,150	1,100	1,150	1,150	1,100	1,150	1,127	1,170	1,170	1,020	1,170	1,170	-32	13,557	-51
H28年度実績	1,241	1,253	1,387	1,425	1,315	1,387	1,319	1,359	1,314	1,351	1,260	1,389	1,389	-251	16,000	-2,494
H27年度実績	1,151	1,240	1,334	1,354	1,193	1,184	1,328	1,232	1,295	1,268	1,213	1,258	1,258	-120	15,050	-1,544
月平均利用者数	51.3	50.8	51.4	48.7	49.3	50.3	49.9	51.2	51.4	51.0	50.0	49.5	49	-	50.4	-
利用率	102.5%	101.7%	102.8%	97.4%	98.5%	100.5%	99.7%	102.5%	102.9%	102.1%	100.0%	99.0%	99.0%	-	100.8%	-
H28年度実績	124.1%	119.3%	126.1%	123.9%	119.5%	126.1%	114.7%	123.5%	119.5%	122.8%	126.0%	120.8%	120.8%	-22%	122.2%	-21%
H27年度実績	115.1%	124.0%	121.3%	123.1%	113.6%	118.4%	115.8%	123.2%	123.3%	120.8%	115.5%	114.4%	114.4%	-15%	119.0%	-18%
実績	22	23	22	23	23	22	22	23	23	20	23	23	23	-	268	-
計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	-1
H28年度実績	20	21	22	23	22	22	23	22	22	22	20	23	23	0	262	6
H27年度実績	20	20	22	22	21	20	23	20	21	21	21	22	22	1	253	15
■保育所等訪問支援事業																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	0	0	0	1	0	2	2	2	2	2	2	2	2	-	15	-
計画	5	6	7	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	36	-21
実施	0	0	0	1	0	2	2	2	2	2	2	2	2	-	15	-
計画	21	22	21	22	22	21	22	22	2	2	2	2	2	0	161	-146
■日中一時支援事業																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	140	148	163	166	177	177	179	189	173	132	152	146	146	-	1,942	-
計画	162	180	198	180	198	180	189	198	189	180	171	189	189	-43	2,214	-272
H28年度実績	155	173	203	193	187	193	216	216	190	190	221	175	175	-29	2,312	-370
H27年度実績	104	131	173	178	148	168	207	206	187	201	213	175	175	-29	2,091	-149
月平均利用者数	7.8	7.4	7.4	8.3	8.4	8.9	9.4	9.9	8.7	6.9	8.0	7.7	7.7	-	8.2	-
実績	18	20	22	20	21	20	19	19	20	19	19	19	19	-	236	-
計画	18	20	22	20	22	20	21	19	21	20	19	22	22	-3	244	-8
H28年度実績	18	18	22	23	19	20	20	19	19	19	19	19	19	0	237	-1
H27年度実績	20	20	22	22	18	19	21	19	19	19	20	19	19	0	238	-2

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	大切にしたい価値観・支援観支援者としての倫理観	支援者として必要な倫理を理解し、子どもの尊厳と自立を支援できる研修を実施した。
6月	合理的配慮	合理的配慮を行いながら環境を工夫し支援をする必要をGWで話し合った
8月 12月 1月	利用者支援（これってどうなん？）	クラスでの支援についてワークショップ

7月 2月	家族支援(家族理解と支援者としてのかかわり方について)	障がいのある子どもの育児や発達の基盤である家庭生活を理解し、受容・共感しコミュニケーション能力の向上を考えた
9月	感覚統合実践コース	学園児と関りながら①感覚統合的視点での子どもの観察法②感覚統合の考え方を生かした療育活動の立案と実施について学んだ。
11月	当事者から学ぶ	発達障害(自閉症スペクトラム障害)当事者の話を聞くことにより、発達障害の世界について学び、発達障害の支援のあり方と必要な支援について考えた
5月・ 10月	チームアプローチ	カンファレンスから、事例を通して各専門職が互いにその専門性を生かしながら子どもの生きる力を育みその子の最善の利益を保障していくために共同作業を学ぶ。

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式・在園児(4日) ・勉強会(説明と倉学カフェ)8日 ・新入園児親子療育(5日6日) ・家庭訪問(24日～28日) ・ペアトレ(4月27日～7/7 7回シリーズ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式、在園児クラス紹介 ・法人理念・方針、学園事業方針等説明、支援について ・入園後二日間、クラス保育の様子とねらいについて保護者と確認した。 ・保護者と自宅で面談・家庭環境把握 ・学園の専門職が、希望者に対して子育て方法と一緒に考えていき子育て力の強化を図った。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・個別懇談(15～20日) 他 11月 2月実施 ・親子療育(29日～6/2) 他年 6回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画について保護者に説明同意。保護者と面談 ・各クラスごとで保育の様子とねらいについて確認)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に関する勉強会(6月1日・5月31日) ・田植え(4日) ・プール活動(～9月上旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市岡山市教育委員会より就学について保護者が情報を得る場を提供した。 ・地域住民、保護者、ボランティア等と一緒に田植えを行なった ・テラスでのプール遊び
7月	保護者勉強会	就学に向けた準備やサポートブック作成について

8月	年長児課外活動（25日）	年長児が保護者と離れ倉学以外で活動する場を提供し、必要な支援を保護者と考え、就学に向け準備を行なう
9月	運動参観日（16日）	両親・祖父母・兄弟児に日頃の成長を参観してもらう
10月	稲刈	地域住民、保護者、ボランティア等と一緒に稲刈を行なった
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・親子遠足（6日） ・保護者勉強会 ・個別懇談 ・後期ペアトレ（11月～2月、7回シリーズ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷学園全員とおもちゃ王国へ秋の親子遠足 ・将来の生活・仕事・住まいについて学んだ
12月	<ul style="list-style-type: none"> お飾り作り（11日） クラス参観日（発表会） クリスマス会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、保護者、ボランティア等と一緒にお飾りを作った。 ・クラス単位で参観日（発表会）を行う ・クリスマス楽曲や劇、プレゼントや給食を実施した
1月	とんど焼き	地域住民、保護者、ボランティア等と一緒にお飾りや書初めを燃やし無病息災を祈った
2月	<ul style="list-style-type: none"> 保護者勉強会 ・個別懇談 	ペアレント・メンターに相談する場（日々の育児や将来について先輩保護者の経験談を伝えてもらった。）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児・新入園児説明会 ・卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター利用にあたり、新年度の支援方針・方法・運営規定等保護者に伝達し共通理解を図る。児のアセスメント

児童発達支援事業所 きらり中庄

【事業実施概要】

児童発達支援事業所きらり中庄は、同じ建物内の倉敷学園と手を携え、在宅で医療ケアを必要とされる重症心身障害児の方を対象に、単独で通所し医療ケア、日中活動、機能訓練を開始した。また、発達になんらか課題がある子供に対して身近な地域で安心して生活ができるよう生活の主体である所属園や関係機関と連携した。地域の中で、障害の有無に係らず全ての子どもたちに平等な発達成長の場を提供し、ご家族とともに子どもの発育を愛しみ、子どもの個性を生かす関わり方をともに考え学びながら意欲と喜びを持って子育てが出来るよう支援している。

地域全体で子ども達及び障がいのある方々を支援出来るよう、開かれた事業所であり続ける。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1 子 ど も の 豊 か な 発 達 支 援	<p>① 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・職業人、対人支援者としての人間力向上・広い視野を持ち専門性を向上させ支援する、・研修のバックアップ <p>②子どもの権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの全体像を把握した支援提供を行う <p>③チームアプローチの充実</p> <ul style="list-style-type: none">・多職種協働により専門性を発揮した支援提供	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none">・階層別研修（法人 別紙）・専門研修・事業所研修・研修前後で内容の確認と実践での助言 <p>②・アセスメント力向上</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの個別性に配慮した活動・支援方法の見直し・子どもの個々のニーズの実現・意思表示方法等の工夫 <p>③・支援計画における専門性の発揮</p> <ul style="list-style-type: none">・医療・保健との連携・年に2回サービス担当者会議の実施	<p>① 階層別研修と専門研修は、法人の計画通り実施した。</p> <p>事業所研修は、倉敷学園の研修に参加している。計画よりも、少ない実施である。</p> <p>② アセスメントシートの作成は遅れ気味であったが、子どもの全体像を捉え計画を立案した。</p> <p>③ 倉学のST、栄養士、OTと連携した支援計画を立案し支援を行った。</p>

		(多職種協働による包括支援)	
2 家 族 の 子 育 て 力 の 強 化 支 援	① 保護者との協働関係の強化 ② 家族のエンパワメント支援	① 保護者見学週間の実施 (毎月第3週目) 家庭訪問：定期的5月・初回利用時 懇談：年2回 勉強会：年3回、座談会：2回 ペアトレ：2回 ② 就学前研修会(教育委員会)学園と一緒に：6月、 ひろば活動での母ボラ、 先輩保護者勉強会：7月 祖父母親子参観：6月 兄弟児支援：ひろば栗の家との協働	① 見学週間は毎月、就学懇談は年1回、勉強会とペアトレは合同開催。茶話会は、きらりとひかり個々に年4回実施した。 ② 計画通り実施。
3 生 涯 生 活 で き る 地 域 環 境 づ く り	① 機関連携・地域関係つくり ② 地域住民も参加できる場つくり 多世代交流 ③ 地域社会への障害の理解と啓発	① 所属園訪問・医療・保健・学校等連携 栗坂地域環境整備 医療勉強会の参加 ② ひろば栗の家の活動参加 (卒園児の会・兄弟児の会・オレンジカフェ・ヤギの飼育) ③ 健診、すくすく、 クラ☆コト：10月	① 所属園は、就学を迎える全児、年中児数名の園を訪問。 ② ③ 計画通り実施

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	① 風通しの良い職場つくり、何で	①・明るい挨拶 ・職員会議にて事業内容の説明、中間報告を行なう。	① 挨拶は心掛けた ・10月に中間報告と職員からの意見を聞き取り、後半に改

	<p>も言い合える職場</p> <p>② 伝達力、聞く力を身に付ける</p> <p>③ 行事や普段業務の業務改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談の徹底 ・毎月、提案型のアンケートを集約し翌月の職員会議で検討 ②上司不在時は、WAWA等を活用し報告、連絡、相談を行なう。 ③ 業務内容の点検を行い定時退社を目指す。 ・チームアプローチ 	<p>善を行った。また翌年の事業計画にも反映している。</p> <p>② WAWAや携帯などで、相談している。倉学の上位職員の助けも大きい。</p> <p>③ 日々は定時退社できる職員が多い。書類作成の時期は、退社時間が遅くなる。</p>
2	業務マニュアルの点検と見直し	拠点やグループでマニュアル項目を決める。分担し試案を作成した上で、話し合いで検討し決定する	職務遂行要領書は、見直している。目的を明記したマニュアル作成が必要である。
3	実習生、ボランティアの受け入れと育成(学園と連携)	大学と連携し実習計画に基づいた丁寧な指導を行なう。	介護等体験実習を受け入れた。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	BCP作成の試案を作成する	<p>栗坂合同防災訓練：毎月避難訓練、その後振り返り内容の共有</p> <p>拠点ミーティング：毎月第1水曜日10時から12時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の警察署、消防署と連携を取り、防災訓練を実施する(各1回ずつ) 	<p>事業所独自のBCP作成には至っていない。</p> <p>拠点にてサービス調整会議(発達)は、毎月実施。</p> <p>警察、消防の助けを借り防災訓練を10月11月に実施した。(倉学と合同)</p>
2	コンプライアンス(法令順守)	管理者として安全衛生の視点でまとめたシートを用い	児童発達支援ガイドライン、放課後等支援ガイド

		て自己点検。児童福祉法など支援業務において遵守すべき項目は、書面を用いて共通理解を図る。（ガイドライン）。事業所内にとどまらずグループや拠点で共有する。	ラインに基づき支援を実施。また保護者と職員による事業所評価を行い、倉敷市のHPにて公表している。
3	感染予防、衛生管理の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・玩具類の消毒の実施（毎週末） ・O-157、衛生チェック表を用いた確認（毎週） 	毎月、計画通り実施。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	地域で選ばれる事業所を目指し、受給量に見合った支援提供	開所日 280 日 地域に不足している重心の支援・保護者のレスパイト	計画以上に開所 重症児を対象とした事業を開始している。
2	関係機関との連携（医療連携・所属園や家庭への訪問）	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医との情報交換 医療との勉強会の参加 ・定期的な園訪問の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月に実施 ・重症児のケース会議（早島支援学校）4ケース出席。
3	サービス提供時、移行に伴う関係機関との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・所属園との情報交換の実施（適宜） ・医療・保健・学校等との連携 ・サービス終了時に対する引継ぎの実施（サービス終了時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時の移行支援を全児実施。 ・倉中におけるケース会議出席（1ケース） ・くすのき園と毎月情報共有

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	多機能型事業所増設に伴う環境整備	4月に整備し、より活用できるようメンテナンスを行なう。	玄関スロープ設置 駐車スペースのコー

		シ設置。											
2	重度利用児対応車両の導入	・事務局と管理者で申請手続き ・補助結果後、購入かレンタルか											
3	コトノハ内の特殊浴槽	整備に係る必要物品準備											

【利用者数・職員配置】

平成29年度 3月予算実績管理表													事業所名:きらり中庄			責任者名:篠原 みゆき								
I 利用者動向																								
■児童発達支援 定員10名																								
単位:人																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異								
実績	225	211	254	244	242	233	252	253	253	241	241	256	256	-	2,905	-								
計画	220	230	250	244	240	230	240	240	230	230	230	230	230	26	2,814	91								
H28年度実績	179	188	246	217	238	232	224	225	210	219	208	216	216	40	2,602	303								
H27年度実績	129	166	233	241	235	214	246	213	223	211	215	216	216	40	2,542	363								
II 月間開所日																								
単位:日																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異								
実績	22	23	25	24	24	23	26	24	24	23	24	23	23	23	-	285	-							
計画	22	23	25	24	24	23	24	24	23	23	22	22	22	0	281	4								
H28年度実績	21	21	25	24	24	25	25	25	23	24	22	22	22	1	280	5								
H27年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	21	22	23	23	0	270	15								
III 月平均利用者数																								
単位:人																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異								
実績	10.2	9.2	10.2	10.2	10.1	10.1	9.7	10.5	10.5	10.5	10.0	11.1	11.1	-	10.2	-								
H28年度実績	9.3	9.7	10.8	9.8	10.4	10.4	9.6	9.6	9.8	9.6	10.0	10.4	10.4	0.8	9.9	0.3								
H27年度実績	7.2	8.3	10.4	10.8	11.0	11.0	10.8	10.5	10.3	10.8	10.3	10.0	10.0	1.1	10.1	0.1								

平成29年度 3月予算実績管理表													事業所名:きらり中庄			責任者名:篠原 みゆき								
I 利用者動向																								
■重度心身障害児 発達支援 定員5名																								
単位:人																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異								
実績	1	4	11	13	27	30	30	40	27	33	41	47	47	-	304	-								
計画	20	190	210	13	60	70	70	70	70	70	70	70	70	-23	983	-679								
■重度心身障害児 放課後等デイサービス 定員5名																								
単位:人																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異								
実績	1	9	28	53	45	60	64	70	69	67	67	72	72	-	605	-								
計画	0	10	10	53	90	80	80	80	80	80	80	80	80	-8	723	-118								
II 月間開所日																								
単位:日																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異								
実績	1	9	25	24	24	25	26	26	24	23	24	23	23	-	254	-								
計画	2	20	22	24	24	23	24	23	23	23	23	23	23	0	255	-1								
III 月平均利用者数																								
単位:人																								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異								
実績	20	1.4	1.6	2.8	3.0	3.6	3.6	4.2	4.0	4.3	4.5	5.2	5.2	-	3.4	-								

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	権利擁護研修、毎月第③水曜日・金曜日…つばさクリニック勉強会参加	つばさカフェ、毎月 参加。 嚙下、幼児の在宅医療など。
5月	大切にしたい価値観・支援観支援者としての倫理観	4月 倉学と合同で実施倫。倫理観の言語化を行った。
6月	合理的配慮支援について	倉学合同。
7月	家族支援(家族理解と支援者としてのかかわり方について)、当事者から学ぶ	12月当事者の勉強会に参加
9月	感覚統合実践コース	児発管が出席
10月	チームアプローチ	12月から OT 主催の「遊びの勉強会」にて、子どもが自発的に楽しめる活動提供の検討会に出席
11月	利用者支援WS	
12月	OT 勉強会	

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
5月	ペアレントトレーニング(5月~8月)	前期2名、後期2名の参加
6月	就学に関する勉強会	倉敷市、岡山市の教育委員会 講師
7月	保護者向け勉強会	茶話会は、各4回
8月	保護者座談会	保護者の向けの勉強会は、倉学合同(情報共有、交流会、サポートブックなど)実施。
9月	親子課外活動	祖父母と兄弟の参観日を実施。
10月	クラ☆コトフェスティバル	
11月	保護者向け勉強会	
12月	参観日	
1月	保護者向け座談会	

きらり倉敷

【事業所実施概要】

家庭訪問や園、学校訪問、病院（リハビリ）訪問を積極的に実施した（約 55 件）。利用児、保護者が事業所の中で見せる姿はほんの一部であり、生活の主体である家庭や所属先での姿を共有し、支援を考える事が出来つつある。しかし、利用児全ケースまで至っていないことや、所属先の受け入れ体制等課題は多い。今後の課題検討は必要となる。

職員はどの職員もワークライフバランスを保ち、前向きに業務にあたっている印象。利用児だけでなく、職員も達成感を持てる環境を作りたい。

【事業計画】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	人財育成	<p>①目標管理立案時に、職員個々の得意なことを活かせる業務を見つけ、目標として立案。</p> <p>②定期的な振り返りを行う。</p> <p>※4月立案、振り返り年2回</p>	<p>①実施済</p> <p>②5月立案済。</p> <p>10月、3月振り返り予定</p>
2	家族支援	<p>①連絡帳に遊びの場面での出来事を1つ以上記入する。</p> <p>②家庭での子どもとの関わりについて聞き取りを行う。</p> <p>※いずれも利用日毎に</p>	<p>①8割は実施</p> <p>②4~6割は実施。</p> <p>当日の職員配置による。</p>
3	地域関係機関との協働	<p>家庭訪問、園訪問、連絡ノートのやりとり、電話での情報共有を行う。※ 隨時</p> <p>通所支援計画書内に、目標として記載。全利用児を対象とする。※5月、10月</p>	家庭訪問、所属機関訪問、病院見学等 計約 55 件実施。

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	業務マニュアルの点検と見直し	①業務の見直し※4.5月 ②月に半日以上は全正規職員にデスクワークの時間を設ける。	①終礼の方法をc pから提案、実行中 ②実施済
2	ワークライフバランスを維持できる職場つくり	①半年間に3日以上の有給休暇取得。 ②責任者が取得しやすいよう声かけをおこなう。※毎月	①嘱託B含む全員取得済 ②毎月実施済
3	伝達力、聞く力を身につける	①職員面談の実施。※年3回 ②職員会議前に、会議で話したい議題を考える。※月1回	①5、10、3月実施済 ②実施済

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	災害時事業継続計画	月に1回防災訓練を実施 (地震、火事、不審者対応)	11ヶ月実施(1回未実施)。
2	安全点検を月に1回実施	チェックリストを用いて実施。 ※毎月実施	月実施済
3	衛生チェックの実施	チェックリストを用いて実施。 ※毎月実施	実施済

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	
1	利用者との協働関係の強化	園訪問や家庭訪問の実施 ※年間10ケース以上	実施済
2	サービス終了 移行時の支援	①5歳児保護者を対象に就学前健診の前後に懇談を実施。 ※年2回 ②市の教育相談日程を配布。 ※年1回	①前期全員実施済 後期は希望者のみ実施済 ②実施済
3	業務マニュアルの見直し	アセスメントシートの見直し ※年1回	訪問の項目は実施済。

【施設整備計画】

番号	計画概要	達成目標	実施内容
1	プライバシーの守れるトイレ環境整備	子どもの権利擁護	第三者機関に評価して頂き、改善の必要性特になしとのこと。鍵のみ取り換え済。
2	汚物処理用の水道を設置	労働環境整備	実施済
3	洗濯機を倉庫内に設置		

【利用者数・職員配置計画】

平成29年度		3月予算実績管理表					事業所名: きらり倉敷				責任者名: 久保田 奈穂美												
I 利用者動向										単位:人													
■児童発達支援 定員10名										単位:人													
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異							
実績	199	227	242	229	224	237	239	249	217	220	231	245	245	-	2,759	-							
計画	180	200	220	215	205	205	225	220	180	190	195	205	205	40	2,440	319							
H28年度実績	172	183	224	199	219	215	203	216	205	209	203	213	213	32	2,461	298							
H27年度実績	162	181	231	230	202	199	229	207	218	219	210	220	220	25	2,508	25							
■放課後デイサービス															単位:人								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異							
実績	26	21	28	28	21	28	20	23	29	25	24	27	27	-	300	-							
計画	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	-3	360	-60							
H28年度実績	31	15	34	32	24	30	27	29	27	25	29	30	30	-3	333	-33							
H27年度実績	17	24	26	21	28	21	21	28	34	32	19	22	22	5	293	-							
II 月間開所日															単位:日								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異							
実績	22	23	25	24	23	23	25	25	22	22	22	24	24	-	280	-							
計画	22	23	25	24	23	23	25	25	22	22	23	23	23	1	280	0							
H28年度実績	21	21	25	23	25	25	24	25	24	22	23	22	22	2	280	0							
H27年度実績	20	22	25	24	23	21	24	22	23	22	22	22	22	2	270	10							
III 月平均利用者数															単位:人								
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異							
実績	10.2	10.8	10.8	10.7	10.7	11.5	10.4	10.9	11.2	11.1	11.6	11.3	11.3	-	10.9	-							
H28年度実績	9.7	9.4	10.3	10.0	9.7	9.8	9.6	9.8	9.7	10.6	10.1	11.0	11.0	0.3	10.0	0.9							
H27年度実績	9.0	9.3	10.3	10.5	10.0	10.5	10.4	10.7	11.0	11.4	10.4	11.0	11.0	0.3	10.4	0.6							
IV 概算収入															単位:円								
請求額			V 契約数												VI 職員配置								
児童発達支援			契約		件数		職種		基準		実員		換算		過不足		備考						
放課後等デイサービス			当月新規契約		0		管理者		1		1		6.4		0.4		兼務						
合計			契約数／月末		60		指導員・保育士		5		6		児童発達支援管理責任者		1		1		0.0				
			幼児		46		機能訓練担当職員		0		0		0		特別支援加算		発達支援管理責任者専任加算						
			学童		14		待機者数		26		幼児		21		※定員基準		単位ごとに当該支援を行う時間帯を通じて専ら当該支援の提供						
			当月契約終了		0		学童		5		幼児		13		にあたる指導員又は保育士の合計数が以下の必要数以上		(※1人以上は常勤)						
			合計		9		学童		9		・障害児の数が10まで 2人以上		・障害児の数が10を超えるときは、2人に、障害児の数が10を		超えて5又はその端数を増すごとに1人を加えた数以上		・障害児の数が10を超えるときは、2人に、障害児の数が10を						

【年間研修計画】

※ (☆) は正規職員対象研修。その他は全職員対象

		実施内容
4月	事業計画について・権利擁護について（安統括担当）	済
5月	通所支援計画立案について（☆）、KYT研修	済
6月	就学について（☆）	済
7月	余暇支援について	未
8月	アセスメントシートについて（☆）	済
9月	通所支援計画書評価について（☆）	済
10月	就学について（☆）	未
11月		
12月	権利擁護ふりかえり	未
1月		
2月	終了児へのアプローチについて（☆）	済
3月		

【年間行事計画】

※懇談はキャップ以上が実施

※その他の行事は4月に担当者を決めて実施

		実施内容
4月		
5月	就学前懇談（就学児保護者対象）、	済
6月	就学前懇談、就学に関する勉強会（就学児保護者対象）	済
7月	保護者向け勉強会（全保護者対象）	済
8月	クッキング（学童対象）	済
9月	就学前懇談（就学児保護者対象）	済
10月	就学前懇談（就学児保護者対象）	済
11月		
12月	クッキング（学童対象）	済
1月	保護者向け勉強会（全保護者対象）	3月に実施済
2月		
3月	クッキング（学童対象）、卒園式（卒園児対象）	済

※希望保護者対象 ペアレントトレーニング（全5回）、

※個別懇談（随時 希望者対象）

※年長児対象 クッキング（毎月最終週）

※年中以下児対象 公園遊び（毎月最終週）

きらり児島

【事業実施概要】

児童発達支援事業所きらり児島は、発達に何らかのつまづきや遅れのある子どもが、身近な地域の中で安心して生活ができるよう、家族・地域・支援者が連携し協働して支援にあたった。拠点の児童発達支援センター倉敷学園の専門職とも協働し利用児の特性把握や個別支援計画の作成、支援提供を行った。また、児島地区の保護者による「みつばちクラブ」と連携し、保護者同士の情報交換の場を設けた。さらに、地域ボランティアの受け入れや町内会活動への参加等、地域の人との繋がりを深め地域共生社会の実現に向けて取り組んでいる。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施責任者（誰が）	実施内容
1	<p>①人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・権利擁護を実践できる職員育成・職業人・対人支援者としての人間力向上 <p>②子どもの権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none">・利用児の意思を尊重して自立に向けた支援を実施する。・人として人生を保障され、社会生活に参加できるよう配慮する。 <p>③チームで支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none">・拠点専門職とチームを組み、	<p>①・階層別研修（法人別紙）</p> <ul style="list-style-type: none">・専門職研修、拠点研修（別紙）・事業所研修（下記表）・研修目的を伝えフォローアップ <p>②・権利擁護研修（事業所年4回）</p> <ul style="list-style-type: none">・セルフチェック（年2回）・アセスメント力向上・支援方法の見直し <p>③・拠点専門職と対象児アセスメント・プラン立案・見直しの実</p>	<p>①・責任者と職員</p> <p>・責任者と職員</p> <p>・責任者と職員</p> <p>・責任者</p> <p>②・責任者と職員</p> <p>・責任者と職員</p> <p>・責任者と職員</p> <p>・責任者と職員</p> <p>③・責任者と職員</p>	<p>①計画に沿って研修に参加。</p> <ul style="list-style-type: none">・事業所研修も同様に実施。 <p>②計画に沿って実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・12月実施・9月支援会議実施、曜日ごとの振り返り時支援方法の見直し <p>③対象児1名OTによる評価、支援方法指導有。継続的なOT評価が難しかつ</p>

	様々な視点を持つ て支援する。	施 (月1回)		た。
2	①保護者の子育て 力の強 化 ②家族のエンパワ メント支援	①行事計画参照 ・ペアレントトレー ニング（年1クー ル） ・保護者勉強会・座 談会 （年3回ずつ） ・家族見学・親子課 外活動（毎月・年2 回） ・個別懇談・就学懇 談 （随時・年2回） ・家庭訪問 （新規利用児 年1 回） ・兄弟児保育（年2 回） ②「みつばちクラ ブ」と連携し活動や 座談会実施 （月1回）	・責任者 ・責任者とキャ ップ ・責任者と職員 ・責任者とキャ ップ ・責任者と担当 職員 ・責任者と職員 ・責任者	① ・1クール実施。保 護者1名参加 ・年4回実施 （就学・サボート パック2回・18歳 以降のサービス） ・月1家族見学 週間実施 ・課外活動2回 （9・3月）実施 ・実施済 ・新規利用児実 施 ・課外活動時に 実施 ②就学座談会・ クリスマス会実施 実施回数が少な い為保護者同士 が集まる機会作 る事が課題
3	①地域関係機関と の連携・協働 ②地域住民への理 解	①・所属機関訪問支 援 （別紙） ・すくすく教室へ の参加（5・8月2 クール） ・関係機関との情 報共有（随時） ・ケース会議の参 加 （必要に応じて） ②・近隣施設や住民 への挨拶・事業	①・責任者と職 員 ・責任者 ・責任者 ・責任者 ②・責任者と職 員	①・随時実施 ・すくすく後期 は人数が少ない 為中止 ・随時実施 ②実施 町内会の清掃に

		所周辺の清掃 (随時・月1回)		年2回参加
--	--	--------------------	--	-------

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施責任者(誰が)	実施内容
1	風通しの良い職場、何でも言い合える職場	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議(月1回) ・ケース検討(年4回) ・職員面談(年3回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任者と職員 ・責任者と職員 ・責任者 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・実施 ・実施
2	ワークライフバランスを維持できる職場	<ul style="list-style-type: none"> ・お勉強課題・支援記録・支援時の運営方法改善会議(年3回) 	・責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・9月実施 ・日々の振り返りにて実施
3	職員全員が利用児を尊重できる職場	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護研修(年4回) ・全社協セルフチェック(年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任者と職員 ・責任者 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済 ・12月実施

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施責任者(誰が)	実施内容
1	災害時に対応できるよう備える	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練(毎月) ・防災設備点検委託(年2回) ・非常食糧の備蓄(毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任者 ・責任者 ・責任者 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施 ・5月・11月 ・毎月確認
2	利用児や職員の安全が保てる環境に整える	・事業所内外安全点検(月・週・毎日)	・担当職員	・計画に沿い実施
3	事業所内の清潔や利用児の健康が保てるように整える	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備(月1回) ・事業所内物品・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任者と職員 ・担当職員 ・責任者と職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施 ・実施

		玩具の消毒（週1回） ・感染予防（随時）		・随時実施
--	--	-------------------------	--	-------

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施責任者（誰が）	実施内容
1	利用者との協働関係の強化	・保護者要望書（年2回） ・行事アンケート（行事後） ・意見箱設置	・責任者 ・担当職員 ・責任者	・実施 ・実施 ・懇談や家庭訪問時、ガイトライ保護者アンケート、第三者評価アンケートにて把握
2	サービス終了・移行時の支援	・サポートブック作成 勉強会（12月） ・関係機関に引き継ぎ（移行前）	・責任者とキヤップ ・担当職員	・実施 ・状況表や面談にて実施
3	業務マニュアルの点検と見直し	・業務マニュアルの見直し（年1回）	・各事業所責任者	・見直し済

【施設整備】

番号	計画概要	達成目標	実施内容
1	・物品棚購入（5月） ・物品整理（5月） ・構造化（5月） ・セコム・インターフォン設置（4月）	利用児が安心して通える事業所に整える	5月事業所移転時実施
2			
3			

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向														単位:人														
■児童発達支援 定員10名																												
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異												
実績	167	186	222	222	227	234	218	219	203	204	201	222	222	-	2,525	-												
計画	190	180	220	222	220	220	210	210	200	191	190	210	210	12	2,463	62												
H28年度実績	158	166	199	192	221	226	216	235	212	205	202	226	226	-4	2,458	67												
H27年度実績	168	165	215	210	192	176	188	167	190	195	184	188	188	34	2,238	287												
■放課後デイサービス																単位:人												
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異												
実績	29	24	28	31	29	31	29	26	28	24	24	25	25	-	328	-												
計画	30	30	30	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	-5	361	-33												
H28年度実績	21	24	28	28	26	29	29	32	26	31	19	28	28	-3	321	7												
H27年度実績	20	27	27	19	26	19	16	20	28	23	12	15	15	10	252	76												
II 月間開所日																単位:日												
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異												
実績	22	21	25	24	24	25	24	24	23	22	22	25	25	-	281	-												
計画	22	21	25	24	24	25	23	24	23	23	22	24	24	1	280	1												
H28年度実績	21	21	25	23	25	25	24	25	23	23	22	23	23	2	280	1												
H27年度実績	20	22	25	23	23	21	24	22	23	23	22	22	22	3	270	11												
III 月平均利用者数																単位:人												
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異												
実績	8.9	10.0	10.0	10.5	10.7	10.6	10.3	10.2	10.0	10.4	10.2	9.9	9.9	-	10.1	-												
H28年度実績	10.0	10.0	10.0	10.5	10.4	10.0	10.4	10.0	10.0	9.6	10.0	10.0	10.0	-0.1	10.1	0.1												
H27年度実績	9.4	8.7	9.7	10.0	9.5	9.3	8.5	8.5	9.5	9.5	8.9	9.2	9.2	0.7	9.2	0.9												
IV 概算収入																単位:円												
請求額				契約数												単位:円												
児童発達支援				契約												単位:件数												
				当月新規契約												0												
放課後等デイサービス				契約数／月末												67												
合計				幼児												48												
				学童												19												
				待機者数												13												
				幼児												12												
				学童												1												
				当月契約終了												25												
				幼児												14												
				学童												11												
VI 職員配置																備考												
職種				基準				実員				換算				過不足												
管理者				1				1				5.27				1.3												
指導員・保育士				3				5				福祉専門職配置等加算																
児童発達支援管理責任者				1				1				0.0				発達支援管理責任者専任加算												
機能訓練担当職員				0				0				0.0				特別支援加算												
※定員基準																												
単位ごとに当該支援を行う時間帯を通じて専ら当該支援の提供																												
にあたる指導員又は保育士の合計数が以下の必要数以上																												
(※1人以上は常勤)																												
・障害児の数が10まで 2人以上																												
・障害児の数が10を超えるときは、2人に、障害児の数が10を																												
超えて5又はその端数を増すごとに1人を加えた数以上																												

【年間研修】

4月	権利擁護研修	済
5月	利用者支援全般研修 (発達障がい・幼児期発達)	済
6月	利用者支援全般研修 (記録の取り方・アセスメントシート)	済
7月	権利擁護研修	済
8月	振る舞いチェック	済
9月	なし	
10月	権利擁護研修	済
11月	利用者支援全般研修 (家族支援)	済
12月	利用者支援全般研修 (地域支援)	済
1月	振る舞いチェック	済

2月	権利擁護研修	済 (人権倫理委員会出の取り組み実施)
3月	なし	

【年間行事】

4月	家庭訪問	9月実施
5月	ペアレントトレーニング 5月～8月	済
6月	就学に関する勉強会 就学懇談	済 みつばちクラブと連携
7月	保護者向け勉強会	済
8月	保護者座談会	済
9月	親子課外活動	済 スポーツ活動
10月	保護者向け勉強会	倉敷・児島合同で実施
11月	保護者座談会 就学懇談	済
12月	保護者同士が楽しむ活動場所の提供	済 みつばちクラブと連携
1月	保護者向け勉強会	済
2月	保護者同士が楽しむ活動場所の提供	未
3月	保護者座談会 親子課外活動	済 クッキング

あしたば

【事業実施概要】

平成 29 年度あしたばでは、「自立」「尊厳」「ハビリテーション」の考えに基づき、ご利用者のみならず、職員も主体的に行動・活動できるよう、地域共生社会に向けて事業を運営しました。トップダウンではなく、職員自ら考案した支援体制や行事、アセスメントに基づいた根拠ある支援計画や環境設定が行えるようになり、ご利用者の生活の幅も広がり、QOL の向上に資することができました。また、基本相談を立ち上げ、ただ相談を受けるだけ・定員を満たしているからといって断るだけでなく、関係機関等へつなぐことを意識し、在宅で生活する障がい者や複合的な課題を抱える地域住民への支援にも力を入れてきました。緊急を要する短期入所の受け入れも行い、重要な社会資源としての役割も果たしました。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用者本人が持っている力を引き出し、尊厳のある生活が送れるよう支援する ①自立に向けた支援への取り組みを明確にする	①アセスメントや評価表により、利用者の強みに注視した個別支援計画の作成と本人・家族への説明 ②サービス管理責任者との面談を通して事業方針と個々の支援への方向性の統一を図る（4月、10月、2月） ③わくわくルーム・きらきらルームの活用 各班週案の日中活動に 2 回以	①グループで統一したアセスメントシートを用いて個別支援計画を作成し、本人・家族へ説明を行った ②計画通りに面談を行い、方向性を統一した ③わくわくルーム、きらきらルームは日中

		<p>上組み込む 感覚刺激を行える場を広める 活動（中庭・テラスなど）</p> <p>④高齢化対応として、心身機能 や介護技術を学ぶ（介護を学 ぶ会：年6回）</p>	<p>活動において も活用してい る 中庭は球技な どで活用して いる</p> <p>④身体介護に加 え、看取りの 研修も行って いる</p>
2	職員と家族が共感して本 人支援に取り組む（家族 と支援や情報を共有す る）	<p>①個別支援計画の説明と共感： 個別支援計画作成時の参加</p> <p>②家族会の運営への参加（研 修・勉強会・班懇談・役員と の連携・自治会・行事（地域 含む）・支援への協働など）月 1回</p> <p>③家庭訪問を年1回の実施（全 利用者対象）</p>	<p>①家族からの思 いも聞き取 り、個別支援 計画に盛り込 んでいる</p> <p>②家族会におい て研修会・勉 強会を開催 役員会におい て次年度の計 画も調整して いる あしたば通信 を毎月発行</p> <p>③週末に帰宅す る頻度の高い 利用者から行 っている（全 利用者は行え ていない）</p>
3	切れ目のない支援体制に 向けた地域づくりと関係 づくり ①他法人・機関とともに 情勢や支援（行動障害 など）などの情報を共	<p>①情報連絡会や会議への積極的 な参加と問題提起（岡山県知 的障害者福祉協会、倉敷心身</p>	<p>①各会へ参加 し、情報交換 や人脈づくり</p>

	<p>有し支援の幅を広げる</p> <p>②地域交流や地域活動へ参加することで、障がいの理解と利用者の住みやすい環境をつくる</p> <p>③生活介護事業所を地域に貢献する場として有効的に利用する</p> <p>④社会との接点が希薄な方に対し中間的就労の場を提供する</p> <p>⑤地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築</p> <p>⑥地域で暮らす家族・本人を支える、短期入所・日中一時の体制づくり（緊急受け入れの</p>	<p>障がい者施設協議会、倉敷自立支援協議会各部会、強度行動障害連絡会）</p> <p>②・地域交流や地域活動の情報を家族会や月計画表で提供し参加を募る ・事業グループ合同サロン活動の実施と地区小学校の啓蒙活動</p> <p>③生活介護時間外のさくらだいの広場やあしたばわくわくルーム、中庭などの地域の方や他事業所の利用者への提供</p> <p>④相談支援事業所との連携により対象者を把握、施設内外環境整備等に従事してもらう</p> <p>⑤拠点会議・ミーティング（発達支援事業グループとチームプレイ）月1回グループ会議 前週水曜日 発達 9:00～11:00 自立 13:00～15:30 ひろば栗の家（オレンジカフェの運営）毎月第2火曜日 10:00～12:30</p> <p>⑥利用日調整と職員担当制を行う：毎日 担当者会議の実施：月1回 基本相談</p>	<p>を行っている</p> <p>②・地域清掃に家族も参加している ・未実施</p> <p>③わくわくルームなどは放課後等デイサービスコトノハが長期休暇時などに利用している さくらだいは地域住民と調整中（次年度）</p> <p>④法人として認定就労訓練事業を受けていれる（利用0件）</p> <p>⑤実施</p> <p>⑥法人内を併用利しているご</p>
--	--	---	---

	体制)	コトノハ合同会議	利用者に関して調整会議を開催
--	-----	----------	----------------

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<p>職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス</p> <p>①有給休暇の取得率50%以上(当該年度付与分)</p> <p>②退社時間の安定化を目的に業務内容を見直し、仕事量の適正化を図る</p> <p>③職員交流の場 ストレス軽減</p>	<p>①全職員が有給休暇取得希望を事前申請(4月初旬)。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成(4月末)し、計画的に取得する</p> <p>②グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する 業務手順書に45分間の休憩時間(分割も含む)を明記し、各班15時以降での実施</p> <p>③サークル活動の実施:年1回(計画:班交代制) サークル補助金で活動内容の充実を図る</p>	<p>①年度途中での退職や年度末での退職があり、取得できていない</p> <p>②休憩時間は確保している 水平展開にまで至っていない</p> <p>③一部職員がソフトボールサークルに参加 女子会サークル立ち上げを試みるも未実施</p>
2	<p>安定した支援の提供体制を整えるための人財確保</p> <p>①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる</p>	<p>①実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる</p>	<p>①保育実習生を多数受け入れ 法人、事業所に興味を持ってくれ就職フェアに参加してくれた学生もいる</p>

	②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする	②毎月1回以上スタッフブログを更新	②毎月更新実施
3	職員間交流の場を通して、人財の定着を図る ①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする	①年間を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う	①受け入れ実績なし
4	職員が法人の方針を理解できる仕組みづくり	経営会議、拠点会議の内容を噛み砕いて一般職にも理解できるように伝える：職員会議・班会議	職員会議・班会議にて通達

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定 ①利用者が災害時にスマーズに避難でき、地域住民も避難所として利用できるような訓練の実施 ②あしたば事業継続計画の立案（交通安全・防災委員会、倉敷拠点とのチームプレイ）	①毎月実施し、火災・地震・風水害等、また、日中や夜間を想定した訓練や避難グッズを使用した訓練 ②防災班会議を毎月実施 管理者・防災担当者	①火災・地震について日中や夜間を想定して実施 11月25日には地域住民・近隣事業所を招いて炊き出し訓練実施 ②あしたば事業継続計画作成済
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービスの提供（手順書の整備）	生活支援の手順書（食事、排泄、入浴）を5月末までに作成・見直しを行う 研修を7月に行う	左記手順書作成済 介護を学ぶ会にて研修実施

3	<p>利用者の健康を守る、持ち込まない、持ち出さない感染症の予防</p> <p>①手洗い・うがいなど利用者支援を通しての取り組み</p> <p>②感染症防止や対応方法を学ぶ</p>	<p>①個人に適した方法（見守り、介助、介護度）で、食事前・外出後・トイレ後の手洗い、また、うがいや水分補給を行う</p> <p>②感染症流行時期前に事業所内研修：5月、10月</p>	<p>①手洗い・うがいの実施 平成29年度インフルエンザ罹患者0人</p> <p>②研修実施</p>
---	--	--	--

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>①利用者満足アンケートの実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する</p> <p>②事業所の方針や活動内容、行事の情報、ボランティア募集の情報を開示する</p>	<p>①事業所から配付12月、回収1月、フィードバック2月 結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表</p> <p>②ホームページで公表</p>	<p>①左記計画通り実施 結果はあしたば通信および家族会にて報告</p> <p>②納涼大会などボランティア募集をホームページを通じて行っている</p>
2	サービスの質の向上から、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施・意見や要望も含めた情報共有（水平展開）	契約（内容変更も含む）時に苦情解決受付、解決責任者、第三者委員を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配付、受付ポスターの掲示と説明	家族会にて説明 ポスター掲示

3	<p>ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上</p> <p>①情報共有をするための新アセスメントシートの活用と見直し</p> <p>②利用者の本人特性や強みが活かせる日中活動の場の提供</p> <p>③実践発表の基軸（アセスメント）として設定</p> <p>④自治会の運営と利用者の声や思いを受け止める（利用者個々の特性も含む）</p>	<p>①アセスメントの実施（4月、10月） アセスメントシートの見直し（7月）</p> <p>②相談支援事業所・家族も含めた調整会議を開催</p> <p>③実践発表マニュアルのスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p> <p>④アセスメント・家族・第三者からの聞き取り 班会の提案と報告：月1回 自治会役員会：月1回</p>	<p>①アセスメント実施</p> <p>②法人内併用利用者に関する情報共有を行う調整会議開催 相談支援事業所や家族は参加できていない</p> <p>③アセスメントに関する実践発表を他事業所と共同で行っている</p> <p>④不定期ながら自治会開催 自治会役員、名称決定 自治会役員が主体となり希望する書籍を購入</p>
---	---	---	---

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>利用者が楽しめ、地域住民も参加・利用できる環境の設定</p> <p>①中庭を活動場所として設定</p> <p>②落ち着いて過ごせる環境設定</p>	<p>①9月までに中庭を活動場所として整備し活用開始</p> <p>②食堂上のテラスの活用方法等の検討 スヌーズ</p>	<p>①土壤の入れ替えは完了し、球技などで活用 地盤補強は平成30年度</p> <p>②未実施</p>

		レン WT・職員・利用者・家族・河本先生（アドバイザー）	
2	リスク、防災の視点から老朽化による戸や窓の開閉困難な状況などの修繕	営繕・環境委員会を中心とした、環境パトロールや修繕、業者依頼を行う（毎月）	都度修繕を行っている
3	相模原市「やまゆり園」の事件を受けて、安心して過ごせる環境 ①不審者対応の環境の設備	①補助金等の活用：防犯グッズの整備、通報装置の設置	①新たな防犯グッズは購入していない（11月8日に倉敷警察署による防犯訓練実施）

【利用者数・職員配置】

利用者動向														単位:人		
■入所支援 定員50名																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	1,357	1,364	1,401	1,404	1,360	1,382	1,426	1,360	1,387	1,324	1,298	1,454	1,454	-	16,517	-
計画	1,440	1,480	1,440	1,480	1,480	1,440	1,480	1,380	1,350	1,330	1,300	1,400	1,400	54	17,000	-483
H28年度実績	1,354	1,319	1,362	1,372	1,332	1,272	1,375	1,385	1,349	1,327	1,296	1,423	1,423	31	16,166	351
H27年度実績	1,352	1,300	1,373	1,445	1,347	1,346	1,443	1,360	1,355	1,330	1,285	1,352	1,352	102	16,288	229
開所日実績	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	31	-	365	-
請求利用者数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	-	50.0	-
利用率	90.5%	88.0%	93.4%	90.6%	87.7%	92.1%	92.0%	90.7%	89.5%	85.4%	92.7%	93.8%	93.8%	-	90.5%	-
H28年度利用率	90.3%	85.1%	90.8%	88.5%	85.9%	84.8%	88.7%	92.3%	87.0%	85.6%	92.6%	91.8%	91.8%	2.0%	88.6%	1.9%
H27年度利用率	90.1%	83.9%	91.5%	93.2%	86.9%	89.7%	93.1%	90.7%	87.4%	85.8%	88.6%	87.2%	87.2%	6.6%	89.0%	1.5%
■生活介護 定員40名														単位:人		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	914	953	926	941	911	887	917	867	892	908	798	913	913	-	10,827	-
計画	880	920	880	920	920	880	920	867	920	920	800	920	920	-7	10,747	80
H28年度実績	1,057	1,068	1,071	1,088	1,083	965	1,072	1,065	1,080	1,099	981	1,111	1,111	-198	12,740	-1,913
H27年度実績	1,104	1,141	1,130	1,180	1,111	1,096	1,131	1,078	1,107	1,084	943	1,114	1,114	-201	13,219	-2,392
開所日実績	22	23	22	23	23	23	23	22	23	23	23	20	23	-	270	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	1
H28年度実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	1
請求利用者数	50	50	50	49	49	48	48	48	49	49	49	49	49	-	49.0	-
利用率	103.9%	103.6%	105.2%	102.3%	99.0%	96.4%	99.7%	98.5%	97.0%	98.7%	99.8%	99.2%	99.2%	-	100.3%	-
H28年度利用率	96.1%	92.9%	97.4%	94.6%	94.2%	87.7%	93.2%	96.8%	93.9%	95.6%	98.1%	96.6%	96.6%	2.6%	94.8%	5.5%
H27年度利用率	98.0%	95.0%	99.2%	100.3%	96.0%	98.7%	100.0%	98.7%	98.6%	97.7%	99.3%	88.2%	88.2%	11.1%	97.5%	2.8%
■短期入所														単位:人		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	123	128	129	148	123	145	152	155	139	141	161	164	164	-	1,708	-
計画	120	124	120	124	124	120	124	155	140	140	120	140	140	24	1,551	157
H28年度実績	118	123	122	133	116	122	140	122	120	115	105	128	128	36	1,464	244
H27年度実績	120	115	119	107	107	118	107	115	103	89	78	110	110	54	1,288	420
請求利用者数	25	25	26	29	23	29	30	32	27	25	26	26	26	-	26.9	-
■日中一時														単位:人		
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	62	65	67	69	68	77	77	66	65	62	72	71	71	-	821	-
計画	105	108	105	108	108	105	108	105	108	98	108	108	108	-37	1,274	-453
H28年度実績	61	51	59	49	48	46	55	58	52	56	58	66	66	5	659	162
H27年度実績	85	67	90	86	75	78	92	75	66	71	71	78	78	-7	934	-113

職員配置					
職種	基準	実員	換算	過不足	備考
管理者	1	1	1	0	生活支援員兼務
サービス管理責任者	1	2	1.5	0.5	専従・兼務
支援員:福祉専門職	26.8	10	28.8	1.0	福祉専門職配置等加算
支援員:その他		24			
看護師	1	2	1.7	0.7	常勤看護職員等配置加算
医師	1	—	—	—	嘱託医
管理栄養士	1	5	4.4	3.4	栄養マネジメント加算(管理栄養士) 栄養士配置加算
栄養士					
調理員		2	1.3	0	
事務員		1	0.8	—	
作業療法士					

※人員に関する加算要件		
共通	配置体制加算	1.7:1 必要支援員等 27.8名
入所	夜勤職員体制加算	夜勤3名以上
生活	福祉専門職配置等加算	有資格者35%以上(常勤生活支援員等)
生活	常勤看護職員等配置加算	看護職員 1名以上(常勤換算)
入所	栄養マネジメント加算	管理栄養士 1名以上
短期	栄養士配置加算	管理栄養士・栄養士 1名以上
入所	重度加算Ⅱ	加算職員1名(支援員)配置

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	新人職員研修	制度・人権・個別支援計画など
5月	救命救急法	心肺蘇生講習
6月	個別支援計画・アセスメント	制度・人権・個別支援計画など
7月	介護を学ぶ会(介護塾)	身体介護技術
8月		
9月	障がい者支援・スヌーズレン	コンサルタントによる指導
10月	介護を学ぶ会(介護塾)	ユマニチュードケア
11月	防犯訓練 災害訓練	不審者対応 焼き出し訓練
12月	リスクマネジメント	所在不明者対応
1月	感染症予防	感染症対策・吐物処理
2月		
3月	介護を学ぶ会(介護塾)	看取りについて

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	お花見会	町内住民と一緒に桜の花見を実施

5月	桜台団地清掃活動	町内清掃
6月	あした BAR	あした BAND による演奏と食事
7月	日差地区清掃活動	町内清掃
8月	桜台団地清掃活動 あしたば納涼大会	町内清掃 音楽クラブの発表、大学の和太鼓サークル・庄音頭の披露、屋台の運営
9月	運動会	わきあいあいと合同で開催 (全班)
10月	庄学区民大運動会 ハロウインパーティー	一般の部で利用者と職員でリレーに 参加・地域住民の一員としてリレー に参加 仮装・演奏会
11月	バス旅行 人権フェスタ庄	3コースに分かれ実施 施設紹介を行う
12月	クリスマス会 日差寺 毘沙門天参道清掃活動	楽団演奏、ダンスパーティー 側溝の清掃と寺社周辺の清掃
1月	正月行事	伝承遊び (スタンプラリー)
2月	日差寺 毘沙門天初虎大祭	地域住民として参加
3月	くらしきツーデーマーチ	ふれあいウォークに参加

共同生活援助事業所クムレ

【事業実施概要】

定員増加に伴い、自治会の設立、サテライト型グループホーム等の環境を整え、利用者主体の活動に向けた体制作りを行った。家族においては家庭訪問を実施し、家族との繋がりの中で、アセスメントや家族の個別の課題も見えてきた。地域においては、公民館の講座、地域の清掃活動やイベントに例年以上に積極的に参加し地域住民と交流する機会が増え、地域の特性を知ることができた。法人全体の共通マニュアルの作成や、家庭訪問の実施手順の確立等の課題が見えてきた。これらの課題は来年度に解消していく。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	自立した生活に向けた支援	<ul style="list-style-type: none">利用者の自治会の設立利用者主体の行事の開催（年1回）自治会行事・清掃活動の利用者参加自立可能な利用者への一人暮らし等に向けたサポート（サテライト型ホームの実施（利用者1名））あしたば利用者の地域移行と、グループホーム利用者の一人暮らし等の取組み（あしたば1名、グループホーム1名）余暇支援の充実と新規開拓（職員会議時）	<ul style="list-style-type: none">12月～設立済（けやきホーム）8月実施済8月、10月実施。7月実施。1月あしたばより地域移行1名未実施。
2	切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係		

	<p>づくり</p> <p>①地域の障がいへの理解や、地域貢献のために、利用者・職員と地域との交流を行う。</p> <p>②社会との接点が希薄な人に対し中間的就労場を提供する（グループで3人以上）</p> <p>③地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館のクラブ活動への利用者参加（毎月） ・地域の見守りパトロールの参加（平日） ・他事業所との協働主催で、地域との協働の行事（年2回） <p>②入居希望者・見学者に対して法人の就労事業の紹介を行う。</p> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点ミーティング（発達支援事業グループとチームプレイ）月1回 グループ会議前週水曜日 10:30～12:00 ひろば栗の家（認知症カフェの運営）毎月第2火曜日 10:00～12:30 専門職等で担当 ・計画相談員や関係機関を巻き込んだケア会議とチームプレイの実施。 ・利用者が利用する事業所から利用状況を確認し合い、情報共有を行う。（モニタリング時） 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施済み（毎月） ・実施済み ・実施済み（1回開催） <p>②随時実施済み</p> <p>③</p> <p>実施済み。</p> <p>随時実施済み。</p> <p>12月～実施済み。</p>
3	<p>＜人材育成＞</p> <p>利用者の生活の質の向上にを目的に、障がいへの理解と対応方法、虐待セルフチェック、世話人の個別支援プランへの参加等を通して職員の支援力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人勉強会（隔月） ・世話人研修（GH交流会2名参加、法人内研修、部外研修に各世話人1回以上参加） ・虐待のセルフチェックの実施（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済み ・実施済み（世話人4名参加） ・2月実施済み

	の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の実施（毎月） ・世話人会議の実施（隔月実施） ・合同世話人会議の実施（1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済み。 ・実施済み。 ・未実施。
--	---------	--	---

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス</p> <p>①有給休暇取得率 50%以上（当該年度付与分）</p> <p>②退社時間の安定化を目的に業務内容を見直し、仕事量の適正化を図る</p>	<p>① 全職員が有給休暇取得希望を事前申請（4月初め）。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成（4月末）し、計画的に取得する</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案事項を集計し表彰する（7、11、3月）グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する ・日報をデータ化し改善事項の抽出を行い、対策を行う。 	<p>①全職員計画的に取得できている。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施 <p>・11月実施済み。</p>
2	<p>安定した支援の提供体制を整えるための人材確保（グループで5人/年）</p> <p>①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる</p> <p>②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする</p>	<p>① 実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる</p> <p>②毎月1回以上スタッフブログを更新</p>	<p>①受入マニュアル整備済み。受入実績なし。</p> <p>②未達成（3回更新）</p>
3	職員間交流を通して、人財の定着を図る		

	<p>①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする</p> <p>②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減</p>	<p>①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う</p> <p>②年2回グループ内でサークル活動を実施</p>	<p>①未達成。</p> <p>②未実施。</p>
4	職員が法人の方針を理解できる仕組み	①職員会議、世話人会議で経営会議等の内容を職員に伝達する。	①会議開催時に伝達済み。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	利用者の安全確保の為の防災訓練の実施	・各ホーム防災訓練を実施(年1回)	9月実施済み。
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供(手順書の整備)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員業務マニュアルの見直し(9月、3月) ・世話人業務マニュアルの見直し(6月) ・マニュアル一覧の作成(4月) ・世話人日誌の標準化(5月) ・サービス管理責任者マニュアル作成(9月) ・契約書・重要事項説明書の見直し(4月) ・苦情解決フロー図の作成・掲示(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済み(3月) ・実施済み(3月) ・実施済み(3月) ・実施済み(6月) ・未実施。 ・実施済み(4月) ・実施済み(4月)
3	病気の早期発見と健康寿命を延ばすことを目的に、医療との連携を図り、利用者の健康管理体制の確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・ガン検診・特定健診・歯科検診の実施(年1回) ・健康管理マニュアルの整備(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済み(10～11月) ・実施済み(3月)

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	<ul style="list-style-type: none"> 事業所から全利用者へ配布：12月、回収：1月、フィードバック：2月 結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表 利用者の余暇の新規開拓と活動回数の確保（ipadの導入、新聞の導入） 	<ul style="list-style-type: none"> 未実施 未実施
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	<ul style="list-style-type: none"> ①契約（内容変更も含む）時に苦情解決受付、解決責任者を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明 ②意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する 	<ul style="list-style-type: none"> 実施済み（4月） 実施済み（サービス調整会議で報告）
3	<ul style="list-style-type: none"> ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上 ①情報共有をするための新アセス 	<ul style="list-style-type: none"> ① アセスメントの実施（4月、9月） アセスメントシー 	<ul style="list-style-type: none"> ①実施済み。 (※見直しはPTにて対応)

	<p>メントシートの活用と見直し</p> <p>②家族ニーズと利用者の成育歴の情報収集</p> <p>実践発表の基軸として設定</p>	<p>トの見直し（7月）</p> <p>②家庭訪問の実施（年1回）</p> <p>③実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p>	<p>②実施済み。</p> <p>③実施済み。</p>
--	---	---	-----------------------------

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	社会的ニーズに答えるための新グループホームの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・5月設立に向け人員配置、設備の整備を行う ・地域住民からの世話人採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施済み（7月） ・1名採用
2	一人暮らしを希望する利用者を対象としたサテライト型ホームの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者がある場合に設置 ・利用者への情報提供 	・サテライト型ホーム設置済み
3	火災報知器の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・上東ホーム設置 	・実施済み。（3月）

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向																	
■共同生活援助 定員24名→8月1日～定員30名														単位:人			
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異	
実績	648	631	621	688	698	705	732	734	722	791	739	823	823	-	8,532	-	
計画	683	836	816	849	825	810	846	750	770	818	772	855	855	-32	9,630	-1,098	
H28年度実績	658	690	691	710	698	640	675	655	679	689	610	672	672	151	8,067	465	
H27年度実績	664	666	660	684	654	636	669	624	626	621	639	684	684	139	7,827	705	
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	31	-	365	-	
請求利用者数	24	24	24	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30		28.4	-	
利用率	90.0%	84.8%	86.3%	76.5%	75.1%	78.3%	78.7%	81.6%	77.6%	85.1%	88.0%	88.5%	88.5%	-	82.5%	-	
H28年度実績	91.4%	92.7%	96.0%	95.4%	93.8%	88.9%	90.7%	91.0%	91.3%	92.6%	90.8%	90.3%	90.3%	-1.8%	92.1%	-9.5%	
H27年度実績	92.2%	89.5%	91.7%	91.9%	87.9%	88.3%	89.9%	86.7%	84.1%	83.5%	91.8%	91.9%	91.9%	-3.4%	89.1%	-6.6%	

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	世話人会議（事業計画）	実施済み。
5月		
6月	世話人会議（知的障がい・統合失調症について）	実施済み。
7月	岡山県G H世話人研修	実施済み。
8月	世話人会議（自閉症・発達障がいについて）	実施済み。
9月		
10月	世話人会議（防災について）	実施済み。
11月		
12月	世話人会議（感染症について）	実施済み。
1月		
2月	世話人会議（虐待防止について）	実施済み。
3月		

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容。
4月	花見（あしたば）誕生日会	実施済み。
5月	バーベキュー 誕生日会	実施済み。
6月	障がい者スポーツ大会	実施済み。
7月	グループホーム入居者交流会 誕生日会	実施済み。
8月	花火大会 あしたば納涼大会 誕生日会	実施済み。
9月	お疲れ様会 誕生日会	実施済み。
10月	庄地区大運動会 誕生日会	利用者 5名参加。
11月	人権フェスタ庄 誕生日会	利用者 3名参加。
12月		
1月	新年会 誕生日会	実施済み。
2月	地域交流会 誕生日会	未実施。
3月	倉敷雑めぐり ツーデーマーチ（ふれあいウォーク） 誕生日会	実施済み（パン作り、ツーデーマーチ）

生活介護事業所コトノハ

【事業実施概要】

平成29年度から、コトノハは生活介護と放課後等デイサービスの事業を行う多機能型の事業所として、事業を展開。重度対応も可能となる浴室の整備、生活介護の定員減、放課後等デイサービス、および居宅介護事業所なないろの移転等設備、建物の整備に係る工事等が約半年に及んだが、大きな事故及び利用者の混乱等は起こっていない。

班構成の再編や、わきあいあい併用利用者の情報共有や相談員を交えての会議の開催、新任でサービス管理責任者を配置することなど、利用者の日中を代表する場として、一人ひとりの「自立」「尊厳」「ハビリ」に視点を置いた支援計画や活動の設定、家族会への参加を経て、どんなに障がいが重くても、住み慣れた地域で生活することや、親なき後の生活等についても勉強会や面談、家庭訪問等を通じて、地域生活の資源の把握や課題の共有を図った。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用者主体（意向、希望、就労）が反映された個別計画の立案と統一した支援を実施する ※利用者主体の計画項目が、計画書の中で具体化された手順が記入されていること	① 個別支援計画の立案（4月、10月）本人・家族・担当職員・サービス管理責任者・関係機関と協議 ② 個別支援計画の進捗管理（毎月）班会議で確認 ③ 個別支援計画の評価（9、3月）相談支援員のモニタリングも参考 ④ 家族支援（家庭訪問・面談）の実施（9、3月）家族会の開催（毎月）利用者、家族のエンパワメントを充実（ひろば栗の家活用し、家族同士、幼児の家族との話をする会を実施 ⑤ 人権倫理、権利擁護の順守の研修（2/年）	①③④ 年半ばでの振り返りを行い、支援計画の進捗に合わせて計画の見直しを行った。相談員、併用事業所職員へも声掛けを行い、情報共有や支援の方向性の擦り合わせを行った。達成。 ②毎月の班会議にて、支援計画の進捗の確認、アセスメントの整合性の確認を行った。達成。 ⑤年度初めの専門研修（人権倫理委員会）、年度末に権利擁護研修の復命

		⑥当年度の事業計画の説明（3～4月）、中期の進捗報告（9～10月）	及び職員研修を実施。達成。 ⑥4月下旬、5月初旬に年度計画の説明。3月末に平成30年度の事業計画の説明を実施。達成。
2	P D C A サイクルを定着し、業務改善を図る。 ※課題解決、評価など職員の意識を高め、会議の時間短縮や職員間の報告・連絡・相談の徹底を啓発する。	①キャップ会、職員会議では、P D C A シートを使用（毎月） P D C A シートの運用についてのアンケート実施・評価（10月） ②職員の連絡ノート形式の変更（4月）	①定例での開催の他、変更事項の伝達や、支援や働き方の方向性を定めていく、又は確認していく段階で会議を開催。 ②職員が情報を過不足なく伝えていく手段として、連絡ノートの記載や見える化に努めた。下半期には様式の見直しを実施し活用。達成。
3	切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり ①ひろば栗の家を活用し、地域との関係づくり体制を行う ※年間計画の中で、全職員が1つ以上に参加し、地域の方と関わることを実行する ②社会との接点が希薄な人に対し中間的就労場を提供する（グループで3人以上） ③地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築	農業実習地（稻作）を実施（年間計画） 利用者、家族、職員、ボランティア（学区内の小学生を招待） ②動物との共生、飼育、散歩、小学校訪問の実施 利用者、職員、地域住民、ボランティア ③拠点ミーティング（発達支援事業グループとチームプレイ）月1回 グループ会議前週水曜日 10:30～12:00 ・ひろば栗の家（認知症カフェの運営）毎月第2火曜日 10:00～12:30	年間計画に沿って遂行。3年目の収穫等を終える。天候不良により、稻を起こすなどの作業が加わる。計画不足で学区内の小学生は招待できなかった。 ②大学教員とも連絡をとり、継続実施。放課後等デイサービスや、きらり中庄（重心）のお子さん、兄弟児とのふれあいの機会もあった。達成。 ③年間計画に沿って実施。各事業所の職員が持ち回りで参加した。

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス ①有給休暇取得率50%以上（当該年度付与分） ②退社時間の安定化の為の業務内容を見直し、仕事量の適正化を図る	①全職員が有給休暇取得希望を事前申請（4月初め）。管理者が、有給休暇年間計画を作成（4月末）し、計画的に取得する ②業務改善提案事項を集計し表彰する（7、11、3月）グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する	①前年度比較しても、有給休暇の取得率は向上しているが、職員により多い、少ないはある。達成。 ②送迎の再編等を行い、在園職員数の調整を行う。休憩時間の確保等、改善できている点はあるが、水平展開や表彰には至らず。
2	安定した支援の提供体制を整えるための人材確保（グループで5人/年） ①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる ②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする	①実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる ②毎月1回以上スタッフブログを更新 事業所通信の発信（2ヶ月に1回）	①介護福祉士、社会福祉士の養成校からの実習受入あり。家族会や面談等への参加の計画し面談技術の実習も加えた。職員の支援について評価を参考にした。 ②毎月の更新は5回/年の実施で未達成

3	<p>職員間交流を通して、人財の定着を図る</p> <p>①職員間の交流（G r 内） 職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする</p> <p>②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減</p> <p>③レクリエーション同好会発足</p>	<p>①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う 他事業所間への実習、見学交流を実施し感想を提出（2日間/5～1月）</p> <p>②実習、ボランティアの受け入れ終了後、アンケートを回収し、事業所内で報告周知</p> <p>③四ッ葉会にキャップが申請（4月）自立事業G r 内で1/3ヶ月実施</p>	<p>①幼児支援の職員等の受け入れを実施。同建物内の放課後等デイサービスへの体験を行い、多機能型としての機能や役割、支援の内容等を知る機会としている。</p> <p>②第三者からの視点等としての感想や気づきを知る機会となる。特に人権、権利擁護等の意識づけに繋がる。</p> <p>③年度当初は月1回ペースで開催し職員の参加あり。年度後半で徐々に開催減少。申請完了。</p>
4	職員が法人の方針を理解できる仕組み	<p>全職員へ職員会議等の場にて経営会議等の決定事項を報告する（毎月） 方針等を分かりやすく図式化するなどの工夫をする 当年度の事業計画の説明（4月） 嘱託職員も職員会議に参加し、情報を共有する（4、6、2月）</p>	<p>職員会議時に、経営会議や拠点会議等の法人の方針や事業所としての役割等の説明を実施。嘱託職員の参加は、年度初めと年度末の2回実施。 未達成</p>

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて		

	<p>①防災訓練を実施後、記録をとり職員、利用者の意識の向上を図る ②委員会、防火管理者が年間計画表を作成し推進する</p>	<p>①防災（火災、地震、台風、川の氾濫等）を設定し訓練を実施（1回/2カ月） ②防災訓練記録（毎回） 年間担当者 栗坂合同訓練を実施（毎月20日）拠点 必要な持ち出し物品の整備（5月末）防災知識の研修（9月）</p>	<p>①②自然災害等を想定した避難、消火訓練等を毎月実施。達成。 栗坂敷地内での合同訓練は委員会発信の2回。 9月に日赤による炊き出し、12月にインスタント食品等を調理して食べる機会の実施、避難訓練時に非常持ち出し袋の中身の確認等を実施。達成</p>
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供（手順書の整備）	<p>①手順書、マニュアル作成（5月末） 研修（7月末）</p>	必要なマニュアルの書き出しまでは行うが具体的な作成・完成には至らず。各勤務帯の業務手順作成。未達成。
3	<p>感染症予防・健康の増進 ①手洗い・うがい等の利用者支援を通しての取り組み ②感染症予防や対応方法を学ぶ</p>	<p>①個人に適した方法（見守り、声かけ、介助、）で、食事前・外出後・トイレ後の手洗い、また、うがいや水分補給の強化、励行する 感染症流行時期前による事業所内研修の実施（5月・10月）</p>	<p>職員向けの手洗いや感染症予防の研修を実施。 利用者、家族へはお便りの発行にて啓発や、支援計画に手洗い等を入れ、日常動作としての獲得を狙いとして取り組んだ。 3月末にインフルエンザ発生。達成。</p>

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	事業所から全利用者へ配布：12月、回収：1月、フィードバック：2月 結果や意見は家族	アンケート実施。 3月に家族等、職員へ結果と取り組んだ対策を報告。 紙面にて配布。 (達成)

		会、ホームページや事業所便り等にて公表	
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	<p>①契約（内容変更も含む）時に苦情解決受付、解決責任者を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明 契約説明会を年度末に実施（3月に2回）</p> <p>②意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する</p>	年度初めや年度末の事業計画の説明、報告、契約の機会に説明を行う。ポスターを事業所内に掲示。達成。
3	<p>ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上</p> <p>①情報共有をするための新アセスメントシートの活用と見直し</p> <p>②事業計画の説明会を実施 全利用契約者に説明（100%） 管理者、チーフ以上</p> <p>③実践発表の基軸として設定</p>	<p>①アセスメントの実施（4月、9月）全職員アセスメントシートの見直し（7月）</p> <p>②事業計画に使用する資料作成（4月中旬） 説明会（4～5月まで/4月29日、5月3日）</p>	<p>①左記及び市も班会議において、毎月の班会議にて評価の根拠や班職員の見立て、意見等の集約を実施。</p> <p>②年度初めに実施。面談等で進捗を確認。</p> <p>③併用利用者のケースを事例に、アセスメントの検証</p>

	<p>次年度計画の説明 (3月10日、21日) ③実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p>	及び発表を実施。 達成。
--	--	-----------------

【施設整備】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	特浴を可能とする施設整備	特浴が可能となり、在宅での入浴が困難な方が入浴することができる	6月完成
2	多機能型事業所体制の整備 居宅事務所移転に伴う整備	切れ目ない支援が展開できる	9月完成
3			

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向														単位:人		
■生活介護 定員30名 (H28年度 定員40名)																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	834	844	847	830	817	758	767	715	755	731	661	722	722	-	9,281	-
計画	793	829	780	835	836	794	823	715	750	800	700	800	800	-78	9,455	-174
H28年度実績	882	883	936	928	943	878	888	913	911	870	819	916	916	-194	10,767	-1,486
H27年度実績	801	756	838	870	829	803	852	805	827	796	777	855	855	-133	9,809	-528
開所日実績	23	24	24	24	23	22	23	22	23	23	20	23	23	-	274	-
開所日計画	23	24	24	24	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	274	0
H28年度実績	22	23	22	23	23	23	23	22	23	23	20	23	23	0	270	4
請求利用者数	58	58	59	59	58	54	55	54	54	53	53	53	53		56.2	-
利用率	120.9%	117.2%	117.6%	115.3%	118.4%	114.8%	111.2%	108.3%	109.4%	105.9%	110.2%	104.6%	104.6%	-	112.8%	-
H28年度実績	100.2%	96.0%	106.4%	100.9%	102.5%	95.4%	96.5%	103.8%	99.0%	94.6%	102.4%	99.6%	99.6%	5.1%	99.8%	13.1%
H27年度実績	91.0%	82.2%	95.2%	94.6%	90.1%	91.3%	92.6%	91.5%	89.9%	86.5%	92.5%	92.9%	92.9%	11.7%	90.9%	22.0%

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	権利擁護、人権についての勉強会 手洗い、事業所内の清掃、消毒について(看護師)	嘱託職員含め、研修・GWを実施 日々の清掃等の環境整備について説明。
5月	知的障害の基礎知識を学ぶ (田中ひ)	支援の基礎を学ぶ
6月	実習生、ボラの受け入れ(キャップ)	ボランティアの活動内容や、受け入れ、振り返りの流れの確認
7月	摂食、嚥下について (管理栄養士)	利用者の嚥下等の課題は摂食評価表等を参考に確認。
8月	効果的な支援方法を学ぶ	スケジュールや視覚的支援等の支援方法の説明
9月	防災非常持ち出し袋の使い方 (防火管理者)	BCPを念頭においていた災害時の知識向上
10月	スヌーズレンについて (河本先生)	コンサルタントによる講演
11月	実践した支援を振り返る	支援の実践から見えてきた課題や解決方法を探る
12月	感染症予防、汚物処理の実践(看護師)	インフルエンザ、ノロウィルスに応じた対応、実演
1月	スケジュールの有効的な提示方法	利用者の活動の選択のためにも、見通しが持てる視覚的支援等の重要性を講義
2月	利用者の自己決定について(キャップ)	意思決定支援について、サービス管理責任者講義。個別支援計画への反映
3月	権利擁護、人権についての勉強会	2月の権利擁護の出張復命及び、委員会による集合研修実施

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	・事業計画説明会(平成29年度) 河本先生の講演 ・花見(4月上旬) 近隣の公園 ・ログハウス建設 家族、利用者、職員	コンサルタントによる講演 (家族会も参加) 花見 (茶屋町) ログ建設は5月に実施

	で建設を行う	
5月	<ul style="list-style-type: none"> 栗坂地域の清掃(利用者ごみ拾い) 芋の植え付けをやさい畑で体験(就労体験) スポーツ大会(風船バレー) 	<p>農業体験</p> <p>土曜開所日に実施</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> 農業(田植え) ナイトクルーズ(事業 Gr 職員の演奏) 	<ul style="list-style-type: none"> 希望利用者参加 未実施
7月	・七夕会(音楽療法発表会)	家族会同日開催。
8月	<ul style="list-style-type: none"> スヌーズレンルーム見学 あしたば納涼大会、庄新町夏祭り 	<ul style="list-style-type: none"> 希望 4 家族参加 各イベントボランティアとして参加
9月	<ul style="list-style-type: none"> 事業所参観週間(日) 午前の活動と給食、浴室など見学会 防災に備えて講演と炊き出し(日赤岡山県支部に依頼) 家族、栗坂の地域住民の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 参観週間、月 1 ~ 2 家族の参加。後半は希望家族なし 炊き出し、勉強会実施。クムレ関係者の参加はあるが、地域の方の参加はなし
10月	<ul style="list-style-type: none"> クラコト(栗坂地区合同) クムレ米でおにぎりつくり いも掘り(やさい畑クムレ) 	<ul style="list-style-type: none"> 実施 未実施 体験に参加
11月	<ul style="list-style-type: none"> 旅行 栗坂地域の清掃(利用者とごみ拾い) クラシス就労見学 	<ul style="list-style-type: none"> 班ごと分かれて実施 班活動で地域の清掃を実施。
12月	・クリスマス会(藤原管理栄養士依頼)	<ul style="list-style-type: none"> 家族にも参加を呼びかけ、一緒に季節の行事に参加
1月	・映写会(ラウンジにて鑑賞)	<ul style="list-style-type: none"> 実施。
2月	・節分会 クッキング(ちらし寿司つくり)家族に手伝い依頼	<ul style="list-style-type: none"> 倉敷学園厨房協力のもと、選択のトッピングしたちらし寿司を食べる
3月	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度の振り返りと平成 30 年事業計画の説明会 ランチバイキング(コトノハにて) 	<ul style="list-style-type: none"> 選択献立の食事を実施。

コトノハ 放課後等デイサービス

【事業実施概要】

コトノハは、栗坂地区の中で、自立支援事業グループの「尊厳」「自立（自律）」「ハビリテーション」の価値観を職員1人1人が自覚し、支援を必要としている利用者様に法人理念である「ともに育ち ともに生きる」が実現できるよう、家族や地域とともに連携し、質の高い支援を提供します。

その為にまず、栗坂地区の事業所間でのチームプレイを支援事業グループの垣根を越えて実施できるよう、職員や事業間でもお互いの顔が見える関係を作ることで、より強固で柔軟な地域連携に取り組んでいきます。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>① 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 職業人、対人支援者として“困っている”ことを見過ごさない人間力の向上・ 多面的に物事を捉え、考えられる専門性の向上 <p>② 子どもの権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none">・ 個性を尊重した支援の実施 <p>職員間で療育内容について話し合い、職業人として、人権倫理と権利擁護の視点を常に持つておく</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none">・ 階層別研修・ 専門研修、拠点研修、事業所研修（自立・発達）・ 研修内容の周知と確認 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none">・ アセスメントシートを活用したアセスメント力の向上・ 福祉のあゆみによる支援計画の入力による統一化・ 療育前にその日の利用児の情報を共有・ 利用児の個性に配慮した支援内容の提供	<p>①階層別研修・専門研修とともに事業計画に基づき実施した。事業所研修はコトノハと倉敷学園双方の研修に参加。</p> <p>②アセスメントシートの作成、利用児の全体像の把握、福祉のあゆみによる入力の統一化を図った。療育前の運営について話し合いを行った。利用児1人1人に対して個別支</p>

	<p>③チームでの支援提供（支援を実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業グループ間や事業所間の垣根を越えたチームプレイの強化 	<ul style="list-style-type: none"> 同事業を行なっている各事業所に訪問、見学（きらりの放課後等デイサービスの運営の方法や様子を学ぶ見学の実施。または公開療育への参加：公開療育開催月） 倉敷学園の年長クラス見学と活動に参加 	<p>援を立案し支援の提供を行った。</p> <p>③倉敷学園・きらり倉敷への事業所体験を通して運営の方法や様子を見学した。</p> <p>倉敷学園の年長児クラスの見学と参加はできない。</p> <p>年長と卒園児対象の座談会へは参加。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 全職員 職員全体（キャップ、職員）
2	家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議の中で、利用児との関わり方について話し合う機会を設ける（1回/月） 	<p>職員会議の中で利用児の関わりや療育内容について考え話し合った。</p>
3	<p>地域支援</p> <p>①切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援グループと発達支援グループの会議、倉敷拠点グループミーティングに参加し現状把握とチームプレイでの支援ができる体勢作りを行う 	<p>①各会議に参加し、会議の内容と進行状況の把握を実施した。</p>

	<p>②社会との接点が希薄な人に対し、中間的就労場を提供する（グループで3人以上）</p> <p>③地域を面で支える体制作りのため、倉敷き拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの</p>	<p>(毎月第2火曜日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他事業所より依頼があれば受け入れの準備と実施を行う 拠点ミーティング (月1回、第1水曜 10:30～12:00) ひろば栗の家の認知症カフェの運営 (毎月第2火曜日 10:00～12:30) 	<p>②中間的就労の実績はない（今年度受入0人）。</p> <p>③オレンジカフェについては多機能型コトノハとしての参加状況。</p>
--	--	---	---

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<p>職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス</p> <p>①有給休暇取得率50%以上（当該年度付与分）</p> <p>②退社時間の安定化の為の業務内容を見直し、仕事量の適正化をはかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が有給取得希望を事前申請（4月初め）。有給休暇年間計画を作成（4月末）し、計画的に取得する 業務改善提案事項を集計し表彰する（7、11、3月）グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する 療育時間外の作業のルーティン化を図る（毎日） 全員の作業状況の見える化を図る コトノハ職員会議参加（1回/月） コトノハの終礼（前の週の報告）を実施（1回/水） ケース検討会 	<p>①有休取得は個人により差あり50%以上は1人のみ達成。</p> <p>②業務改善案の集計・表彰・水平展開未実施。</p> <p>療育時間外のルーティン化。作業状況の見える化を図ったが、職員の変動に周知が十分間に合わない状況があった。</p> <p>職員会議は月に1回実施</p>

	<p>③ 育児休暇取得職員のバックアップ</p>	<p>(コトノハ会議と同日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 育児休暇取得に伴う職員のフォローができるバックアップ体制を整える(6月中) 事業所内の職務分担についても見直し(6月中に体制を整備) 	<p>ケース検討会は実施できない月もあった。</p> <p>育児休暇習得済み</p> <p>作業分担の見直し済み。</p>
2	<p>安定した支援の提供体制を整える為の人材確保 (グループで5人/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習生やボランティアを積極的に受入れ、採用につなげる ホームページでの魅力発信により、就職者へアピールする 	<ul style="list-style-type: none"> 実習プログラムなどに応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる。(受入れ時) 毎月1回以上スタッフブログを更新する(1回/月) 	<ul style="list-style-type: none"> 実習生・学生に放課後等ディサービスの説明実施。 スタッフブログ未更新の月もある。
3	<p>職員間交流を通して、人材の定着を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする 職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 1年を通じて他事業所から3名を受入れ、1日業務体験を行う(受入れ時) グループ内でサークル活動を実施(年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所体験の受け入れ実施。 計画書に基づいて実施。
4	職員が法人の方針を理解できる仕組み	経営会議、拠点会議、事業グループ会議の内容について、職員会議で周知(月一回)	計画に基づき実施。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	安定したサービス提供を目的とした倉敷き拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて ① 災害時、スムーズに避難できるよう防災訓練の実施（火災、地震、不審者など）	① 月に1回の防災訓練の実施（1回/月） 栗坂地区と地域の機関（警察・消防）との連携	コトノハ（生活介護）と共同で実施。 警察と共に不審者対応を事業所単位で実施。
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供（手順所の整備）	きらりの業務内容を参考にし、業務遂行要領書やマニュアルの整備を行う。（5月中）	業務遂行要領書1部パート整備済み。 マニュアルの整備実施
3	玩具や遊具の安全・衛生確認	毎週末、事業所内の点検と管理を行い、玩具についてはアルコール消毒し、床はジアノックで滅菌する。（毎週末）	週末の清掃で実施。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	事業所から全利用者へ配布（12月）、回収（1月）、フィードバック（2月）結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表	満足度調査の配付と回収・集計済み。
2	サービスの質の向上を目指し、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に	① 契約（内容変更も含む）時に苦情解決受付、解決責任者を周	①計画に基づき実施。

	<p>対して原因究明と再発防止の立案・実施、意見や要望も含めた情報提供（水平展開）</p>	<p>知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明</p> <p>② 意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮し、グループウェアやグループ会議にて水平展開する</p>	<p>②計画に基づき実施。</p>
3	<p>ニーズ（利用者・家族・地域）を把握する為のアセスメント力の向上</p> <p>① 情報共有をする為の新アセスメントシートの活用と見直し</p> <p>②-1 多職種間でチームプレイの取れた支援の実施</p> <p>②-2 職員の支援の質の向上、常勤職員への研修</p> <p>②-3 学校や家庭への訪問と懇談の実施</p>	<p>① アセスメントの実施（4月、9月） アセスメントシートの見直し（7月）</p> <p>②-1 通所支援計画書を説明する時は根拠のある療育と内容の説明を実施する</p> <p>②-2 法人内研修や拠点研修への出席（研修開催時） ②-2 発達グループのケース会議や研修へ参加（研修開催時） ②-2 栗坂地区での勉強会の実施（年1回）</p> <p>②-3 保護者からの要望があれば即座に学校に訪問できる運営体制</p>	<p>①計画に基づき実施。</p> <p>②-1 計画に基づき実施。 ②-2 遊びの勉強会の開催 法人内の勉強会に参加。</p> <p>②-3 学校訪問と関係機関への訪問実施。</p>

		<p>を作り、年に2回懇談日を設ける（それ以外の月でも懇談は可能）</p> <p>③実践発表の基軸としての設定</p>	<p>③実践発表マニュアルスケジュールに準じてマを設定し、実践・研究・QCを行う</p> <p>③実践発表は3課題実施済み。</p>
--	--	---	--

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	事務所移転	・未定(4月の移転実施時 新たに必要な設備物品あ れば購入)	実施済み。
2	ノートパソコン 1 台		実施済み。

【利用者数・職員配置】

平成29年度		3月予算実績管理表											事業所名: 放課後等デイサービス コトノハ		責任者名: 妹山 裕一			
I 利用者動向		定員: 10名																
■放課後デイサービス 休日													単位: 人					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異		
実績	84	65	62	118	164	67	69	50	96	80	62	82	82	-	999	-		
計画	136	68	74	138	210	105	105	59	72	66	54	111	111	-29	1,198	-199		
H28年度実績										7	7	24	24	58	38	961		
■放課後デイサービス 平日													単位: 人					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異		
実績	37	60	75	40	0	80	71	76	47	46	57	59	59	-	648	-		
計画	60	119	138	92	32	147	147	78	72	72	78	60	60	-1	1094	-446		
H28年度実績										4	13	27	27	-	44	-		
II 月間開所日													単位: 日					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異		
実績 休日	16	9	8	17	28	14	9	8	12	12	9	14	14	-	156	-		
実績 平日	7	13	15	8	0	8	14	14	11	11	13	11	11	-	125	-		
実績 合計	23	22	23	25	28	22	23	22	23	23	22	25	25	-	281	-		
計画 休日	16	8	8	15	20	10	10	9	11	11	9	17	17	-3	144	12		
計画 平日	7	14	15	10	3	14	14	13	12	12	13	10	10	1	137	-12		
計画 合計	23	22	23	25	23	24	24	22	23	23	22	27	27	-2	281	0		
昨年度 休日											9	7	13	13	-2	29	96	
昨年度 平日											13	12	9	9	16	34	247	
昨年度実績計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	19	22	22	-8	63	93		
III 月平均利用者数													単位: 人					
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	月平均	差異		
実績	5.3	5.7	6.0	6.3	5.9	6.7	6.1	5.7	6.2	5.5	5.4	5.6	5.6	-	5.9	-		
昨年度実績	12.2	23.4	26.5	15.3	12.1	25.2	25.2	15.2	13.1	0.5	1.1	2.3	2.3					
IV 概算収入																		
請求額																		
休日	828,200												契約	件数				
平日	595,900												当月新規契約	0				
合計	1,424,100												契約数／月末	35				
V 契約数													待機者数	5				
VI 職員配置													職種	基準	実員	換算	過不足	備考
休日													管理者	1	1	3	0.0	兼務
平日													指導員・保育士	2	2			福祉専門職配置等加算
合計													児童発達支援管理責任者	1	1	1	0.0	派遣支援管理責任者専任加算
IV 概算収入													機能訓練担当職員	0	0	0	0.0	特別支援加算
V 契約数													当月契約終了	3				

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	手洗い、事業所内の清掃、消毒について（ 大切にしたい価値観・支援者観支援者としての論理間）	参加
5月	知的障害の基礎知識を学ぶ チームアプローチ	参加
6月	実習生、ボランティアの受け入れ	参加
7月	摂食・嚥下について	未参加
8月	効果的な支援の方法を学ぶ	参加
9月	防災非常持ち出し袋の使い方（防災） 感覚統合実践コース（9/22・23）	参加 参加
10月	スヌーズレンについて	参加
11月	実践した支援を振り返る	参加
12月	感染予防、汚物処理の実践	未参加
1月	スケジュールの友好的な提示方法	参加
2月	利用者の自己決定について	参加
3月		

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	・事業計画説明会（河本先生の公演） ・花見（コトノハ） ・ログハウス建設（家族・利用者・職員）	事業所説明会実施 ログハウス建設参加
5月	・栗坂地域の清掃（利用者ごみ拾い） ・鋳物植え付けをやさい畑で体験（就労体験：コトノハ） ・スポーツ大会（風船バレー）	栗坂地域清掃参加
6月	・田植え ・芋の植え付け（やさい畑の利用者と交流）	田植え参加

	・ナイトクルーズ	
7月	・七夕会（音楽療法）	未参加
8月	・スヌーズレンルーム見学 ・お祭り（あしたばと合同）	納涼祭ボランティアとして参加
9月	・防災に備えて炊き出し（日赤に依頼） ・事業所参観週間（日）	炊き出し利用児と参加
10月	・クラコト ・クムレ米でおにぎり作り ・芋ほり	クラコトフェスティバル職員参加
11月	・旅行 ・栗坂地域清掃 ・クラシス就労見学	栗坂地域清掃参加
12月	・クリスマス会	
1月	・映写会	
2月	・節分会 クッキング	
3月	・H29 年度振り返りと H30 年度事業計画説明会 ・ランチバイキング	振り返り実施。

わきあいあい

【事業実施概要】

住宅街の中の事業所として、地域との関わりを大切にし、これまで5年間続けてきた通所介護事業所クムレから生活介護「わきあいあい」への変更はスムーズに行えた。町内パトロールなど町内を活動場所としてきたことで、住民の理解も少しずつ広がり、声をかけてくれることも増えてきている。新規の利用者数がなかなか伸びず苦心してきたが、次年度に向けてまいた種に芽が出てきている。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容	
1	利用者の在宅生活の充実を図る。	<p>①アセスメントの充実を図るため家庭訪問を実施し家族とともに達成可能な目標を立てる。</p> <p>初回利用から1月以内。</p> <p>②アートに取り組む時間を確保し、新しい能力の発掘をする。</p> <p>展示ギャラリーの開催</p> <p>（町内文化祭に合わせ事業所をギャラリーとする。）</p> <p>11月</p> <p>③来所時にタクティールケアの実施による心身の安定をはかる。</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none">・在宅からの利用者に関しては実施できている。あしたば入居者はできていない方が数名ある。 <p>②</p> <p>11月22日にアートギャラリー開催し、作品の展示等を地域の方、支援学校先生生徒の保護者、家族、相談事業所職員など参加いただく。</p> <p>③</p> <p>実施継続中。落ち着いて受けきことができる方も出てきている。</p>	
2	清掃活動に参加し地域の障がい理解を交流と貢献により図る。	毎週清掃活動をしているグループとともに活動する。	毎週木曜日午前中。	協同の開催が出来ないとの返事、毎日町内パトロールとしてゴミ拾い等を行い交流広がっている。

3	<p>切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり</p> <p>①町内会、民生委員、駐在所、地域住民と地域の困りごと等について協力体制を築く。</p> <p>②社会との接点が希薄な人に対し中間的就労場を提供する（グループで3人以上）</p> <p>③地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築</p>	<p>①毎月第3土曜日に和気藹藹座談会開催、毎月最終金曜日に民生委員、駐在さんとの情報交換会の開催。</p> <p>②アート活動を地域の方々にも広げ、参加していただくことで共同制作活動につなげる。</p> <p>毎月1回開催</p> <p>③拠点ミーティング（発達支援事業グループとチームプレイ）月1回 グループ会議前週水曜日 10:30～12:00 チーフ以上 ひろば栗の家（認知症カフェの運営）毎月第2火曜日 10:00～12:30 専門職等で担当</p>	<p>① 毎月第3土曜日の和気藹藹座談会開催時に情報共有も行っている。</p> <p>② 座談会活動の中で参加者に体験して頂いている</p> <p>登録済、参加者現在0。</p> <p>参加している。</p>
---	---	--	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施責任者（誰が）
1	<p>職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス</p> <p>①有給休暇取得率50%以上（当該年度付与分）</p>	<p>①全職員が有給休暇取得希望を事前申請（4月初め）。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成（4</p>	<p>① 毎月1日を目安に有休取得を促している。希望を受けて摂取勧めている</p>

	<p>②退社時間の安定化の為の業務内容を見直し、仕事量の適正化を図る</p>	<p>月末) し、計画的に取得する。</p> <p>②業務改善提案事項を集計し表彰する(7、11、3月) グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する ・活動時間外の作業のルーティン化を図る(毎日) ・全員の作業状況の見える化を図る</p>	<p>未実施</p> <p>実施継続中</p> <p>実施継続中</p>
2	<p>安定した支援の提供体制を整えるための人材確保(グループで5人/年)</p> <p>①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる</p> <p>②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする</p>	<p>① 実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる</p> <p>②毎月1回以上スタッフブログを更新 広報担当者</p>	<p>① 町内行事などをボランティアさんと、ともに参加している。実習は10月に受け入れあり。</p> <p>② 実施している。</p>
3	<p>職員間交流を通して、人財の定着を図る</p> <p>①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする</p> <p>②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減</p>	<p>①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う</p> <p>②年2回グループ内でサークル活動を実施 全職員</p>	<p>① 常勤職員他事業所職場体験完了</p> <p>② ソフトボール大会、練習に参加。</p>

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施責任者（誰が）
1	<p>安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて</p> <p>①利用者が災害時にスムーズに避難でき、地域住民と共同で庄新町公民館を避難所として利用する訓練の実施。</p> <p>②わきあいあい事業継続計画の立案（交通安全・防災委員会、倉敷拠点とのチームプレイ）</p>	<p>①事業所内での5月、12月の避難訓練の実施（火災・地震）</p> <p>②防災についての議題を毎月実施 全職員</p>	<p>①</p> <p>9月3月に公民館まで避難を実施させていただいて行っている。毎日の活動で避難場所に設定している公民館併設のグランドまで全員で移動訓練している。</p> <p>交通安全防災委員会で進め作成している</p>
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供（手順書の整備）	5月末までに、生活支援の手順書（食事、排泄、入浴）を作成し、7月末に共有する。	実施後見直しが9月中に完成している
3	<p>利用者の健康を守る、持ち込まない・持ち出さない感染症予防</p> <p>①手洗い・うがい等の利用者支援を通しての取り組み</p> <p>②感染症予防や対応方法</p>	<p>①個人に適した方法（見守り、介助、介護度）で、食事前・外出後・トイレ後の手洗い、また、うがいや水分補給を行う 全職員</p> <p>②感染症流行時期前による</p>	<p>①</p> <p>水筒を利用しての水分摂取と手洗い行っている。</p> <p>②</p>

	を学ぶ	事業所内研修の実施 5 月・10月 看護師・栄養士	4月に実施している。
--	-----	------------------------------	------------

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施責任者（誰が）
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	事業所から全利用者へ 配布：12月、回収：1月、フィードバック：2月 結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表	・ 12月実施している
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	① 契約時に苦情解決受付、解決責任者を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明 ②意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する チーフ以上で発信	実施している ② 実施している
3	ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上 ①情報共有をするための	① アセスメントの実施（4月、9月）全職員 アセ	① 新規利用3ヶ月目と9月、3

	<p>新アセスメントシートの活用と見直し</p> <p>②利用者の本人特性や強みを生かした生活に繋がる活動の提供</p> <p>③実践発表の基軸として設定</p>	<p>スメントシートの見直し</p> <p>②相談事業所、家族も含めた調整会議の開催（情報共有）</p> <p>③実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p>	<p>月に行っている。</p> <p>②相談事業所に連絡して行っている</p> <p>3名が役割もって参加</p>
--	---	--	---

【施設整備】

番号	計画概要	達成目標
1		
2		
3		

【利用者数・職員配置計画】

I 利用者動向

■生活介護 定員

単位:人

20名

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	153	178	190	188	194	255	309	307	315	303	300	353	315	-	2,089	-
計画	264	345	330	414	414	414	460	440	460	460	400	460	460	-145	3,541	-1,452
昨年度実績													0	315	0	2,089
開所日実績	22	23	22	23	23	23	24	23	24	26	22	26	24	-	207	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	1	203	4
昨年度実績																
請求利用者数	14	15	16	16	16	18	19	20	20	19	20	21	20		17.1	-
利用率	34.8%	38.7%	43.2%	40.9%	42.2%	55.4%	64.4%	66.7%	65.6%	58.3%	68.2%	67.9%	65.6%	-	50.2%	-
昨年度利用率													0.0%	65.6%		

II 概算収入

請求額		
生活介護	4,372,	200

※人員配置体制加算 I (2) 対応

単価

III 契約数

契約		件数
当月末契約数		21
当月新規契約		0
当月契約終了		0
待機者数		0

IV 職員配置

職種	基準	実員	換算	過不足	備考			
管理者	1	1	1	0	兼務			
サービス管理責任者	1							
支援員:福祉専門職	5	2	5.5	0.5	福祉専門職配置等加算			
看護師		1						
作業療法士		0						
管理栄養士		0						
栄養士		0						
支援員:その他		4						
看護師		0			常勤看護職員等配置加算			
医師	1	-	-	-	委託医			

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	岡山県強度行動障害研修から演習実施研修（介護塾）	実施済
5月	リスクマネジメント研修	実施済
6月	感染症予防研修	実施済
7月	救急法、介護を学ぶ会（介護塾）	実施済
8月	岡山県強度行動障害研修から演習実施研修	実施済
9月	介護を学ぶ会（介護塾）	実施済
10月	岡山県強度行動障害研修から演習実施研修・権利擁護（虐待）	実施済
11月	感染症予防研修	実施済
12月	介護を学ぶ会（介護塾）	実施済
1月	リスクマネジメント研修	実施済
2月	岡山県強度行動障害研修から演習実施研修	実施済
3月	介護を学ぶ会（介護塾）	実施済

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	お花見会	開催
5月	子供の日	開催
6月	アジサイ遠足	開催
7月		
8月	庄新町盆踊り大会	参加
9月	庄新町敬老会	参加
10月	庄新町文化祭	中止
11月	人権フェスタ庄	参加
12月	庄新町朝市	参加
1月	初詣	開催
2月	バレンタイン	開催
3月	ホワイトデイ	開催

クラシス

【事業所実施概要】

今年度は、各事業が新たな取り組みを行っている。各事業の取り組みは、売り上げを高める為、さらに工賃向上につながる取り組みであった。1年と短い期間であったが成果のある内容もあれば、道半ばの内容もあり、来年度継続が必要な事業もある。

新規利用者もGH利用者の関係もあり、今年度で7名と契約をしており、利用率も100%を超える数字になっている。

【事業計画】

番号	達成目標 (何を、どのレベルまで)	実施計画 (いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<ul style="list-style-type: none">利用者の生活安定のための、工賃確保、工賃向上○洗車<ul style="list-style-type: none">利用者が1人で出来る洗車作業工程の確立○カフェ<ul style="list-style-type: none">手作り、一手間を加える事でメニューの質を上げる。営業時間（日）を増やし、来客者を増やす。	<p>○洗車班</p> <ul style="list-style-type: none">アセスメントを行い、利用者が全ての洗車の工程を行う事が出来る仕組みを作る。支援者2名体制と利用者が1人で行う事が出来る体制で3班体制になる事で洗車台数を上げていく。 <p>○カフェ班</p> <ul style="list-style-type: none">イベント企画による商品単価の向上（デザートドリンク込み1,000円）グランドメニュー見直し、利用者の関われる商品を増やしていく。モーニング、テイクアウト商品、持ち帰りデザートなどの販売コトノハ厨房、倉敷学園厨房での仕事の機会創出	<p>→12月から洗車学校を実施し、新しい内容のアセスメントを行い、5名程度洗車班の候補を絞っている。</p> <p>→支援者2名体制は6月で終了、利用者も4名から1名になり、新たな洗車メニューを作ることにより、他事業から利用者の洗車移行を進め為に洗車学校を実施。</p> <p>→季節のイベント実施予定（クリスマス、新メニュー試作会）</p> <p>→リニューアルの準備中（パスタ：生麺使用、巻き寿司、オムライス）</p> <p>→スムージーの販売（夏季限定）、モーニング無し</p> <p>→倉敷学園厨房 未実施</p>

	<p>○環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗坂の敷地の草取り、剪定を行なう中で、技術の向上を図っていく。 <p>○ケーキ</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が1人で行う事が出来る作業工程の確立 <p>○内職</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット作業を減らし、高単価の作業の実施 	<p>○環境整備班</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回半日から実施し、回数を増やしていく。 <p><上東></p> <p>○ケーキ班</p> <ul style="list-style-type: none"> きびの国からの高単価商品販売 販売先の確保と増加 生産体制の改善 <p>○内職</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット作業を行う利用者がジャム作りに関わり作業の幅を広げる。 ペットフード作業を行っていき、より高単価の作業への移行。 	<p>→数を増やすことは出来ていない。秋以降は、草が生えない為、実施無し。</p> <p>→農マル園芸でのブルーベリー収穫、ジャム作り</p> <p>→清水白桃・ピオーネ・ブルーベリー・温州みかん：実施済み</p> <p>→ペットフード作業：未契約 ポスティング：未契約 桃の箱折り：7、8月実施</p>
2	暮らしを豊かにするために必要な支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 作業技術（机の拭き方など）を上げる為の SST を毎日休憩後に行う。 対人販売、接客技術（挨拶、お辞儀の仕方など）を向上する為の SST を朝礼前に行なう。 安心して作業を行う事が出来るよう必要に応じての個別相談の実施（全利用者対象）。 	<p>→毎日実施中（12：45～13：00の間に）</p> <p>→毎日実施中</p> <p>→必要に応じて実施</p>
3	<p>切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり</p> <p>① 栗坂地区、上東地区での地域づくり</p>	<p>① 地域に出向き交流を図る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗坂地区 清掃、おしゃべり会、お祭り 上東地区 清掃：隨時、クラシスカフェ 幼稚園、保育園、小学校、中学校との交流：信号点灯式、庄ふれあい祭り、花植え等にて実施、人権推進委員会に参加：隨時、共同生活援助との合同企画イベント：8/25 	<p>→定期的に参加 クラシスカフェ (8/25、3/29) 上東地区愛育委員、民生委員との交流</p>

	<p>②社会との接点が希薄な人に対し中間的就労場を提供する（グループで3人以上）</p> <p>③地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築</p>	<p>②中間的就労の場の提供</p> <p>③拠点ミーティング（発達支援事業グループとチームプレイ）月1回 グループ会議前週水曜日 10:30～12:00 ひろば栗の家（認知症カフェの運営） 毎月第2火曜日 10:00～12:30</p>	<p>→11月説明会 12月事業所登録 1月受け入れ実施予定</p> <p>→実施中</p>
--	---	---	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス</p> <p>① 給休暇取得率50%以上 (当該年度付与分)</p> <p>② 定時退社を常態化するため、定時退社データを設定（週2回以上）し、業務改善を実行する</p> <p>③ 様々な作業をフォロー出来る体制づくり ・手順書の作成 ・作業マニュアル (業務の標準化)</p>	<p>①全職員が有給休暇取得希望を事前申請（4月初め）。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成（4月末し、計画的に取得する</p> <p>② 業務改善提案事項を集計し表彰する（7、11、3月）グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する</p> <p>③ 各事業の手順書作り ・キヤップ中心にした事業体制作り ・事業の枠を超えてお互いを支える体制作り</p>	<p>→職員有給取得率10%未満 計画通りに実施出来ていない。</p> <p>→定時退社を設定するが、定時退社は時短職員が多い、送迎等で業務が押し、出来ない日が多い。</p> <p>→手順書は、6月に完成しているが、作業内容の変更で新しい内容を作る必要あり。</p>
2	<p>安定した支援の提供体制を整えるための人材確保（グループで5人/年）</p> <p>①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる</p> <p>②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする</p>	<p>① 実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる</p> <p>②毎月1回以上スタッフブログを更新</p>	<p>→岡山県立大学学生2名、美作大学1名</p> <p>→実施中。カフェでは、フェイスブックも作成している。</p>

3	職員間交流を通して、人財の定着を図る ① 職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする ② 職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減	①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う ②2回グループ内でサークル活動を実施	→4月1名、10月1名実施、12月5名実施 →未実施
4	職員が法人の方針を理解できる仕組み	① 職員会議で経営会議等の内容を職員に伝達する。	→毎月会議にて報告

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の実施 ① 防災訓練を実施後、記録を取り、職員、利用者の意識の向上 ② 委員会、防火管理者が年間計画表を作成し、推進する	① 避難訓練（火災、地震、津波など）の実施 (栗坂地区 毎月1回実施) (上東地区 3ヶ月に1回実施) ② 防災会議を毎月実施 管理者・防災担当者	→計画的に実施 (12月、2月) →不定期実施 →8,9月実施
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供（手順書の整備）	・契約書・重要事項説明書の見直し（4月） ・苦情解決フロー図の作成・提示（4月） ・サービス管理責任者マニュアル作成（9月）	→実施済み →実施済み →未実施。
3	利用者の健康を守る、持ち込まない・持ち出さない感染症予防 ① 手洗い・うがい等の利用者支援を通しての取り組み ② 感染症予防や対応方法を学ぶ ③ 食品を扱う為、食品の	①個人に適した方法で、食事前・外出後・トイレ後の手洗い、また、うがいや水分補給を行う。 ②感染症流行時期前による事業所内研修の実施 ③・毎日：手洗い、うがい、環境衛生	→毎日実施 →手洗いの仕方など朝礼時に毎日確認している。 →毎日実施

	事故を起こさない環境整備	・毎月：検便検査 ・定期的：衛生に関する勉強会	→毎月実施 →クラス会議で定期的実施
--	--------------	----------------------------	-----------------------

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	事業所から全利用者へ配布：12月、回収：1月、フィードバック：2月 結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表	→調査実施済み
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	① 契約（内容変更も含む）時に苦情解決受付、解決責任者を周知、重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明 ② 意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しがループウェアやグループ会議にて水平展開する	→掲示済み →その都度回覧し、周知している
3	ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上 ① 情報共有をするための新アセスメントシートの活用と見直し ② 工賃規定の見直し ③ 実践発表の基軸として設定	① アセスメントの実施 アセスメントシートの見直し（7月） ② 就労継続支援B型共通の部分と各事業における項目の策定 ③ 実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う 実践発表担当者	→アセスメント（4月：実施済み、9月：実施済み） →隨時見直し →未実施 →各事業と共同で作成し実施済み

【施設整備計画】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	上東地区の環境整備（将来を見越した改築、改修）	上東地区の2階の活用方法（果実加工）を決め、改修	→計画不十分の為、未実施

2	栗坂地区の環境整備(カフェのイス、机の増設)	カフェの機能を高める為レイアウトの変更等を行う A型事業所に必要な環境を整える	→新メニューに合わせレイアウトを変更していく →A型事業所に向け、利用者を増やす、工賃を上げる、栗坂の利用者の居場所の確保等実施
3	洗車事業を行う場所の整備	雨天でも洗車を出来る環境整備(屋根、壁の設置)	→計画不十分の為、未実施

【利用者数・職員配置計画】

平成 29 年度 3 月予算実績管理表

事業所名: クラシス

責任者名: 小林 章伸

I 利用者動向

■就労継続支援 B 型

定員 20 名

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	456	472	456	470	473	451	475	441	458	474	411	484	484	-	5,521	-
計画	484	506	484	506	506	484	506	441	506	440	506	506	506	-22	5,875	-354
H28 年度実績	432	453	453	462	456	421	450	411	434	456	400	435	435		5,263	
H27 年度実績	498	497	487	511	503	471	502	456	480	452	434	451	451	33	5,742	-221
開所日実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	-	269	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	0
H28 年度実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	23	23	23		271	
請求利用者数	27	27	26	27	28	25	28	25	25	31	27	32	32		27.3	-
利用率	103.6%	102.6%	103.6%	102.2%	102.8%	102.5%	103.3%	100.2%	99.6%	103.0%	102.8%	105.2%	105.2%	-	102.6%	-
H28 年度実績	98.2%	98.5%	103.0%	100.4%	99.1%	95.7%	97.8%	93.4%	94.3%	99.1%	90.9%	94.6%	94.6%	10.7%	97.1%	5.5%
H27 年度実績	113.2%	108.0%	110.7%	111.1%	109.3%	107.0%	109.1%	103.6%	104.3%	98.3%	103.3%	98.0%	98.0%	7.2%	106.3%	-3.7%

【年間研修計画】事業所内研修に限る

4月	職員会議 (事業計画)	済み
5月	就労継続支援 A型について勉強会	済み
6月	就労継続支援 A型 見学	未実施
7月		
8月	工賃向上 勉強会 (各事業の内容を検討)	済み
9月		
10月	経営勉強会 (コンサルタントの講習)	済み

11月		
12月	防災について	済み
1月		
2月	虐待防止について	済み
3月		

【年間行事計画】

4月	入社式、花見	済み
5月	庄中学校 交流	未実施
6月	招待ボウリング	済み
7月	クラシスカフェ	8月に実施
8月		
9月	幼稚園、保育園 交流	信号点灯式にて実施
10月	日帰り旅行	3月に実施
11月	クラシスカフェ	3月に実施
12月	クリスマス会	忘年会を兼ね実施
1月	初詣	最上稻荷参拝
2月	節分	未実施
3月	歓送迎会	済み

やさい畠クムレ

【事業所実施概要】

工賃向上を目標に作付面積を広げている。広げて収穫量は増えたが、B級品が多く、売り上げ増には至っていない。年度末で農場の売上げ収支がマイナスになり、改善が必要になる。自然農法を取り入れているが、タマネギの栽培に留まり、大きな成果は出でていない。

送迎に時間の時間が課題であり、1月から職員が増え、送迎の問題が少し解消している。職員が増え、次年度の野菜の作付けを増やすことが出来ている。

【事業計画】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	年間総売り上げ 180 万円を目標とする	<p>① 月毎の売り上げ管理を行ない、月単位で農作物生育状況と、目標達成率の確認を行う。</p> <p>② 自然農法と 6 次化産業に取り組む</p> <p>③ 総社特産商品(レトルトカレー)の箱詰め内職と販売に取り組む</p>	<p>① 収支の管理をしているが、マイナスから黒字に転化しなかった。</p> <p>② 自然農法研修参加し 11 月にタマネギを定植。6 次化産業への取り組みは、安納芋チップスを作るが、改良点が多い。</p> <p>③ 2 回/月のペースで実施(500 個/回)</p>
2	利用者のアセスメント(就労を含む)を行い個々に合った支援を展開する為の仕組みをつくる	就労系事業所に即したアセスメントシートを作成し、毎月職員が振り返りを行い職員会議で是正する	アセスメントシートを作成し、毎月職員会議で報告し、改善をしている。
3	<p>① 切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり</p> <p>② 社会との接点が希薄な人に対し中間的就</p>	<p>① 奇数月に開催される自治会への参加(管理者または職員)</p> <p>② 行政(相談機関)などから情報を得て足がかり</p>	<p>① 自治会への参加は、継続し、出席し情報交換をしている。</p> <p>② 総社市社会貢献活動推進協議会入会。見学受け入</p>

	<p>労場を提供する（グループで3人以上）</p> <p>③ 農業指導員を地域の方から得て作付け及び工賃に反映させる</p> <p>④ 地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築</p>	<p>をつくる（毎月）</p> <p>③ 総社市役所、地食べ公社と調整する（毎月）</p> <p>④ 拠点ミーティング（発達支援事業グループとチームプレイ）月1回 グループ会議前週水曜日 10:30～12:00 チーフ以上 ひろば栗の家（認知症カフェの運営）毎月第2火曜日 10:00～12:30 専門職等で担当</p>	<p>れ実施。</p> <p>③ 備中県民局農業指導員による作付け計画と管理指導を受けた。 市、地食べ公社と調整継続中。</p> <p>④ 未実施。</p>
--	--	--	--

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス</p> <p>① 有給休暇取得率50%以上（当該年度付与分）</p> <p>② 退社時間の安定化の為の業務内容を見直し、仕事量の適正化をはかる。</p> <p>③ ワークライフバランスを推進する為の仕組みの構築</p> <p>④ 法人の仕組みを理解できる仕組みづくり</p>	<p>① 全職員が有給休暇取得希望を事前申請（4月初）勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成（4月末）し、計画的に取得する</p> <p>② 業務改善提案事項を集計し表彰する（7、11、3月）グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する</p> <p>③ 上半期までに統括、他事業所と調整し利用者送迎方法を変更する</p> <p>④ 毎月の職員会議で実施する</p>	<p>① 公休取得を優先させ、有給休暇の取得まで出来ていない。</p> <p>② 業務内容の見直し、効率的な仕組みの構築を継続しているが、農作業の関係等で退社時間の安定化には至らず。</p> <p>③ 年度途中は、職員が少なく送迎の改善は出来ていないが、1月に職員は配属され改善出来ている。</p> <p>④ 経営会議録、調整会議、拠点会議などで得た情報を毎月の職員会議で実施。</p>

2	<p>安定した支援の提供体制を整えるための人材確保(グループで5人/年)</p> <p>①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる</p> <p>②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする</p>	<p>①実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる 実習・ボランティア受入担当者、実習・ボランティア対応担当者</p> <p>②毎月1回以上スタッフブログを更新 広報担当者</p>	<p>①県立大学実習生2名受け入れ。 ボランティア受け入れ未実施。</p> <p>②担当者が年3回実施し、畑の様子、収穫している野菜などを発信した。</p>
3	<p>職員間交流を通して、人財の定着を図る</p> <p>①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする</p> <p>②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減</p>	<p>①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う</p> <p>②年2回グループ内でサークル活動を実施 全職員</p>	<p>①3名達成。</p> <p>②職員がソフトボールクラブに参加</p>

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<p>安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて</p> <p>①避難訓練を実施し10分以内に山手公民館に移動し安否確認を行なう</p>	<p>①3ヶ月に一度、総員で実施する。(計画に沿っての訓練と突発的な訓練(管理者が発令を行う)</p>	<p>①法人内合同訓練実施。その他は未実施。</p>
2	<p>事業所レベルで対応可能な環境整備を行い、防犯力向上にもつながる対策を行う。</p>	<p>毎月の職員会議で現状の問題点を抽出し、翌月の整備を行う。</p>	<p>環境整備の仕組みを作り、職員が意識するように取り組んだ。</p>

3	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躾)を事業所内に掲げ、安全・衛生の拠りどころとなる仕組みをつくる	毎月の職員会議で振り返りと是正を行い実行していく	会議だけでなく日々の業務で意識付けを行い、誠意整頓は出来たが、掃除は出来ていない。
---	---	--------------------------	---

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	事業所から全利用者へ配布：12月、回収：1月、フィードバック：2月 結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表 管理者	
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	<p>① 契約(内容変更含む)時に苦情解決受付、解決責任者を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明 管理者・サービス管理責任者</p> <p>② 意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する チーフ以上で発信</p>	<p>①各責任者の周知と掲示、重要事項説明書への明記実施済み。</p> <p>②会議や wawaOffice で周知している。</p>
3	ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上 ①情報共有をするための新アセスメントシートの活用と見直し ② 家族参加日を実施し	<p>①アセスメントの実施（4月、9月）全職員 アセスメントシートの見直し（7月）ワーキング担当者</p> <p>② 6ヶ月に1度</p>	<p>①4、9月実施済み。</p> <p>②5月、10月実施。</p>

	<p>活動の理解を深めて もらう</p> <p>③ 効率的な業務遂行の 仕組みづくりを行ない、常勤利用者工賃 10,000円/月を目指す。</p> <p>④ 実践発表の基軸として設定</p>	<p>③ 農作業の計画を立て、 予想収穫高、収益見込みなどを職員会議で振り返り、是正を行う。</p> <p>④ 実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う 実践発表担当者</p>	<p>③ 年間計画作成。 送迎時間短縮の仕組み。 効率的な農作業方法の取り組みを行っている。工賃の月目標は未達成。</p> <p>④ 他事業所と協力し進め、 実施済み。</p>
--	---	---	--

【施設整備計画】

番号	計画概要	実施内容
1	農福連携による地域社会貢献を目指し5箇所の耕作放棄地の借り入れを行い耕作地とする	借用し、耕作地として使用中。
2	施錠の補強	未実施
3	窓の補強	未実施

【利用者数・職員配置計画】

I 利用者動向

■就労継続支援 B 型 定員 20 名

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	275	267	313	306	323	313	321	307	327	317	297	342	342	-	3,708	-
計画	440	460	440	460	460	440	460	307	326	333	312	333	333	9	4,771	-1,063
H28 年度実績	274	269	279	278	261	256	249	248	239	248	239	262	262	80	3,102	606
H27 年度実績	221	228	239	243	209	204	211	195	192	196	213	253	253	89	2,604	1,104
閉所日実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	-	269	-
閉所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	0
H28 年度実績	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	23	0	269	0
利用率	62.5%	58.0%	71.1%	66.5%	70.2%	71.1%	69.8%	69.8%	71.1%	68.9%	74.3%	74.3%	74.3%	-	69.0%	-
H28 年度利用率	62.3%	58.5%	63.4%	60.4%	56.7%	58.2%	54.1%	56.4%	52.0%	53.9%	59.8%	57.0%	57.0%	17.4%	57.7%	11.3%
H27 年度利用率	50.2%	49.6%	54.3%	52.8%	45.4%	46.4%	45.9%	44.3%	41.7%	42.6%	53.3%	63.3%	63.3%	11.1%	49.1%	19.8%

■農作業収入

単位:

千円

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	2	41	68	135	134	124	95	118	34	43	60	128	128	-	981	-
計画	50	100	220	250	250	250	200	118	100	120	120	100	100	28	1,878	△897
H28 年度実績	51	15	91	98	81	36	46	67	142	51	76	64	64	64	818	163

【年間研修計画】事業所内研修に限る

4月	トラクター・管理機講習	実施
5月	人権・倫理についての勉強会	法人内研修参加
6月	農福連携(自然農法)の勉強	7月:研修に参加
7月		
8月	社会貢献活動の勉強会	フードドライブ参加
9月		
10月	はれるやによる成年後見人制度の勉強会	11月に参加予定
11月	倉敷地域生活支援センターによる研修	実施済み
12月		
1月	虐待防止の勉強会	実施済み
2月	農福連携の勉強会	実施済み
3月		

【年間行事計画】

4月	入社式・花見	実施
5月	家族参加日・岡山スマイルーシブイベント	実施
6月	招待ボーリング・元気市	実施
7月		
8月	家族参加日	未実施
9月	元気市	実施
10月	吉備路ウォーキングラリーイベント	参加
11月	家族参加日・ハートフル総社イベント	家族参加日実施 ハートフル参加
12月	元気市	参加
1月	初詣	未実施
2月	家族参加日・総社吉備路マラソンイベント	家族参加日 マラソン 未実施
3月	合同バス旅行・送別会	バス旅行 実施 送別会 実施

なないろ

【事業実施概要】

事業所移転について、従来の事業所を構えていた地域から、年度当初はクラス2階へ移転、9月から栗坂へ移転し、事業所を構え、居宅介護事業を行った。

移転の経緯の中で、上東にて就労継続支援B型、共同生活援助の各事業所の事務所と併設になる中で、地域生活を送っていく中での居宅介護事業所の役割や職員間の情報交換を行う機会となる。栗坂移転後は、同一建物内の生活介護、放課後等デイサービスの事業を知るとともに、自宅や余暇（外出）の機会でしか関わる機会や時間がない利用者の方のその他の場面での生活状況や職員からの情報を知ることができる機会となっている。

その上で、「自立」、「尊厳」、「ハビリテーション」の支援観を重視した切れ目ない支援の実現に向け、居宅支援事業において求められている支援や関係機関との関わりを重視しながら、取り組みを行った。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	チームプレイでの利用者支援。 ①地域移行、GH利用開始をヘルパー事業所の立場からバックアップ ②事業所内情報の共有（ヘルペースケジュール共有化）	①-1 支援会議、アセスメントに基づき、移行者のニーズに応じた当事業所のサービスを提案。利用に結びつける（既存の法人内利用者について2名） ①-2 地域で開催される連絡会議への参加。希望者に対しヘルパーの体験利用等の機会を提供し、地域での暮らしを後押しする。（年度内に2名） ①-3 法人内の家族会、勉強会に出向き、居宅介護事業所の役割についてPRする機会を設ける（希望事業所で1回以上） ②-1 電子媒体等も含め検討（四半期毎で進捗状況を確認）	①-1 法人内・外に限らず担当者会議やケース会議に出席。必要に応じ支援者から相談員へサービス担当者会議の開催を依頼・呼び掛け。 ①-3 なないろ移転に伴い、家族会等で事業の内容や職員の動き等についての説明を実施。 生活介護職員会議でも説明を実施。 ②登録ヘルパーの勤務・業務の見え

	③コトノハを中心とした倉敷拠点事業所とのチームプレイ、職員協力体制の構築	③-1 移転に伴う相乗効果を得る。 (管理者は毎月、コトノハ職員会議へ出席し発言する。2~3ヶ月毎に1回 合同での職員会議の実施を提案する)	る化や整理を行うも次年度にかけての課題でもある。 ③次年度の拠点の方向性等について、合同で実施。
2	人権倫理・権利擁護の視点 ①人権倫理・権利擁護についての勉強会(職員で共通した認識をもつ)	① サービス提供場面で気になる点についてピックアップし、四半期に一度程度事例検討を実施	単独での訪問支援が主であるため、毎月の職員会議にて、気になるケース、困難ケースについて挙げ職員間で情報共有や助言をもらっている。
3	地域活動 切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり ①地域情報の収集(地域資源情報を利用者に提供する) ②社会との接点が希薄な人に対し中間的就労場を提供する (グループで3人以上) ③地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築	①地域資源に関する情報について収集し、可能なものに関しては事業所ブログで月一回公表し、1月を目途にリーフレットにまとめる。 ②ガイドヘルパー講習会を案内し、ガイドヘルパーとしての活動を提案。 ③拠点ミーティング (発達支援事業グループとチームプレイ) 月1回 グループ会議前週水曜日 10:30~12:00	①各利用者の相談支援専門員や併用事業所から情報提供・共有を行い、生活の全体像を掴んでくようにした。 ブログやリーフレットの作成・発信等は未実施。 ②参加 ③年間計画に基づいて実施
4	①複合型(多機能型事業所コトノハ)のメリットが生きる体制作りと人財育成	①生活介護との兼務職員を育成、配置。日中から引き続いて生活の場が一体的に支援できる職員を育成する。(多機能に対応できる契約ヘルパー1名を新規	新規の採用等には至らず。切れ目ない支援を行っていく上で、多機能型としての勤務や働

		に採用)	き方の工夫は今後も課題である。
--	--	------	-----------------

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	<p>ワークライフバランス</p> <p>①有給休暇計画的取得 取得率50%以上(当該年度付与分)</p> <p>②退社時間の安定化のため業務内容を見直し、仕事量の適正化をはかる</p> <p>③育児休暇取得職員のバックアップ</p>	<p>①-1 全職員が有給休暇取得希望を事前申請(4月初め)。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成(4月末)し、計画的に取得する</p> <p>②-1 業務改善提案事項を集計し表彰する(7、11、3月)グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する</p> <p>③-1 育児休暇取得者に対する、バックアップ体制をとる。(6月中旬までに協力体制について決定する)</p> <p>③-2 事業所内の職務分担についても見直し(6月中旬までに見直しを実施)</p>	<p>公休消化を前提としたヘルプ業務の組み方が課題として残る。</p> <p>キャンセル等になった時間帯を休みに充てるなど、日々変化のある業務形態の中で工夫を図る。</p> <p>職員の家庭環境や状況に応じて、受ける支援依頼の調整や対応者の調整・配慮を行った。</p>
2	<p>安定した支援の提供体制を整えるための人材確保(グループで5人/年)</p> <p>①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる</p> <p>②ホームページでの魅力発信により、就活者へア</p>	<p>①実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる 実習・ボランティア受入担当者、</p> <p>②毎月1回以上スタッフブログを更新 広報担当者</p>	<p>居宅事業所へのボランティアの希望はなし。コトノハ(生活介護)への実習生等に対して、切れ目ない支援を行っていく上で居宅支援の重要性、役割を説明。ブログ等の更新、未</p>

	ピールする		実施。
3	<p>職員間交流を通して、人財の定着を図る</p> <p>①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする</p> <p>②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減</p>	<p>①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う</p> <p>②年2回グループ内でサークル活動を実施</p>	<p>・居宅への受けなし。同一敷地内へ体験職員へ、多機能型の役割や業務内容等についての説明を実施。</p> <p>②同一建物内職員との情報共有や話をする機会を設けた。</p>
4	職員が法人の方針を理解できる仕組み	①経営会議、拠点会議、事業グループ会議の内容について、職員会議で周知（月一回）	毎月の職員会議等にて、管理者から報告。

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて</p> <p>① 地域で暮らす利用者への災害時の対応について検討。</p>	<p>①-1 地域情報の収集と併せて実施する（年度末に成果物を公表）</p>	<p>B C P作成は同一敷地内の事業所とともに作成。単独住まいの契約者等については、職員会議や相談員との情報交換にて緊急時等の対応等について検討</p>
2	<p>交通安全</p> <p>① 車両事故の予防</p>	<p>①-1 運転免許証の確認（年一回）</p> <p>①-2 運転許可者の運転する車両に同乗する機会を設け、安全運転のポイントを再確認する（1人につき年一回※事故発生時には報告書提出後必ず実施）</p>	<p>支援に出る前の安全点検等を実施。事業所所有の車両の状態により、業者への修理・点検を依頼。</p>

3	<p>支援手順の標準化</p> <p>①基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供（手順書の整備）</p>	<p>①-1 上半期までに、生活支援の手順書（食事、排泄、入浴）を作成・見直しを行い、10月末に研修を行う</p> <p>①-2 利用者宅において安全衛生について気になる点を抽出し、対応策をとる。</p> <p>（職員会議の際、発表）</p>	<p>居宅訪問契約者等については、居住環境や衛生面等、職員会議や相談員との情報交換にて緊急時等の対応等について検討</p>
---	---	---	---

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	<p>利用者ニーズを正確に反映したサービスの提供</p> <p>①業務の標準化(事業所内のルール等の改善課題について)</p>	<p>①-1 アセスメント様式を見直し、必要な情報を保持し、支援に活かす。</p> <p>①-2 行動援護については「支援計画シート」を対象者分完備(上半期までに全利用者分)</p> <p>①-3 情報共有の方法を統一した様式(福祉の森等)に集約する。</p> <p>①-4 チームプレイを可能にしていくため、法人内で標準的に用いられている方法をリサーチしてそれに統一していく。必要に応じ、グループ内にも改善提案を行なう。</p> <p>(四半期毎に課題集約していく。四半期毎に一点を目標に改善を行なう)</p> <p>①-5 利用者からの意見表明(苦情解決の仕組み等)の機会</p>	<p>①法人内サービス利用の方については、作成されたアセスメントシートを参考に、併用利用者の情報共有の機会等で擦り合わせを実施。</p> <p>実践に関しては、地域連携のテーマにおいて、余暇支援等の事例をもつて参加。</p>

	<p>②サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）</p>	<p>を担保するため、イラスト等を用いて、説明できるように整える（今年度中）</p> <p>①-6 業務の標準的水準について、手順書を作成する（ヘルパー手引きの見直しを年内）</p> <p>①-7 実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p> <p>②-1 契約（内容変更も含む）時に苦情解決受付、解決責任者を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明</p> <p>②-2 意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する チーフ以上で発信</p>	<p>②移転に伴う必要書類やポスター等の書類に関して、掲示、配布等行つた。</p>
2	<p>職員のレベルアップ</p> <p>①常勤職員への研修。制度改正への対応</p>	<p>①-1 法人内研修への出席率向上（開催日情報を早目に収集し、勤務調整するなどして対応）</p> <p>①-2 法人外研修への参加（一人年一回。行政、県社協開催の研修を中心に派遣）</p> <p>①-3 サービス提供責任者については強度行動障害支援者養成研修実践研修を受講（平成29年度実施分）</p> <p>①-4 研修の成果について</p>	<p>①-123 研修、講習に参加 職員会議等で復命。</p>

	<p>②登録ヘルパーへのフォロー</p>	<p>は、参加後、報告し、その共有を図る(参加後1ヶ月以内)</p> <p>②-1 支援に必要な情報の提供(ヘルパー座談会実施の際に資料など手交)</p>	<p>②ヘルパー座談会を実施</p>
3	<p>利用者目線に立ったサービスの見直し</p> <p>①利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する</p>	<p>①-1 事業所から全利用者へ配布:12月、回収:1月、フィードバック:2月 結果公表</p> <p>①-2 ホームページや事業所便り等にて公表</p>	<p>①生活介護の職員会議の際に同時に伝達。併用者も多いため、満足度、改善点などを共有。</p>

【施設整備】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	事務所移転 (退居・現状復帰費用含む)	・未定(6月の移転実施時 新たに必要な設備物品あれば購入)	8月末で完了
2	車両入替	助成(日本財団・JKAなど 申込検討)	修理・点検を行っており、新車両整備はなし
3			

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向															単位:人	
■居宅介護																
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
居宅介護	509.5	524.5	443.5	523.0	512.5	493.5	528.5	473.5	473.5	464.0	366.5	483.0	483.0	-	5795.5	-
行動援護	112.0	119.5	107.0	97.5	119.0	109.5	125.5	113.5	105.0	99.5	98.5	95.0	95.0	-	37.5	-
重度訪問介護	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	5.0	0.0	6.0	5.5	0.0	0.0	-	1301.5	-
実績合計	621.5	650.0	550.5	620.5	631.5	618.0	654.0	592.0	578.5	569.5	470.5	578.0	578.0	-	7134.5	-
居宅介護	545.0	545.0	545.0	545.0	545.0	545.0	545.0	510.0	500.0	480.0	220.0	220.0	263.0	6025.0	-229.5	
行動援護	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	110.0	120.0	120.0	110.0	110.0	110.0	-15.0	60.0	-22.5
重度訪問介護	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	-5.0	1400.0	-98.5
計画合計	670.0	670.0	670.0	670.0	670.0	670.0	670.0	625.0	625.0	625.0	335.0	335.0	243.0	7485.0	-350.5	
居宅介護	518.5	572.5	552.0	561.0	551.0	520.8	531.0	543.3	535.5	523.0	477.0	527.5	527.5	-44.5	6413.1	-617.6
行動援護	80.5	128.5	129.5	79.5	107.0	90.5	89.0	116.0	96.5	114.5	114.0	123.5	123.5	-28.5	48.0	-10.5
重度訪問介護	0.0	6.0	0.0	5.0	11.0	4.0	4.0	0.0	6.0	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	1269.0	32.5
H28年度実績合計	599.0	707.0	681.5	645.5	669.0	615.3	624.0	659.3	638.0	643.5	597.0	651.0	651.0	-73.0	7730.1	-595.6
居宅介護	640.5	549.5	673.5	649.0	578.0	630.5	501.5	620.5	513.5	625.0	590.0	542.0	542.0	-59.0	7113.5	-1318.0
行動援護	128.5	151.5	117.0	132.5	139.5	150.0	126.0	132.5	131.0	79.0	106.5	106.5	106.5	-11.5	29.0	8.5
重度訪問介護	0.0	13.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1500.5	-199.0
H27年度実績合計	769.0	714.0	790.5	788.5	717.5	780.5	627.5	762.0	644.5	704.0	696.5	648.5	648.5	-70.5	8643.0	-1508.5
開所日実績	30	31	30	31	31	31	31	31	29	28	31	31	31	-	365	-
開所日計画	22	23	22	23	23	22	23	22	31	31	28	31	31	0	301	64
■移動支援															単位:人	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異	累計月	差異
実績	207.5	189.0	187.5	179.5	227.0	157.5	183.5	109.0	150.5	151.0	125.0	167.5	167.5	-	2034.5	-
計画	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	220.0	160.0	160.0	160.0	150.0	160.0	160.0	7.5	2330.0	-295.5
H28年度実績	194.0	182.5	213.5	207.0	181.5	202.0	195.0	189.5	193.0	191.0	178.0	247.5	247.5	-80.0	2374.5	-340.0
H27年度実績	235.0	229.5	224.5	224.0	191.0	233.5	232.0	212.0	201.0	193.0	191.5	229.0	229.0	-61.5	2596.0	-561.5
開所日実績	30	31	30	31	31	30	31	31	31	29	28	31	31	-	364	-
開所日計画	30	30	30	31	31	30	31	31	31	31	28	31	31	0	365	-1
■福祉有償運送 → 円単位で入力すること															単位:千円	
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計			
実績	57	50	53	52	55	50	61	49	51	40	42	43	602			
計画	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480			
H28年度実績	56	107	59	61	56	52	70	63	58	52	35	122	793			

【年間研修】(コトノハ行事計画より)

実施月	研修項目	実施内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月	防災非常持ち出し袋の使い方	避難訓練、事務所整理
10月		
11月		
12月	感染症予防、汚物処理の実践	座談会にて実施。看護師による講習
1月		
2月	利用者の自己決定について	コトノハサービス管理責任者より
3月	次年度の法人、拠点の方針	コトノハと同日に実施

【年間行事】(コトノハ行事計画より)

実施月	行事項目	実施内容
4月		
5月		
6月		
7月		
8月	お祭り（あしたばと合同）	あしたば納涼大会時、行動援護対応
9月	防災に備えて講演と炊き出し	
10月	クラコトフェスティバル	行動援護対応し、イベントに本人と参加
11月	栗坂地域の清掃	
12月		
1月		
2月		
3月	新年度体制説明	

倉敷地域生活支援センター

【事業実施概要】

地域共生社会の実現に向け、利用者のエンパワメントを引き出す支援、家族支援としての情報提供から親亡きあとの事について考えていただけるよう支援を行う。地域に対しては町内会や地域のキーパーソンとなる方々との勉強会を実施。徐々に啓発活動から勉強会等の受入れや積極的活用をしてくださる場所が増えてきている。また、地域自立支援協議会としては倉敷市内に基幹相談支援センターを設置し、倉敷市・早島町における地域生活支援拠点の整備に向けて体制整備を開始している。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	支援内容の共有と各ケースにおけるスーパーバイズを行える力を身に付ける(利用者、家族、地域支援の視点を入れて)	①毎週金曜の朝礼後に新規ケースや検討が必要なケースに対しての職員会議にてケース検討を行う。(月1回) ②各種(法人内、事業所内、外部)研修への参加を行う。	①概ね実施 ②法人内は実施完了。法人外に関しては協議会を始め様々な研修への積極的参加を行っている。
2	利用者の権利を守る支援を行う ①支援計画に本人、家族、地域のエンパワメントの視点を入れ、PDCAで見直しを行う。(各対象者設定期間による) ②NPO法人はれるやとの連携により成年後見制度の活用を広める。 ③自立支援事業G内の事業所(あしたば、GH、クラシス、やさい畑、コト	①-1 計画書(I型相談、計画相談)、モニタリング(計画相談)に記入 ①-2 次年度サロンイベントに対する企画提案を利用者含め行う(1月) ②理事会等の運営に参画 ③各事業所1回参加し、相談支援、地域生活の社会資源(フォーマル・インフォーマル)についての説明を行う	①-1 実施済 ①-2 年間行事に沿って実施済 ②参加済 ③GH、クラシス、やさい畑に関しては予定していた家族会が

	ノハ) で行われる家族会への参加し、地域移行を行う。		未実施の為不参加。その他事業所は参加済。親亡き後等について座談会。
3	<p>切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり</p> <p>①高齢者支援センター（庄エリア3センター）のケアマネ交流会への参加、交流を行う。</p> <p>②社会との接点が希薄な人に対し中間的就労場を提供する（グループで3人以上）</p> <p>③地域を面で支える体制づくりのため、倉敷拠点化に向けた法人内の強固なチームプレイの構築</p> <p>④自立支援協議会の各専門部会や各種研修会への参加を行い、関係機関との関係性の構築を行う</p> <p>⑤地域住民に向けた障がいについての啓発活動を行う</p> <p>⑥生活困窮者支援を他機関連携で行う。</p> <p>⑦近隣との関係性構築に努める。</p> <p>⑧地域移行促進を行う。</p>	<p>①頻度は当該センターの計画に従い参加</p> <p>②サロンイベントで職場見学を行う（年1回）</p> <p>③自立・発達倉敷拠点サービス調整会議への参加 ひろば栗の家（認知症カフェの運営）毎月第2火曜日 10:00～12:30 専門職等で担当</p> <p>④各専門部会や協議会主催の研修会へ参加・企画運営を行う（月1回～年3回）</p> <p>⑤くらしきフォーラムの運営、発達障がい者支援フォーラム、菅生学区コミュニティ祭への参加 (各年1回)</p> <p>⑥生活自立相談センターの生活困窮者支援調整会議への参加（年2回）</p> <p>⑦町内会の川掃除（4月）全職員での近隣清掃（月1回）</p> <p>⑧市内精神科2病院での患者交流会や病院内ケース検討へ参加し、地域の社会資源の情報</p>	<p>①参加済</p> <p>②実施済</p> <p>③参加済</p> <p>④参加済</p> <p>⑤参加済 1,820名の参加</p> <p>⑥該当ケース無のため不参加</p> <p>⑦実施済</p> <p>⑧毎月参加済</p>

		提供を患者、病院へ行う。 (各月 1回)	
4	サロンでの社会参加 単なる居場所にせず、社会参加への通過点、地域交流の場とする。	①地域との交流イベントの開催 (7月末) ②毎月社会体験できるようなイベント企画を行う(月2回 調理・外出) ③サロン連絡会 (I型6か所)へ参加し、サロン活動の促進を行う。 (8月、2月)	①B B Q実施 ②実施済 ③参加済

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス ①有給休暇取得率50%以上(当該年度付与分) ②退社時間の安定化のための業務内容を見直し、仕事量の適正化を図る。	①有給休暇取得希望を事前申請(4月初め)。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成(4月末)し、計画的に取得する ②業務改善提案事項を集計し表彰する(7、11、3月)グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する	①年間計画は出来なかったが、定期的に使用している。 ②拠点として未実施
2	安定した支援の提供体制を整えるための人材確保 (グループで5人/年) ①実習生やボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる ②ホームページでの魅力発信により、就活者へ	①実習プログラム等に応じて丁寧な指導を行い、法人内他事業所も実習・見学先に取り入れる ②スタッフブログを更新(毎月1回以上)	①7月に川崎医療福祉大学より精神疾患を抱える学生を受け入れ ②実施済

	アピールする		
3	<p>職員間交流を通して、人財の定着を図る</p> <p>①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする</p> <p>②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減</p>	<p>①1年を通じて他事業所から3名を受け入れ、1日業務体験を行う</p> <p>②年2回グループ内でサークル活動を実施</p>	<p>①希望者なし</p> <p>②実施なし</p>
4	ボトムアップできる環境設定と統一した管理体制のPDCA	<p>①各職員との面談を行い、現状の業務把握に加え、法人の方針を理解する（月1回）。</p> <p>②管理職を除いた職員での事業所運営や相互の業務に対する課題を協議する場を設定し、職員会議にて提案を行う（月1回）。（発達障がい者支援C合同7月、11月、3月）</p> <p>③各自、参加研修の事業所内報告の実施（月1回）</p> <p>④管理職の話し合いの場を設定し、課題に対しては確認・改善を行う（月1回）。（発達障がい者支援C合同7月、11月、3月）</p>	<p>①毎月は出来ず。概ね3か月ごとに実施。</p> <p>②相談業務手順書を作成</p> <p>③朝礼内での報告、資料回覧での周知</p> <p>④毎月実施済</p>

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて	<p>①事業所単位での災害時避難訓練を行う（9月、3月）</p> <p>②AED使用に対する訓練を地域住民と行う。（セコムへ依頼）（3月）</p> <p>③菅生小学校と連携し、こども110番施設登録</p>	<p>①9月：防災センター訪問</p> <p>3月：法人全体で実施</p> <p>②地域と調整つかず未実施</p> <p>③登録済</p>

		を行う（4月）	
2	基本的な支援の標準化による安全・安心のサービス提供（手順書の整備）	①担当職員が職員会議で必要マニュアル検討を行い（9月まで） 各種マニュアル作成を行う（3月まで）	①手順書作成済
3	環境美化を行い誰でも訪ねやすい事業所にする	①3か月ごとに植木の剪定や季節の花を植え替え環境美化に努める	①季節に応じて実施済
4	利用者、家族、地域、関係機関に信頼される事業所運営を行う	①-1 I型相談の内規を作成（5月） ①-2 I型相談・計画相談に対して法人内部の監査を受け、法令遵守を行う（年2回）	①-1 未実施。市の地域活動支援センター要領を確認 ①-2 法人内で未実施

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	①事業所から全利用者へ配布：12月、回収：1月、フィードバック：2月 結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表 管理者	①実施済
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	①契約（内容変更時も含む）時に苦情解決受付、解決責任者、法人の方針等を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立て	①実施済

		<p>シートの配布、受付ボスターの掲示と説明</p> <p>②意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する</p>	②実施済
3	<p>ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上</p> <p>①情報共有をするための新アセスメントシートの活用と見直し</p> <p>②実践発表の基軸として設定</p>	<p>①-1 アセスメントの実施（受付、情報提供時）</p> <p>①-2 アセスメントシートの見直し（7月）</p> <p>②実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p>	<p>①-1 実施済</p> <p>①-2 7月に限らず、情報提供時に実施</p> <p>②拠点で実施</p>

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	AED の設置（法人全体で整備）	AED の設置と地域への情報周知、AED を活用した災害訓練の実施	法人全体で設置 町内の川掃除の際に時間をいただき、情報提供
2	サロンのバリヤフリー環境整備	入口段差の解消	施行済：後援会補助金
3	サロンのブレーカー容量改善	ブレーカー容量改善	未実施

【利用者数・職員配置】

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月		
5月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：精神科病院の入院形態
6月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：児童福祉サービス
7月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	時間の都合で未実施
8月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：介護保険について
9月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：福祉の雑学
10月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	検討事項多く未実施
11月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：共生型サービスについて
12月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	検討事項多く未実施
1月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：成年後見制度
2月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）	実施済：孤独死について
3月	職員会議内研修（勉強会・事例検討）・ AED 使用による訓練（セコム）	未実施

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月	お花見	実施済：酒津公園
5月	健康講座	実施済：足つぼ教室
6月	職場見学	実施済：かばや工場見学
7月	地域交流	実施済：B B Q
8月	スポーツ大会	実施済：菅生小体育館
9月	芸術月間	実施済：防災センター
10月	秋の旅行、菅生コミュニティ祭	実施済：広島観光
11月	くらしきフォーラム参加	実施済
12月	クリスマス会、発達障がい支援フォーラム	実施済：カラオケ
1月	初詣、防災の日、来年度に向けての茶話会	実施済：阿知神社
2月	後楽園芝焼き	実施済
3月	倉敷雛めぐり、防災教室	実施済

倉敷発達障がい者支援センター

【事業実施概要】

相談者の活躍できる場を見つけることに力を入れた。福祉サービスに限らない社会資源の情報収集を行い、情報提供を行った。また相談者が安定、継続して就労等できるよう相談者の所属先にも通った。関係機関との関わりを通して、発達障がい当事者の協力者を増やしていくことを目標とした。

研修情報など有益なものは事業所に分かりやすく掲示を行い情報発信を行った。

職員の業務負担を軽減するため、業務の見直しの話し合いはよく行ってきた。職員のワークライフバランスを保つため、今後も話し合いは続けていく。

【事業詳細】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	職員は人権倫理・権利擁護の視点を常に持ち、ニーズを的確に捉え、相談者と段階的に目標設定をし、自立に向けた支援を行う。	<p>①状況にあった目標設定をするため、ケース検討を行う。 (職員会議 最低月2回) 地域生活支援センターと合同の朝礼時の情報共有、意見交換（毎朝）</p> <p>②相談支援の力を養うため、各種（法人内、事業所内、外部）研修への参加を行う。</p> <p>③相談者のできるボランティアを事業所から依頼する。</p>	<p>①全職員→実施）職員会議は実施できているが、業務改善や研修内容打ち合わせ・報告などが多く、ケース検討に多くの時間を割けていない。朝礼は実施中である。</p> <p>②全職員→実施）職員は輪番で全員参加の就業支援研修は1名終了。その他業務に有効な研修に参加している</p> <p>③全職員→実施）簡易事務の内職を依頼した相談者6名。うち1名いきいきポイント登録。</p>
2	①障がいの有無に関わらず利用できる地域資源の発掘・ネットワークの構築。	<p>①相談者に応じた対応・関わりをお願いしてみるなど、発達障がいへの理解者を増やしていく。</p> <p>②新規事業所への見学を積極的に行う</p>	<p>①②全職員→実施）相談者に情報提供が出来るよう、情報収集できるようアンテナを張っている。新規事業所を訪問したり、所属の相談者にあつた関わりを事業所お願いしている。</p>

	<p>②発達障がいをはじめ、障がいについての理解・理解・望ましい関わりなどの情報発信を行う。</p>	<p>①発達障がいへの理解を深めてもらえるよう研修を行う。(目標年5回) ②第8回くらしき発達障がい支援フォーラム開催 ③第13回くらしきフォーラム開催</p>	<p>①全職員→実施) 研修は5回実施。 ②全職員→実施) 12/9に実施。シンポジウムでは職員がコーディネーターを担当する。会場外に当事者の声の展示、情報コーナーなど儲け好評であった。 ③全職員→実施) 11/12に実施。発達障がいのブースも設ける。</p>
3	<p>切れ目のない支援体制に向けた地域づくりと関係づくり</p> <p>①関係機関(相談機関、就労先、地域等)との情報交換、連携を密に行う。</p>	<p>①ケースでの関わりを通して、関係機関と情報交換を行う。 ②自立支援協議会の代表幹事会、全体会、各専門部会に参加し、関係構築をはかる。(年4回~12回) ③県発達障害者支援センターや市町Co.との各種会議への参加(年3~4回) ④ペアレントメンター連絡協議会や全体会、フォローアップ研修会に参加し、メンター活動の普及、支援体制の充実を図る。(年1~2回) ⑤福祉サービスに限らない地域資源の発掘とネットワーク作り ⑥当事者会への参加(年4回以上)</p>	<p>①全職員→実施) 配慮の必要なケースでは会議を開催している。 ②→実施) 担当を決め自立支援協議会の専門部会、代表幹事会等に参加し関係構築に努めている。 ③→実施) 4回参加。担当職員県センター、他市町Co.との各種会議に参加、情報交換を行った。 ④全職員→実施) 左の会に加え、昨年度実施された養成講座にもスタッフとして参加した。 ⑤全職員→実施) 情報収集のアンテナを貼り、気になるところへは見学へ行っている。 ⑥全職員→実施) 計画的に参加できておらず2回参加した。</p>
	<p>②法人内の倉敷拠点でのチームプレイを強化し、さらに地域とのつながり、関係機関との連携強化をはかる。</p>	<p>①拠点ミーティング(発達支援事業グループとチームプレイ) 月1回 グループ会議前週水曜日 10:30~12:00 ②ひろば栗の家(認知症カフェの運営)毎月第2火曜日 10:00~12:30</p>	<p>①担当職員→実施) 発達G、自立Gの会議参加で事業所や地域の現状課題について話し合っている。 ②担当職員→実施) 10月に参加</p>

	③近隣との関係性構築に努める。	①町内会の川掃除（4月） 全職員での近隣清掃（月1回）	①地域生活Cと合同で全職員→実施) 每月実施中
--	-----------------	--------------------------------	-------------------------

【働きやすい職場づくり】

番号	達成目標(何を、どのレベルまで)	実施計画(いつ、どのような方法で)	実施内容
1	職員の仕事とプライベートのバランスを考慮したワークライフバランス ①有給休暇取得率50%以上（当該年度付与分） ②退社時間の安定化の為の業務内容の見直し、仕事量の適正化をかる。	①有給休暇取得希望を事前申請（4月初め）。勤務表作成者が、有給休暇年間計画を作成（4月末）し、計画的に取得する ②業務改善提案事項を集計し表彰する（7、11、3月）グループ会議で報告し、提案をグループ内で水平展開する	①全職員→未) 計画作成できていない。各自有給消化できている。 ②全職員→未) グループ全体で実施していないため、実施できていない。事業所内では改善策を提案しあい、実施と改善を繰り返している。
2	安定した支援の提供体制を整えるための人材確保（グループで5人/年） ①法人内事業所にボランティアを積極的に受け入れ、採用に繋げる ②ホームページでの魅力発信により、就活者へアピールする	①ボランティアのできそうな方、希望者に案内をする。 ②スタッフブログを更新（毎月1回以上）	①全職員→実施) 問い合わせのあった方には事業所だけでなく法人内で活躍していただけそうな場所を紹介している。 ②広報担当者→継) 2ヶ月に1回の更新頻度にとどまっている。
3	職員間交流を通して、人財の定着を図る ①職員交換研修により他事業所を知り、職員のキャリアデザインを描きやすくする ②職員間のコミュニケーション向上とストレスの軽減 業務効率化のためのルール作り ①事業所内でのルール作	①他事業所への1日業務体験を行う。 ②年2回グループ内でサークル活動を実施	①全員→倉敷学園、やさしい畑に実習へ行く。 ②全職員→未)

	り ②事務所内でのルール作り	同の管理職の話し合いの場を設定し意識統一と課題確認、対策の見直しを行う。年3回（7月、11月、3月）	11月に実施済。 ②-2 地域生活Cと合同でチーフ以上→実施) 7・11月実施済
4	職員が法人の方針を理解できる仕組み	①法人内会議報告を全職員にわかりやすく伝える。	①責任者→実施) 朝礼、職員会議の時間に実施中

【防災・安全・衛生計画の重点目標】

	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	安定したサービス提供を目的とした倉敷拠点における災害時事業継続計画の策定に向けて 有事の際の安全確保、迅速な対応の体制作り	①避難訓練の実施（9月、3月） ②AED使用に対する訓練を地域住民と行う。（セコムへ依頼）（3月）	①地域生活Cと合同で全職員→済) 9月に済。回数を増やすことも検討中 ②地域生活Cと合同で全職員→未) 実施できず。
2	緊急時等のマニュアルの見直し・改訂	担当職員が職員会議で必要なマニュアル検討を行い（9月まで） 各種マニュアル作成を行う（3月まで）	地域生活Cと合同で全職員→未) 副主任以上で話し合い済（11月）。改善策についての話し合いは出来ていない。
3	事業所内外の環境整備	事務所内は毎日 周辺は月1回全職員	地域生活Cと合同で全職員→実施) 毎月実施している。

【利用者満足の取り組み】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1	利用満足度調査の実施、集計、フィードバックし、次年度の事業計画へ反映する	①事業所から全利用者へ配布：1月、回収：2月、フィードバック：2月	①全職員→未) 今年度は、今後実施できるよう計画を細かく立案した。次年度より実施す

		結果や意見は家族会、ホームページや事業所便り等にて公表	る。
2	サービスの質の向上をめざし、苦情解決の仕組みの見える化と、苦情等に対しての原因究明と再発防止策の立案・実施、意見や要望等も含めた情報共有（水平展開）	<p>①インターク時に苦情解決受付、解決責任者を周知 重要事項説明書への明記（理解を得やすい資料別添）、苦情申し立てシートの配布、受付ポスターの掲示と説明</p> <p>②意見・苦情等を受けた時点で、個人情報やプライバシーに配慮しグループウェアやグループ会議にて水平展開する</p>	<p>①全職員 →未) →改定文書が整理できず、未実施。現在は文書改定済。30年度初めから配布を開始する。</p> <p>②苦情解決責任者→実施) 会議にて報告済。</p>
3	ニーズ（利用者・家族・地域）を把握するためのアセスメント力の向上 ①情報共有をするための新アセスメントシートの活用と見直し ②実践発表の基軸として設定	<p>①-1 アセスメントの実施（受付、情報提供時） ①-2 アセスメントシートの見直し（7月）②実践発表マニュアルスケジュールに準じテーマを設定し、実践・研究・QCを行う</p>	<p>①-1 全職員→実施) 当センターの新シート使用中。必要と判断した方や相談の優先順位を考慮した結果、全員には実施できていない。 ①-2 ワーキング担当者→実施済 ②実践発表担当者→未) 他事業所で担当</p>

【施設整備】

番号	達成目標（何を、どのレベルまで）	実施計画（いつ、どのような方法で）	実施内容
1			
2			
3			

【利用者数・職員配置】

I 利用者動向														
■訪問														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	22	34	28	28	23	30	33	14	25	13	15	25	25	-
計画	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	5	240
H28年度実績	31	42	28	34	28	26	34	26	21	21	24	33	-8	348
H27年度実績	42	33	37	29	26	38	37	35	43	35	26	43	-18	424
■来所														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	52	50	52	62	47	63	49	43	49	63	59	52	52	-
計画	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	12	480
H28年度実績	42	58	48	52	45	53	33	56	40	50	49	50	2	576
H27年度実績	62	49	66	62	48	39	57	62	44	53	43	40	12	625
■電話														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	61	47	68	53	47	63	48	52	55	66	58	65	65	-
計画	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	30	420
H28年度実績	34	32	53	40	39	56	44	59	32	60	47	50	15	546
H27年度実績	63	89	57	51	50	37	47	35	29	48	42	33	32	581
■機関コンサルテーション														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計画	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	-1	4
H28年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H27年度実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■調整会議														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	17	14	12	12	16	13	18	15	13	12	16	14	14	-
計画	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	10	48
H28年度実績	5	7	10	6	12	10	12	11	7	9	5	10	10	4
H27年度実績	6	4	10	5	4	8	6	11	4	7	5	5	5	97
■個別支援計画作成														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	10	19	25	9	13	12	2	3	5	11	6	14	14	-
計画	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	-1	180
H28年度実績	19	17	25	20	17	19	12	17	11	17	12	12	12	2
H27年度実績	21	20	21	20	20	20	20	20	19	17	16	10	10	4
■研修														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	-
計画	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	-1	6
H28年度実績	0	0	1	2	1	0	1	0	2	0	0	2	-2	9
H27年度実績	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	5
■新規相談件数														
項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	該当月	差異
実績	18	12	9	17	9	18	14	23	11	23	14	12	12	-
計画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
H28年度実績	12	12	20	11	14	13	12	14	14	17	16	16	-4	171
H27年度実績	13	27	11	11	10	5	9	5	14	6	5	8	4	124
II 職員配置														
職種	基準	実員	換算	過不足	備考									
責任者	1	1	1	0										

【年間研修】

実施月	研修項目	実施内容
4月	職員会議内事例検討	実施
5月	職員会議内事例検討	未実施
6月	職員会議内事例検討	未実施

7月	職員会議内事例検討	未実施
8月	職員会議内事例検討	実施
9月	職員会議内事例検討	未実施
10月	職員会議内事例検討	未実施
11月	職員会議内事例検討	未実施
12月	職員会議内事例検討	未実施
1月	職員会議内事例検討	実施
2月	職員会議内事例検討	未実施
3月	職員会議内事例検討・AED 使用による訓練 (セコム)	AED 使用による訓練は、実施せず

【年間行事】

実施月	行事項目	実施内容
4月		
5月		
6月		
7月	地域交流	
8月		
9月	災害時避難訓練	地域生活支援センターと合同で実施。
10月		
11月	くらしきフォーラム	11/8 川崎医療福祉大学で実施。
12月	発達障がい支援フォーラム	12/9 くらしき健康福祉プラザで実施。
1月		
2月		
3月	防災教室・災害時非難訓練	地域生活支援センターと合同で実施予定であったが、今年度は実施せず。

